

# 秋山氏館跡

—甲府市都市計画街路高畠町昇仙峡線建設工事に伴う発掘調査報告書—

2001

甲府市  
甲府市教育委員会

## 序

近年、私たちを取り巻く交通事情は年々悪化し、本市におきましても通勤・通学時間帯を問わず、中心街に向かう主要道路各所において慢性的な交通渋滞が起こっております。この度調査の運びになりました秋山氏館跡もそのような道路事情の中で、東西を結ぶ道路として期待されている都市計画街路高畠町界・仙峠線の建設工事に伴って発生した緊急発掘調査でございます。調査につきましては、計画街路の最後の一区間ということで地元、市民などから的一刻も早い開通を願う声もあり、本市都市整備部との協議を進める中で発掘調査と道路工事の調整をとりつつ発掘調査を進めました。

さて、秋山氏館跡の所在する高畠は、甲府市の中西部、荒川の右岸に位置し、昔から甲府方面と身延方面をつなぐ交通の要路ともなっている場所でございます。しかしながら、甲府市南部から南西部一帯は、多くの河川が入り組み、昔は大規模な氾濫の被害を受けていた地域という印象があり、この度調査を実施致しました高畠も、荒川の氾濫のために遺跡はあまり残されていないのではないかと見られてきました。

ところが実際に調査してみると、人々が大地に刻み込んだ溝や建物の柱跡、生活で使用した様々な道具など貴重な資料が多数発掘されました。この遺跡の名称ともなっております秋山氏の居館に関わると考えられる堀、小規模土塁、建物跡なども検出され、江戸時代前期に屋敷を画していた溝跡からは、漆椀や箸などの木製品を始め、土器・陶磁器など多くの生活道具がまとまって発見されました。また、平安時代と考えられます巨大な溝跡も発見されました。

調査した中には洪水の痕跡も確認されましたが、災害に遭い、苦闘しながらも平安時代から現代に至るまで連綿と続いた人々の営みが発掘調査によって確認され、改めて先人たちの労苦と努力に頭の下がる思いが致しました。現代に生きる私たちも、過去の人々の英知に学び、よりよい環境・社会の形成に向けて尽力してまいりたいと考えております。

最後になりましたが、調査にあたりまして地元自治会をはじめ、関係各位に大変な御理解と御協力を賜りました。心より御礼申し上げますとともに、本市文化財保護行政の更なる推進に引き続き御助力をいただけますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

平成13年3月

甲府市教育委員会

教育長 金 丸 晃

## 例　　言

1. 本書は山梨県甲府市高畠一丁目地内に所在する秋山氏館跡の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、甲府都市計画街路高畠町昇仙峡線拡幅工事に伴う調査であり、甲府市教育委員会が主体となり実施した。
3. 試掘調査は、志村憲一（文化財主事）が担当し、平成11・12年度発掘調査は、佐々木満（文化財主事）・山崎雅恵（富山大学人文科学系研究科修了）が担当した。
4. 現地調査の期間及び調査面積は以下の通りである。

A地区	平成11年6月21日～平成11年12月3日	調査面積約480m <sup>2</sup>
C地区	平成11年12月6日～平成11年12月28日	調査面積約80m <sup>2</sup>
B地区	平成12年7月21日～平成12年10月17日	調査面積約280m <sup>2</sup>
B地区拡張区試掘調査	平成12年12月20・21日	調査面積約10m <sup>2</sup> 合計850m <sup>2</sup>
5. 本書の執筆は、佐々木満・山崎雅恵が分担し、文末にそれぞれの文責を記した。図化作業は中村里恵・栗田かず子を中心に行った。
6. 国上座標の設置は株日測、航空写真測量は㈱シン技術コンサルにそれぞれ委託した。
7. 出土した金属製品、木製品の保存処理は勧帝京大学山梨文化財研究所に委託した。
8. 本書の編集は、市瀬文彬（文化芸術課長）を責任者とし、佐々木満が行った。
9. 本書に係る出土遺物及び記録図面、写真などは甲府市教育委員会で保管している。
10. 発掘調査及び報告書の作成にあたっては、次の諸氏及び機関から御指導・御協力を賜った。記して厚く感謝申し上げる。

山梨県教育委員会学術文化財課 勧帝京大学山梨文化財研究所 高畠中部自治会  
高畠南西自治会  
秋山輔正　岡野秀典　川道　亨　鈴木　稔　成田涼子　内藤かおり　新津　健  
橋口定志　萩原三雄　畑　大介　平野　修　藤沢良祐　堀内秀樹　水本和美  
森原明廣　山下孝司  
(敬称省略)

### 調査・整理参加者及び協力者

(発掘調査)	荒木昭彦	雨宮英郎	飯室久美恵	岡　悦子	小沢菊太郎
	小沢四郎	岸本美苗	栗田宏一	栗田かず子	小池孝男
	小池幹子	小宮通子	坂本しのぶ	佐田金子	佐田　昇
	清水公子	末木義光	鈴木竜司	高添美智子	塚原澄子
	中村孝一	花曲敬子	樋口　進	平出俊男	藤森善広
	藤森美那	保坂邦雄	三井裕一郎	渡辺　茂	
(東京大学)	児嶋貴行	斎藤拓弥	酒井有里佳	高橋大地	根岸　洋
	初鹿野博之	平山大地	松本貴智		
(国学院大学)	神庭さつき				
(室内整理)	飯室久美恵	岡　悦子	長田由美子	倉田勝子	栗田かず子
	小池幹子	小林明美	小宮通子	坂本しのぶ	関本芳子
	武井美知子	高添美智子	知見寺照子	塚原澄子	平沢則子
	舟木照子	渡辺百合子			

## 凡　　例

- 現地調査における地区割りはX—39295・Y6015ラインを基準として5mグリッドを設定している。
- 本書付図中に掲載した地図は、平成3年度甲府都市計画図2500分の1・10000分の1を用いた。
- 遺構断面土層の色調及び遺物観察表中の色調は、「標準土色帖」(農林水産省農林水産技術会議事務局監修 1997後期)に基づいている。
- 本書に記載した方位は真北を基準としている。
- 全体図・実測図の縮尺は、図中に示した通りである。
- セクション図に表記されている水平線の数値は、海拔高度を表し、単位はmである。また、セクションポイント表記のE・W・S・Nは東西南北を表し、同じ遺構で複数の断面観察を行っているところはアルファベットで表記している。
- ピット・土壌・出土遺物に関する詳細情報は、各観察表を参考にされたい。
- 本書作成に際して引用・参考にした文献は一括して文書最後に記載した。
- 本書に使用した記号マーク及びスクリーントーンは以下のとおりである。



木



骨



焼　土



須恵器



灰釉陶器

# 目 次

## 序

### 例 言

調査・整理参加者及び協力者

## 凡 例

## 目 次

挿図・挿表目次

## 第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 試掘調査と基本層位	1
第3節 調査の方法	1
第4節 調査の経過	2

## 第2章 秋山氏館跡の概要

第1節 遺跡の立地	4
第2節 歴史的環境	4

## 第3章 遺構と遺物

第1節 堀跡	7
第2節 土塁跡	7
第3節 水溜状遺構・埋甕	8
第4節 建物跡・柱穴列	8
第5節 溝 跡	10
第6節 土 壁	14
第7節 集石造構	20
第8節 井 戸 跡	23
第9節 竪穴状遺構	24
第10節 出土遺物	25

## 第4章 考 察

第1節 古 代	93
第2節 中 世	94
第3節 近 世・近 代	98

## 第5章 結 語

引用・参考文献	104
写真図版	105~114

## 挿図・挿表目次

図 1 調査区域とグリッド配置図	3
図 2 秋山氏館跡周辺遺跡分布図	6
図 3 1号堀跡・1号土壙跡	27
図 4 1号堀跡・1号土壙跡・1号・2号水溜状造構・1号埋甕	28
図 5 1号・2号建物跡・1号柱穴列	29
図 6 3号・4号建物跡	30
図 7 5号建物跡・2号・3号柱穴列	31
図 8 5号・7号・8号・11号・12号溝跡	32
図 9 6号建物跡・1号～4号・6号溝跡	33
図10 9号・10号溝跡	35
図11 13号・17号・20号・21号溝跡	36
図12 1号石垣・14号・15号溝跡	37
図13 18号・19号溝跡・60号土壤	38
図14 18号・19号・22号溝跡・60号土壤土層断面図	39
図15 1号～16号土壤	40
図16 17号・19号・21号・23号～33号土壤	41
図17 36号～43号・45号～52号土壤	42
図18 53号～56号・58号・61号～69号・71号・72号・79号土壤	43
図19 18号・20号・22号・44号・57号・59号・73号・76号～78号・80号～83号土壤	44
図20 34号・35号・70号・74号・75号土壤・1号～3号集石造構	45
図21 4号～10号・13号集石造構	46
図22 11号・12号・14号～16号集石造構・1号～4号井戸跡・1号竪穴状造構	47
図23 2号～6号竪穴状造構	48
図24 1号堀跡出土遺物(1)	49
図25 1号堀跡(2)・1号土壙跡出土遺物	50
図26 1号・2号・7号～10号・13号(1)溝跡出土遺物	51
図27 13号(2)～15号(1)溝跡出土遺物	52
図28 15号溝跡出土遺物(2)	53
図29 15号溝跡出土遺物(3)	54
図30 15号溝跡出土遺物(4)	55
図31 15号溝跡出土遺物(5)	56
図32 15号溝跡出土遺物(6)	57
図33 15号溝跡出土遺物(7)	58
図34 15号溝跡出土遺物(8)	59
図35 15号溝跡出土遺物(9)	60
図36 15号溝跡出土遺物(10)	61
図37 15号溝跡出土遺物(11)	62
図38 15号溝跡出土遺物(12)	63
図39 17号・18号(1)溝跡出土遺物	64
図40 18号溝跡出土遺物(2)	65
図41 18号(3)・19号(1)溝跡出土遺物	66
図42 19号溝跡出土遺物(2)	67

図43	19号溝跡出土遺物(3).....	68
図44	19号(4)・22号(1)溝跡出土遺物.....	69
図45	22号溝跡出土遺物(2).....	70
図46	22号溝跡出土遺物(3).....	71
図47	1号～3号・6号・7号土壤出土遺物.....	72
図48	11号・18号・22号・24号～27号・29号・30号土壤出土遺物.....	73
図49	30号・34号土壤出土遺物.....	74
図50	35号・44号・53号・54号・57号・61号(1)土坑出土遺物.....	75
図51	61号(2)・62号・65号・73号・74号土壤、1号・2号集石造構出土遺物.....	76
図52	2号・3号・5号～8号・10号・12号～15号集石造構出土遺物.....	77
図53	1号・2号井戸跡、1号・4号・6号竪穴状造構出土遺物.....	78
図54	ピット出土遺物、金属製品.....	79
図55	調査区一括.....	80
図56	22号溝跡想定図・秋山氏館跡中世造構変遷図.....	97
図57	秋山氏館跡近世造構変遷図.....	102
図58	15号溝跡陶磁器一覧・碗皿产地別割合.....	102
図59	甲府城関係遺跡出土土鍋島.....	102
表1	ピット・土壤観察表.....	81～83
表2	出土遺物観察表.....	84～92

[付 図]

- 秋山氏館跡航空写真測量全体図 1  
 秋山氏館跡航空写真測量全体図 2

# 第1章 調査の概要

## 第1節 調査に至る経緯

甲府都市計画道路・高畠町界-仙峠線（高畠工区）の開発工事に先立ち、平成10年10月2日付け、都発第10-11号により甲府市長名で本市都市整備部から周知の埋蔵文化財包蔵地秋山氏館跡の発掘調査が通知された。通知を受け、平成10年10月12日～21日まで試掘調査を実施し、平安時代から近代に至る遺構・遺物が良好な状態で包蔵されていることが確認されたため、平成11年度から本調査を行うこととなった。

しかし、調査着手時点では調査対象地区中央部分の用地が未買収であったために、全体を3分割する形で西側をA地区、中央部をB地区、東側をC地区とし、平成11年度にA・C地区、平成12年度にB地区的調査を段階的に実施した（図1）。

調査対象となる計画道路予定地は東西約70m、南北約15mで、面積約1050m<sup>2</sup>であるが、現地は民家が隣接し、既存道路は道幅が狭く交通量も多い。そのため対象面積すべてを調査することは危険であると判断し、隣接地からやや引いたところで調査を実施した。C区については、調査区北側に防火水槽が埋設されていたこともあり、調査面積は大幅に狭いものとなった。したがって、最終的な調査面積は約850m<sup>2</sup>である。

## 第2節 試掘調査と基本層位

試掘調査は、当初は地下の状況把握を目的に、人力で2m四方のグリッド5か所を掘削した。結果的に複数の時代の遺物とともに遺構の存在が確認されたため、トレンチによる確認作業に移行した。表土は重機により掘削を行い、確認面以下は人力により掘削及び確認作業を行っている。試掘ではA地区で60m<sup>2</sup>、C地区で10m<sup>2</sup>の面積を調査し、ビット・溝跡・水溜り遺構等を検出するとともに、地形が南側へ緩やかに傾斜している状況が把握された。遺物も平安時代のものを中心に、近世・近代まで出土することが確認された。

本調査地区的土壤は、基本的に砂質で、粘性が弱い。言い換えれば水の浸透性・速乾性に優れた土壤である反面、保水性・耐水性が弱いといった特徴がある。基本層位は、表土から約60cm前後のレベルで暗褐色砂質土が覆い、直下に洪水によると考えられる粗粒砂層が5～10cm程度堆積している。下層は黒褐色砂質土が微妙に変化しながら堆積し、断面中で3面ほど遺構面を確認できた。

土層堆積状況から、遺構面は近世で2面、中世で1面存在することが想定され、上層の近世面から調査することとし、最終的に中世面までの調査を目標とした。

## 第3節 調査の方法

平成11年度の調査対象であるA・C地区については、6月21日から面積的に規模の大きいA地区的調査に着手し、終了後速やかにC地区的調査を実施した。試掘調査の成果に基づき、重機により概ね粗粒砂層レベルまで全体の掘削を行った。砂層は広範囲に確認されたものの、主に調査区中央から南側に限り堆積が認められた。また、南側も帶状に砂層が途切れていたことから、土壟状の高まりの存在を確認した。よって、この段階から人力による調査へと移行した。B・C地区的調査においても重機による掘削レベルは、A地区的調査成果に基づいて設定し、上層の変化に応じて隨時掘削作業を進めた。

甲府市においては、近年本格的な調査が市内各所で行われているため、他遺跡群との関連性を考える上で共通の方向性を持たせる必要性があると考え、X・Y座標で計算された国土地標による基準杭を導入した。調査区内外は木杭により5m四方の碁盤目状のグリッドを設定し、北から南へA～Iまでのアルファベットと、西から東へ1～15までの算用数字を付して表記した(図1)。各グリッドは北西隅にあたる杭を基準とし、グリッド番号はアルファベットと算用数字を組合せたものを名称として用いた。遺構実測、遺物取り上げに際しては、すべてグリッドに合わせて記録した。個々の遺構は平面形態の確認後、ピットなど小型の遺構は半蔵、土壙など大型の遺構は二分法、或は四分法を用い、断ち割りによって断面観察を行った後、完掘した。

#### 第4節 調査の経過

##### 平成11年度(A地区・C地区)調査

A地区(調査期間:1999.6.21～1999.12.3)

- 6月21日 重機による表土除去を開始。平行して精査、遺構確認。  
6月22日 1号壠跡確認。  
6月29日 重機による表土掘削終了。全体精査。中央に上層観察用ベルトを残す。  
7月5日 1号土壙跡、根石列確認。  
7月6日～18日 雨等による天候不順のため作業中断  
7月22日 1号壠跡、1号土壙跡検出。  
8月2日 東京大学・国学院大学学生調査参加。  
8月3日 1号壠跡掘削開始(部分調査)。調査区杭打ち。グリッドを設定する。  
8月9日 甲府市内の小学生発掘体験。  
9月9日 検出した幕末～近代遺構の全体撮影。  
10月22日 重機による壠跡の掘削開始。中央に残したベルトを除去。  
10月23日 墓際の杭列検出。午後、地元住民を対象に遺跡見学会を行う。参加者約70名。  
10月25日 シン技術コンサルによるA地区1回目の航空写真測量を実施。  
10月26日 遺構検出面下層の精査及び掘削開始。  
10月27日 集石墓群の調査を開始。  
10月29日 ピット、土壙新たに検出、随時掘削。  
11月16日 22号土壙跡検出、掘削。  
11月19日 山梨文化財研究所 畑大介氏来訪。  
11月20日 1号土壙跡下より新たに集石墓を検出。  
11月22日 A地区2回目の航空写真測量を実施。  
11月26日 山梨文化財研究所 畑大介氏来訪。22号土壙墓の骨を取りあげる。30号土壙及び13号溝跡の存在を確認し掘削。  
12月1日 豊富村教育委員会 岡野秀典氏来訪。  
12月2日 秋山氏館跡A地区の調査を終了する。  
12月3日 事務所等後片付け。

##### C地区(調査期間:1999.12.6～1999.12.28)

- 12月6日 重機による表土剥ぎ及び人力による掘削開始。全体精査。  
12月7日 近代の水溜めを検出。この他ピット、土壙を検出。隨時掘削。  
12月8日 調査区杭打ち。グリッド設定。

- 12月15日 74号・75号土壌の骨を検出。
- 12月16日 山梨文化財研究所 畑大介氏来訪。
- 12月17日 平行して工事立会を行っていたA地区より石組み井戸を検出。C地区のピット群はほぼ完掘終了。C地区1回目の航空写真測量を実施する。
- 12月20日 造構検出面下層の掘削開始。精査、造構検出後、随時掘削。
- 12月21日 74号土壌の骨を取りあげる。
- 12月22日 75号土壌の骨を取りあげる。
- 12月28日 C地区2回目の航空写真測量を実施。平成11年度調査を終了する。

#### 平成12年度（B地区）調査

- B地区（調査期間：2000.7.21～2000.10.17）
- 7月21日 重機による調査区表土剥ぎを開始。
- 7月22日 表土剥ぎ終了。全体精査開始。
- 7月24日 調査区杭打ち。グリッドの設定。
- 8月2日 造構確認終了。土壌・ピット群の掘削を開始。
- 8月4日 調査区西壁において地境の石垣検出。
- 8月9日 15号溝掘削開始。
- 8月4日～18日 午後雷雨が続き、午前中の多くを現場の排水や復旧作業に費やす。
- 8月24日 豊富村教育委員会 岡野秀典氏来訪。
- 9月1日 豊島区教育委員会 橋口定志氏、成田涼子氏、水本和美氏来訪。
- 9月7日 シン技術コンサルによる1回目の航空写真測量を実施。
- 9月12日 11日からの雨が記録的な集中豪雨となり現場全体が水没。
- 9月19日 18・19溝跡掘削開始。
- 10月5日 サブトレーナーを掘削し、22号溝跡の状況を把握。
- 10月12日 2回目の航空写真測量を実施。
- 10月17日 現場撤収。
- 12月20日 調査区南側の残地と既存水路解体部分の試掘。15・18・19溝跡延長を確認。
- 12月21日 試掘調査終了。

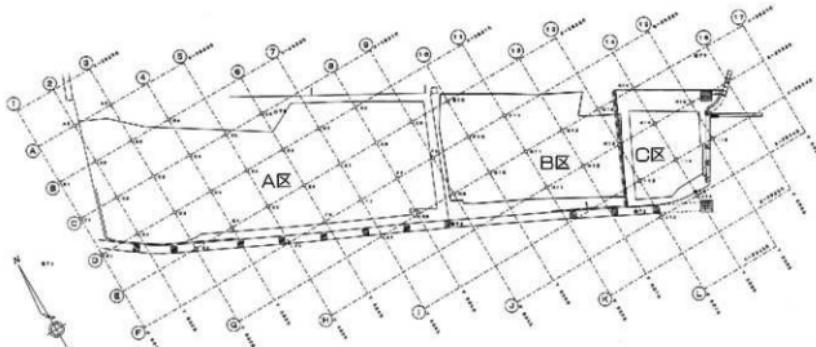


図1 調査区域とグリッド配置図

## 第2章 秋山氏館跡の概要

### 第1節 遺跡の立地

秋山氏館跡は、甲府市街地西部を南に流下する荒川中流域西岸の自然堤防上、標高265mに立地する。荒川は秩父山地を源に甲府盆地を南流する。流長34km、流域面積182km<sup>2</sup>、甲府市の主要河川であり、金石橋付近より西南方向に広がる荒川扇状地を形成し、市最南端の大津町で笛吹川と合流する。荒川は音羽橋付近から大井川の傾向を示し、これまで下流域一帯に多くの水害を引き起こしてきた。

秋山氏館跡の所在する甲府市高畠の地名は、文献史料には“高畠”として記載されており、周囲より比較的高地になっていたことからその名がついたといわれる。1997年度地形図をみると、遺跡は東西約100m、南北約130mの範囲に展開しており、現在は多くが住宅地となっている。

### 第2節 歴史的環境

秋山氏館跡周辺に所在する上石田B遺跡、宮北遺跡、大北河原遺跡、久保北河原遺跡などの分布状況からみると、河川により形成された自然堤防や微高地上に古くから集落が点在していた様子がわかる。上石田遺跡では縄文時代中期中葉から後葉にかけての3軒の住居址と大量の土器と石器が出土し、低地に営まれた縄文集落遺跡として注目を浴びた。他の遺跡はいずれも平安時代の集落と考えられ、平安期に新たな開発者による集落経営が展開されたものと考えられる（図2）。

甲府市域は、奈良・平安時代には甲斐国の大山梨郡・巨麻郡に属し、荒川が両郡の境であったともいわれる。現在でも設置された郷名を地名が多く残っており、高畠の一帯を、巨麻郡の東端にある青沼郷の一部とする見方もある。奈良時代には、高畠に治水の神を祀った住吉神社が勧請されたとの記録があり（『甲斐国志』巻ノ60）、水害の絶えなかった土地柄を窺うことができよう。

中世の高畠は、一条郷あるいは青沼郷の一部となり、甲斐源氏の庶流である一条氏の支族、高畠氏が治めていたといわれている（『甲斐国志』巻ノ95）。一条氏を最初に称したのは、武田信義の男、忠頼である。忠頼は甲府市中心部から南東にかけて展開していたと考えられる一条郷を本拠とし、一条小山の地（現甲府城跡）に居館を構え一条氏を称した。しかし、一時は鎌倉幕府と肩を並べるほどの勢力を誇った甲斐源氏も、勢力拡大を恐れた頼朝により忠頼以下板垣兼信、安田義定が次々と失脚させられる中で、一条氏の名跡は一旦途絶えてしまう。その後、忠頼の弟で頼朝の寵愛を受けていた武田信光の四男、信長が一条氏を名乗り、その子信行が高畠氏を称している。高畠氏は『一蓮寺過去帳』に記載があるが、以後の行方は明らかではない。戦国時代には、高畠で秋山越前守虎康の名がみられる。

秋山氏は一条氏と同じく甲斐源氏であり、加賀美達光の長男、光朝を祖とする一族である。光朝は山梨県甲西町秋山村を根拠とし、秋山氏を称した。秋山虎康は、武田信玄の次男竜室の付け人であったとの記録がある（『甲陽軍鑑』品第17・『甲斐国志』巻ノ109）。いつ頃から高畠に居住するようになったかは不明である。武田氏滅亡後、女子を穴山梅雪の養女として家康に献じており、越前守虎康の子孫は江戸幕府の旗本となっている。『甲斐国志』（巻ノ44）によると、かつて長慶寺という寺があり、高畠村南境の笠屋大神の宮守であ

ったが、洪水で罹災し北山筋に移転している。移転に際して、納められていた虎康の位牌も移したことが記載されているが、現在寺院の所在は不明である。

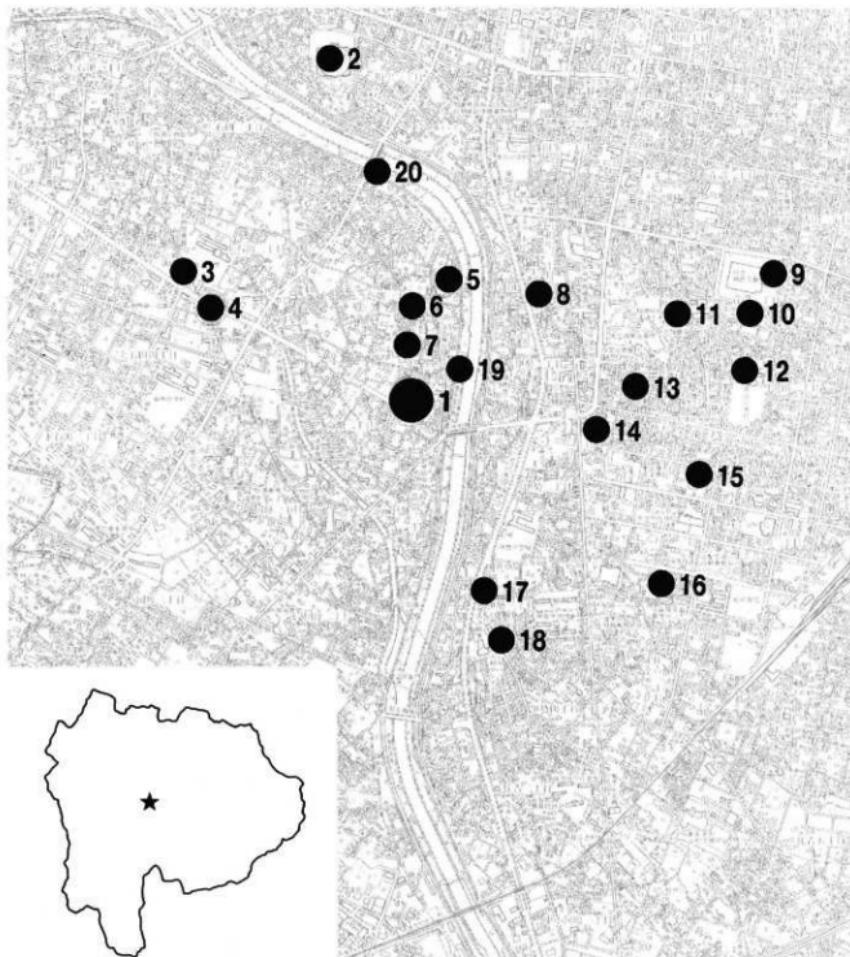
『甲斐国志』によると、高畠内には秋山虎康と別系統の秋山氏の存在も記述されている。武田信玄の重臣であり、織田軍によって美濃岩村城で刑死した秋山伯耆守信友の男、民部右衛門にゆかりのある秋山孫右衛門も高畠に居住していたことが記録されている（『甲斐国志』巻ノ109）。時期的には徳川幕府が成立する前後のことであり、武田滅亡後に出仕し、移封されたか、新たに士官として登用されたものか、どのような経緯で当地に居を構えることになったのかは不明である。

秋山孫右衛門は民部右衛門、莊兵衛、平太夫、兵助と相続した家系であるが、『甲斐国志』では孫右衛門は宝永2年（1705）には高畠に住すとある。何れにしても虎康の系統ではないと判断されるため、本遺跡は、民部右衛門に縁のある秋山氏の館跡ないしは屋敷跡であると推測されている。しかし、秋山輔正氏蔵の秋山家文書にある家系図及び万延元年（1860）に大和郡山の柳沢氏に出された奉公願書と『甲斐国志』の記載に異なるところもあるため、詳細は現段階では不明と言わざるを得ないが、秋山家文書によると、慶長10年には高畠に居を構えたことが記載されている。

武田氏滅亡後に入国した徳川家康は、武田家の旧家臣団、寺社、各郷村の所領安堵を行うと共に起請文を差しださせ、本格的な領国経営に着手している。高畠に関するものでは、天正10年（1582）11月20日に青沼助兵衛に本領の高畠において「高畠之内定物」として5貫文、同年12月3日には市川以清斎元松に本領として「高畠本在家」300貫文、12月12日には志村又左右衛門尉に本領として「高畠内塙屋分」18貫文を安堵している。「一蓮寺過去帳」に文明16年（1484）2月24日に高畠で「シホ屋」逆修と記載されているが、同一の塙屋であろうか。

高畠は甲府方面と身延方面をつなぐ交通の要路として古くから利用されていたらしく、一条小山あたりから南下し、「高畠の渡し」から荒川を渡り、高畠村から下石田を経由して駿州路西路に於ける旧身延路を利用するルートと、山梨郡西青沼村で甲州道中と分かれ、「西条渡し」を利用して荒川を渡り、高畠村と上石田村の境を南西に進み駿州路に至る河内道を利用するルートがある。

「高畠の渡し」は、古代・中世から使われていた古道と伝えられ、道沿いに高畠住吉神社がある。「高畠の渡し」に関しては秋山家文書や万延元年五月の高畠村議定書に渡しの維持管理を近隣の郷村で請け負っていた記録があり、生活に関わる渡しとして利用されていたものと思われるが、主に人の往来手段としての渡し舟であったようである。現在「高畠の渡し」は千秋橋、「西条の渡し」は荒川橋として利用されている。



- 1, 秋山氏館跡 2, 寿町遺跡 3, 上石田巳遺跡 4, 上石田遺跡  
 5, 久保北河原遺跡 6, 大北河原遺跡 7, 渋沢遺跡 8, 千松院遺跡  
 9, 青沼遺跡 10, 青沼三丁目遺跡 11, 太田町遺跡 12, 湯田一丁目遺跡  
 13, 伊勢町遺跡 14, 食糧工場遺跡 15, 幸町A遺跡 16, 幸町巳遺跡  
 17, 木俣遺跡 18, 般舟院跡 19, 高畑の渡し 20, 西条の渡し

図2 秋山氏館跡周辺遺跡分布図

## 第3章 遺構と遺物

2年度に渡る分割調査であり、かつ調査区中央部にあたるB区が最終の12年度調査となってしまったため、時期別または調査順を整理して遺構番号を付すことができず、遺構の性格等に応じて適時番号を付している。調査区全体で堀跡1、土塁跡1、水溜状遺構2、埋甕1、建物跡6、柱穴列3、溝跡22、土壙83、集石遺構16、井戸跡4、竪穴状遺構6、石垣1、ピット408が検出された。本文中にある重複関係で溝跡など大型の遺構についてはピットとの切り合い関係は省略している。また、出土遺物では図化可能であったものについては、番号を記載しているが、図化できないものもあるため、主な出土品のみを列記し、時期の明確なものについては具体的な年代を提示している。

### 第1節 堀跡

#### 1号堀跡（図3・4・24・25）

調査区西側A・B・C・D1～3を中心に検出された。堀跡は屋敷地の南西隅が検出されている。堀跡は江戸初期に秋山氏が屋敷地を造成した段階で掘削され、その後徐々に拡張が行われ戦後くらいまで高畠周辺の生活用水として機能していたようである。南北は調査区外へ広がるが、南端は「L」字形に東へ曲がり、既存道路と重複していく。屋敷地内に当たる東側には小規模な土塁が設けられているほか、護岸として木杭列が3列検出され、堀のラインの推移が確認された。西側は調査区外に立ち上がりがあると考えられる。総延長は不明であるが、堀幅は約8mと考えられる。堀跡は大きく4時期の変遷が確認され、1期には南端で大きく東へ屈曲し、既存道路方向に展開する。南には一部に1号石積が施される。2期には木杭に横板を波して1号石積以東を部分的に閉鎖し、流路の変更を行っている。3期には南北方向を木杭により直線的に改修し、隅部は完全に封鎖し、小規模な構造施設を設ける。4期の最終段階には3期の内側に木杭列を打ち流路を直線化し、調査区北側に淡水魚用の魚耕が設けられる。1期は江戸期、2期は幕末～明治、3期は大正、4期は昭和と考えられる。

重複関係：なし。

出土遺物：1～30。他土師器、須恵器等古代から近現代までの遺物多数。漆椀1点出土。

時期：近世初頭～現代。

### 第2節 土塁跡

#### 1号土塁跡（図3・4・25）

1号堀跡東から調査区南側にかけて確認された小規模な高まりで、調査段階では幕末～明治の洪水による砂層が土塁跡検出部分で帶状に途切れていたため確認できた。上部は削平されて基底部のみ検出されたため、全容は不明である。残存高さは北側で約3.20m、南側で5m、高さは残存高さで約0.3m程度であった。堀の形状に合わせて南東部は屈曲している。

重複関係：11号集石遺構、32・33号遺構を切る。

出土遺物：31～41。他に漳州窯系青花皿も数点含む。

時期：近世初頭～近代。

### 第3節 水溜状造構・埋甕

#### 1号水溜状造構（図4）

A区の調査区中央D 6グリッドから検出されたが、平面形はほぼ方形で、四面に木枕を打ち込んで横板を渡したもので壁面を補強していた。下層は粘土質の上が堆積しており、水が溜められていた状況が明確にわかった。

重複関係：2号溝跡を切る。

出土遺物：岡化遺物なし。かわらけ。

時期：近代。

#### 2号水溜状造構（図4）

C区南東隅から検出されたが、造構の平面形は隅丸方形で北・西側には丸太が設置されていた。南・東側は調査区外に展開しているため、全容は不明であるが、造構の立ち上がり部分には根による小さな穴が無数に確認されているため、立ち上がり部には生け垣が廻っていたと考えられる。

重複関係：21号溝跡を切る。

出土遺物：岡化遺物なし。在地土器、瀬戸美濃・肥前陶磁器、ガラス製品等。

時期：近代。

#### 1号埋甕（図4）

甕の体部から口縁部にかけてはすでに失われており、底部付近のみ出土した。中からはウリ科植物の種子も出土しているため、水甕というよりも廻造構である可能性もある。掘り方の径は約46cmである。

重複関係：なし。

出土遺物：岡化遺物なし。甕底部他、金属製品。

時期：幕末～近代か。

### 第4節 建物跡・柱穴列

#### 1号建物跡（図5）

C 4グリッド内で確認されている。ピット146・167には径約15cm前後の柱材が残存しており、柱間は南北約1.85m、東西約3.60mである。主軸は南北方向で、柱間は南北約1.90m、東西は3.40m・3.60mと東西が若干歪む。

重複関係：12号溝跡、30・35号土壤、4号集石造構を切る。

出土遺物：岡化遺物なし。ピットからは土師器等が出土。

時期：江戸期か。

#### 2号建物跡（図5）

D 6・7グリッド内で確認された建物跡で、主軸は東西方向である。柱間は東西約1.90m・2.30m、南北約2.20mである。

重複関係：1・2号溝跡に切られる。3号建物跡、2号柱穴列との重複関係は不明。

出土遺物：岡化遺物なし。ピットからは土師器等が出土。

時期：江戸期か。

### 3号建物跡（図6）

D 6・7グリッド内で確認され、1号建物跡同様ピット28・96・209からは径約15cmの柱材が検出されている。建物の主軸は南北方向で、柱間は南北が約1.90m、東西が約2.40m～2.50mである。

重複関係：1・2号溝跡に切られ、2号建物跡、2号柱穴列との重複関係は不明。

出土遺物：図化遺物なし。ピットからは土師器、肥前磁器が出土。

時期：江戸期。

### 4号建物跡（図6）

中世面の調査段階でD 7・E 7グリッド内において確認された建物跡で、主軸は南北方向で、柱間は南北が約2.10m・1.60m、東西約1.90m前後である。

重複関係：1・2号溝跡に切られ、28号土壙、2号井戸跡を切る。

出土遺物：図化遺物なし。ピットからは土師器等が出土。

時期：中世か。

### 5号建物跡（図7）

G 11グリッド内で検出された建物跡である。主軸は東西方向で、柱間には場所により違いがあるが、南北約2m前後、東西1.95m・2.70m前後である。

重複関係：4号竪穴状造構を切る。

出土遺物：図化遺物なし。ピット内から土師器等が出土。

時期：江戸後期か。

### 6号建物跡（図9）

A区南壁際付近で小石を集めて根石とした建物跡が確認されている。土壙跡の一部を利用しているためか、北側より一段高い場所で検出されており、秋山家に所蔵されている屋敷絵図内に描かれている長屋門の基礎と考えられる。

重複関係：8号溝跡、11・15・21・23・27・36号土壙、2・3・6・12号集石を切る。

出土遺物：なし。

時期：江戸後期から近代。

### 1号柱穴列（図5）

C 7・D 8グリッドにかけて確認された。柱列主軸は東西方向で、柱間は1.80m～2.10mである。

重複関係：1・3・7号溝跡に切られ、18号土壙を切る。

出土遺物：図化遺物なし。ピット内から土師器等出土。

時期：江戸期か。

### 2号柱穴列（図7）

D 6グリッド付近で確認され、主軸方向は南北で、柱間は1.90m・2.10mである。北側は調査区外に展開すると考えられる。

重複関係：1・2号溝跡、9号土壙に切られる。2・3号建物跡との重複関係は不明。

出土遺物：図化遺物なし。ピットから土師器等出土。

時期：江戸期か。

### 3号柱穴列（図7）

D 7・E 8 グリッドで確認され、主軸は東西方向である。柱間は1.70m～2.10m。

重複関係：4号建物跡と重複するが、前後関係は不明。

出土遺物：図化遺物なし。ピットから土師器等出土。

時期：中世～近世。

## 第5節 溝跡

### 1号溝跡（図9・26）

洪水により堆積した砂屑の除去後に検出された東西方向に延びる溝跡であり、長さ約25m、幅約1.20mである。平面形は所々で歪んでおり、西はC 4 グリッド内の土壘手前で終わっている。水の流れた痕跡はなく、聞き取り調査では近代に烟が存在していたことが確認されたため、烟の畠のようなものと考えられる。

重複関係：3号溝跡に切られる。

出土遺物：42・43。古代から近代までの遺物。

時期：近代。

### 2号溝跡（図9・26）

1号溝跡と並行して検出されている。中央で部分的に浅くなり途切れるが、長さは約26m、幅約1.40mである。西はD 4 グリッド内で終わっているものの、東は調査区外に延びている。やはり、水の流れた痕跡はなく、烟の畠と考えられる。

重複関係：3号溝跡、1号水溜状造構に切られる。

出土遺物：44～48。古代から近代までの遺物。

時期：近代。

### 3号溝跡（図9）

D 8 グリッド内で南へ屈曲し、E 8 グリッド内で止まっている。それ以降は搅乱と試掘段階で掘削されていることもあり確認できなかった。長さは約13m、幅約0.4m程度で、造構の性格は不明である。

重複関係：1・2・6号溝跡を切る。

出土遺物：図化遺物なし。他に土師器等。

時期：近代。

### 4号溝跡（図9）

東西約3.30m、幅約0.8mであり、1・2号溝跡と形状や方向が類似することから、烟の畠と考えられる。

重複関係：なし。

出土遺物：図化遺物なし。他に土師器等。

時期：近代。

### 5号溝跡（図8）

B 3・C 3 グリッド内の土壘跡基底部から検出された溝跡で、当初は木杭と横板が存在したため土壘の土留めと考えられたが、掘削したところ水の流れた痕跡が認められたため、溝跡として扱った。長軸は南北約6.70m、幅約0.5mであった。

重複関係：土壙を切る。

出土遺物：図化遺物なし。他に土師器、瓦等。

時期：19世紀以降。

#### 6号溝跡（図9）

D 8グリッド内で検出されたが、北側は攪乱により破壊されているため全体の規模や方向性は不明である。主軸は東西方向で約80cm、幅約30cmであった。

重複関係：3号溝跡に切られる。

出土遺物：遺物なし。

時期：近代。

#### 7号溝跡（図8・26）

C 7・D 7グリッド内で検出された溝跡で、北側は調査区外に延びていると考えられるが、南側は1号溝跡に切られたところで途切れている。主軸は南北方向で約4.30m、幅約1mである。

重複関係：1・2・3号溝跡に切られ、18号土壙を切る。

出土遺物：49～51。土師器、灰釉陶器少量。

時期：江戸後期か。

#### 8号溝跡（図8・26）

F 7・8グリッドにかけて検出されているが、F 8内で北側に屈曲し、弱く湾曲しながら調査区外に延びる。主軸は東西方向で約8.30m、幅約0.6mである。何らかの区画性のある溝跡と考えられる。

重複関係：11号土壙に切られ、3・6・12号集石造構を切る。

出土遺物：52～54。土師器、在地土器等。

時期：中世後半。

#### 9号溝跡（図10・26）

C 6・D 6・E 6グリッド内で検出され、主軸は南北方向で北側は調査区外に展開し、南側はE 6内で止まっている。検出された範囲で長さ約9.80m、幅は中央部分が狭まるため北側で約1.70m、南側で約2.20mである。堆積状況から水は常に溜まっていたと考えられるが、上層は人為的に埋め戻され、確認面上では硬化していた。

重複関係：1・2号溝跡、1号水溜状造構に切られ、22・29号土壙、8号集石造構、1号井戸跡を切る。

出土遺物：55～57。土師器、須恵器、灰釉陶器、瀬戸美濃陶器等小片多数。

時期：中世後半～近世初頭か。

#### 10号溝跡（図10・26）

B 4・C 5グリッド内の調査区壁際ににおいて検出され、北側半分は調査区外に展開していると考えられる。主軸は東西方向で約7.20m、幅約1.60mである。平面形は不整形で全体に浅く、自然流路と思われる。

重複関係：12・13号溝跡、30号土壙を切る。

出土遺物：58・59。土師器少量。

時期：近世か。

### 11号溝跡（図8）

調査区中央E 5 グリッド内で検出された。長軸は東西方向で約5.35m、幅約0.3m。8号溝跡が延長上に存在しており、何らかの関連があるものと考えられる。

重複関係：14・19号土壙に切られ、9号集石造構を切る。

出土遺物：岡化遺物なし。他に土師器少量。

時期：中世後半～近世初頭。

### 12号溝跡（図8）

C 4 グリッド内で確認されたが、南側は判然としなかったため全体を検出することができなかった。検出された範囲で長軸は南北方向で約5.50m、幅約0.3mである。

重複関係：1号建物跡に切られ、13号溝跡、30号土壙を切る。

出土遺物：岡化遺物なし。他に土師器、在地土器等。

時期：中世。

### 13号溝跡（図11・26・27）

C 4・D 4 グリッドにおいて調査終了間際に検出された。そのため南側については部分的に未調査のまま終了した。主軸は南北方向で30号土壙に北側を切られるため、残存していた範囲で長さ約3.50m、幅約0.8mであるが、調査区北壁30号土壙に切られた13号溝跡のセクションが確認できたため、溝跡は調査区北側に延びていたものと考えられる。また覆土上層には拳大から人頭大程度の砾まで多数の砾が投げ込まれていた。

重複関係：12号溝跡、30号土壙に切られ、22号溝跡を切る。

出土遺物：60～68。土師器、須恵器、灰釉陶器、在地土器、白磁、常滑、石製品等多数。

時期：15世紀～16世紀。

### 14号溝跡及び1号石垣（図12・27）

B区西壁際の1号石垣基底部から検出された溝跡で、主軸は南北方向で長さ約8.50m、幅約0.15mである。1号石垣の側溝と考えられる。1号石垣は割石などを2段程度積み上げているが、基底部には松材と思われる胴木を杭で押えながら渡し、その上から石を積み上げている。検出地点は調査区A・B区の境界であると同時に、昔の地境でもある位置で検出されたため、秋山氏屋敷と外部との区画する施設であったと考えられる。

重複関係：15・22号溝跡を切る。

出土遺物：69～71。在地土器、瀬戸美濃・肥前陶磁器。

時期：18世紀中葉から19世紀末。

### 15号溝跡（図12・27～38）

E 9・F 9・G 9 グリッドを中心検出され、主軸は南北方向で長さ約14.70m、最大幅約2.50mである。南側には部分的に石積が施されており、石積裏側にはもう1条の溝跡が確認されたため、15号溝跡は当初F 9・G 9 グリッド付近で東側に弱く屈曲しながら流れていたものを、ある段階で石積により封鎖し、新たに直線的な水路に改修したことが判明していた。したがって、調査段階では石積で封鎖された水路を旧路とし、直線の水路を新路として取り扱った。後日調査区南側の既存水路解体前に調査をしたところ水路の延長が確認され、旧路はそのまま南側に延びることが確認され、新路は西側に屈曲することが判明した。15号溝跡はA・B区の境界に位置するため、1号石垣が構築される以前の地境の溝跡と考えられる。また、同造構からは時期的に一括りの高い様な遺物群が出土している。

る。それについては、出土遺物第10節並びに考察を参照されたい。

重複関係：14号溝跡、3号竪穴状遺構、37号上塙に切られ、22号溝跡を切る。

出土遺物：72～302・593・594。他には中国青磁、木製農具、用途不明漆製品等多数。

時期：17世紀～18世紀初頭か。

#### 16号溝跡（全体図参照）

B区調査区南側で検出され、南側半分は調査区外に展開している。主軸は東西方向で長さ14m、最大幅0.7mである。全体図に記載されていないが、東側はC区まで延びていた。  
重複関係：3号井戸跡に切られ、17号溝跡を切る。

出土遺物：団化遺物なし。他に瀬戸美濃陶磁器、瓦少量。

時期：近代。

#### 17号溝跡（図11・39）

B区東側G13・H12グリッド内で検出され、平面形は不整形である。主軸は南北方向で長さ約9m、最大幅で約1.10mである。床面には無数の小さな穴が検出されたため、溝跡は生け垣の跡ではないかと考えられる。

重複関係：16号溝跡に切られ、22号溝跡を切る。

出土遺物：303～305。土師器、灰釉陶器、肥前陶磁器等少量。

時期：18世紀中葉以降。

#### 18号溝跡（図13・14・39～41）

主軸を南北方向に有し、調査区外南北方向にさらに延びている。15号溝跡に隣接し、北から南へ緩やかに傾斜しており、長さは検出した範囲で14.5mで、溝幅は北側が約1.80mに対し、南側がやや膨んで約2.20m前後である。土層堆積をみると、上層では水の流れた薄い砂層も數層確認できたため、雨水程度の流水があったと考えられるが、基本的に低い場所に水が溜まる程度であったと見られる。

重複関係：15号溝跡に切られ、60号土塙、19・22号溝跡を切る。

出土遺物：306～343・589。

時期：16世紀前半～17世紀初頭。

#### 19号溝跡（図13・14）

18号溝跡東に隣接して検出されたが、上層は無数の礫が充填されており、礫の中からは多数の窓石が出土した。主軸は南北方向で長さ約12.70m、最大幅約2.80mであり、F9・10グリッドに存在する60号土塙跡も19号溝跡に付随する施設であると考えられる。溝跡はB区試掘調査において延長が検出されたが、試掘調査区内で止まっていた。性格は不明であるが、何らかの区画溝であると考えられる。

重複関係：40号土塙、18号溝跡に切られ、61号土塙、22号溝跡を切る。

出土遺物：344～388・591・592。土師器、須恵器、灰釉陶器、在土器、常滑、石製品等。

時期：15世紀～16世紀。

#### 20号溝跡（図11）

B区北側から検出された溝。主軸は東西方向で長さ約9.70m、最大幅約0.9mである。水の流れた痕跡はなく、遺構の性格は不明であるが、何らかの区画溝と考えられる。

重複関係：19号溝跡に切られ、57号土塙を切る。

出土遺物：図化遺物なし。他に土師器、在地土器。  
時期：15世紀か。

#### 21号溝跡（図11）

H14グリッド内で検出され、主軸は南北方向である。長さは4.50m、幅約1mで底部は所々根穴が見られたため、生け垣ではないかと考えられる。

重複関係：62号土壙、2号水溜状造構に切られ、65・69号土壙、22号溝跡を切る。

出土遺物：図化遺物なし。他に土師器少量。

時期：江戸期か。

#### 22号溝跡（図14）

主軸を東西方向に有する22号溝跡は、平成11年度段階ではその存在は確認されたものの、規模や範囲については不明のままであったが、平成12年度B区調査において、サブトレントを入れ幅約9.20m以上の巨大な溝跡であることが判明した。総延長などは不明であるが、少なくとも調査区の約8割がこの造構が埋没した上に展開していくことになる。したがって、調査当初は旧河川ではないかとも考えられたが、堆積状況を見ると下層に砂層の堆積は見られるものの、礫等は含まれず、穂やかな水流が確保されていたことと、下層において明瞭に造構のラインが確認できたため、単なる自然水路ではなく人工的に造り出された水路であると判断した。下層からは甲斐型IX・X期の遺物を主体とした遺物群が出土し、中には墨書き土器も數点含まれていた。

22号溝跡はF11グリッド付近から立ち上がりが不明瞭となり、すぐ北側で22号溝跡からは軸が外れていく大きな落ち込みが検出された。中からは甲斐型XI期を主体とする土器群が出土したため、当初は22号溝跡を切る23号溝跡として扱ったが、22号溝跡内で南側の立ち上がりがまったく見られなかったため、22号溝跡の埋没過程で投げ込まれた上層の遺物群と判断した。また、調査区A・B区の境目付近で22号溝跡の北側の立ち上がりはまったく捉えられなくなり、E10グリッド付近から調査区北壁にかけては連続した堆積となり、15号溝跡の存在したE10グリッド下層からはさらにまとまった甲斐型IX・X期の土器を主体とする遺物群が出土したことから、22号溝跡はE10グリッド付近で大きく膨らむと同時に、別方向からもう1条の溝跡が入り込むのではないかと想定した。造構の切り合い最も激しい場所であり、造構の切り合い関係等は明確にできなかったものの、遺物については22号溝跡の上層として扱った。詳しくは「第4章 考察」において図示しているため参照されたい。

最終的な埋没時期については、中世段階には水路として既に機能していなかったと考えられるが、最上層から15世紀前後と見られる土器類が出土していることから、多少の窪地が残っていたと思われる。

重複関係：調査区内で最も下層の造構であるため、多数の造構に切られる。

出土遺物：下層出土遺物 389～416・上層出土遺物 417～425。

時期：9世紀後半～10世紀後半を主体とする。

（佐々木謹）

### 第6節 土壙

調査段階では、出土遺物などから土壙基とみられた造構もすべて土壙として取り上げていて、図のみ別途分けて提示している。図化遺物のない土壙、性格不明な土壙については一覧表にまとめ掲載している。

### 1号土壤 (図15)

F 8グリッドで検出した土壤である。平面形は円形、長軸64cm、短軸60cm、確認面からの深さ70cmを測る。造構の性格は不明。

重複関係：なし。

出土遺物：426。

時期：近代。

### 2号土壤 (図15)

F 8グリッドで検出した土壤である。平面形は梢円形、長軸92cm、短軸67cm、確認面からの深さ25cmを測る。造構の性格は不明。

重複関係：ピット95を切る。

出土遺物：427。

時期：江戸後期。

### 3号土壤 (図15)

F 9グリッドで検出した土壤である。造構の北側約半分は調査区外に展開していると考えられるが、平面形はほぼ円形。長軸約191cm、短軸約110cm、確認面からの深さ94cmを測る。造構の性格は当初出土品や堆積状況から井戸と考えられたが、1号竪穴状造構とセットで廁である可能性もある。

重複関係：8号土壤、1・6号竪穴状造構を切る。

出土遺物：428～436。

時期：18世紀中葉～19世紀。

### 6号土壤 (図15)

E 7グリッドで検出した土壤である。平面形は不整形、長軸約253cm、短軸約208cm、確認面からの深さ約29cmを測る。造構の形状から植栽痕と思われる。

重複関係：9号土壤を切る。

出土遺物：437～443。

時期：19世紀。

### 7号土壤 (図15)

D 7グリッドで検出した土壤である。平面形はほぼ円形であり、直径約98cm、確認面からの深さ19cmを測る。造構の性格は不明。

重複関係：1号溝跡、ピット62・65・86を切る。

出土遺物：444。

時期：時期不明。

### 11号土壤 (図15)

F 6・7グリッドで確認した土壤である。調査区の壁に一部かかるが、遺存部分で、平面形はほぼ円形、長軸約287cm、短軸約238cm、確認面からの深さ86cmを測る。造構堆土はほぼ一括の砂である。南側堀跡と連続していた可能性が考えられる。

重複関係：ピット136・156に切られ、8号溝跡を切る。

出土遺物：445・446。

時期：18世紀前半か。

#### 18号土壙（図19）

C 7、D 7グリッドで検出した土壙である。調査区北壁に一部かかるが、平面形はほぼ楕円形、長軸約220cm、最大幅約101cm、確認面からの深さ約14cmを測る。出土したかわらけは、標高261.000～261.500mの高さで半円形に配置されており、周辺から馬の歯や骨の細片が出土している。何らかの祭祀跡と考えられる。

重複関係：ビット116に切られる。

出土遺物：447～454。

時期：中世。

#### 20号土壙（図19）

E 5・6グリッドで検出した土壙である。一部調査区の壁にかかるが、平面形はほぼ円形、長軸は約119cm、短軸は約110cm、確認面からの深さ約50cmを測る。土壙の側壁からは腐食した状態の桶の側板を検出しており、埋桶跡と考えている。

重複関係：なし。

出土遺物：炭化遺物なし。他に土師器等。

時期：江戸期。

#### 22号土壙（図19）

C 6グリッドで検出した土壙である。平面形はほぼ楕円形、長軸は260cm、短軸は154cm、確認面からの深さ16cmを測る。22号土壙からは人骨が出土している。骨は遺存状態が悪く、頭蓋骨の半分と一部小片を検出したのみである。被葬者はあおむけの状態で埋葬されており、体の両側にあたる位置から六道錢を出土している。

重複関係：9号溝跡に切られる。

出土遺物：455。他に土師器。

時期：15～16世紀。

#### 24号土壙（図16）

D 8・9グリッドで検出した土壙で、平面形は円形であり、直径約140cm、確認面からの深さ42cmを測る。

重複関係：1号竪穴状造構に切られる。

出土遺物：456・457。他須恵器等。

時期：10世紀後半。

#### 25号土壙（図16）

C 7グリッドで検出した溝である。平面形は不整楕円形、長軸は約102cm、短軸は76cm、確認面からの深さ31cmを測る。

重複関係：2号竪穴状造構を切る。

出土遺物：458。

時期：10世紀後半。

#### 26号土壙（図16）

D 8グリッドで検出した土壙である。一部調査区の壁にかかるが、平面形はほぼ楕円形であると思われる。遺存部分で、長軸約75cm、短軸約51cm、確認面からの深さ約20cmを測る。造構の性格は不明。

重複関係：34号土壙を切る。  
出土遺物：459・460。他かわらけ等。  
時期：中世か。

#### 27号土壙（図16）

F 7グリッドで検出した土壙である。一部調査区の壁にかかるが、平面形は不整円形、遺存部分で長軸約92cm、短軸70cm、確認面からの深さ約9cmと浅い土壙である。

重複関係：23号土壙に切られる。

出土遺物：461。  
時期：15世紀～16世紀。

#### 29号土壙（図16）

C 6グリッドで検出した土壙である。9号溝跡に切られるが、遺存部分で平面形は不整橈円形、長軸約120cm、短軸約87cm、確認面からの深さ16cmを測る。

重複関係：9号溝跡に切られる。ピット221を切る。

出土遺物：462・463。  
時期：15世紀～16世紀。

#### 30号土壙（図16）

C 4・5グリッドで検出した土壙である。一部調査区の壁にかかるが、平面形は不整橈円形で長方形に近い形をしている。長軸約403cm、短軸約276cm、確認面からの深さ約60cmを測る。今回検出した土壙の中では最大の土壙である。

重複関係：12・13号溝跡に切られる。

出土遺物：464～478。  
時期：15世紀～16世紀

#### 34号土壙（図20）

D 8グリッドで検出した土壙である。平面形は不整橈円形、長軸約206cm、短軸約147cm、確認面からの深さ約30cmを測る。土壙覆土より、多量の焼土塊を面的に検出している。焼土塊には、骨の細片が多量に含まれており、火葬遺構、もしくは埋葬に伴う茶毬所ではないかと思われる。

重複関係：26号土壙に切られる。

出土遺物：479～484。他土師器、かわらけ等。  
時期：15世紀～16世紀。

#### 35号土壙（図20）

B 4、C 4グリッドで検出した土壙である。平面形は隅丸長方形、長軸約253cm、短軸約179cm、確認面からの深さ約40cmを測る。遺構は中ほどで一段深く掘り込まれており、覆土には多量の焼土片、骨の細片が混じる。土壙床面中央部や西側からは、面的に焼土塊が検出されている。34号土壙と同じく火葬遺構、もしくは埋葬に伴う茶毬所ではないかと思われる。

重複関係：ピット162に切られる。  
出土遺物：485～488。他土師器、かわらけ等。  
時期：15世紀～16世紀。

#### 44号土壙（図19）

H 12グリッドで検出した土壙。平面形は円形、直径は約150cm、確認面からの深さ約50cmを測る。土壙の側壁に沿って竹製の桶のタガを検出しており、埋桶と考えている。

重複関係：なし。

出土遺物：489～495。他に下駄、曲物等。

時期：18世紀後半。

#### 53号土壙（図18）

G 12グリッドで検出した土壙である。平面形は不整円形、長軸は125cm、短軸は約90cm、確認面からの深さ18cmを測る。遺構の性格は不明。

重複関係：42・46号土壙に切られる。

出土遺物：496。他土師器等。

時期：16世紀。

#### 54号土壙（図18）

F 11グリッドで検出した土壙である。平面形はほぼ円形、長軸は146cm、短軸は144cm、確認面からの深さ24cmを測る。遺構の性格は不明。

重複関係：57号土壙に切られる。

出土遺物：497・498。他土師器等。

時期：16世紀。

#### 57号土壙（図19）

F 11グリッドで検出した土壙である。平面形はほぼ円形、長軸は189cm、短軸は182cm、確認面からの深さ60cmを測る。土壙上面からは地輪が検出された。土壙内には一段の掘り込みがあり、埋土からは骨の細片を検出しており土壙墓と考えている。

重複関係：54号土壙に切られる。

出土遺物：499～502。他土師器、かわらけ等。

時期：15～16世紀。

#### 59号土壙（図19）

F 12、G 12グリッドで検出した土壙である。平面形は楕円形、長軸は166cm、短軸は約85cm、確認面からの深さ20cmを測る。土壙内からは骨の細片を検出しており、土壙墓と考えている。

重複関係：56号土壙に切られる。

出土遺物：図化遺物なし。他土師器等。

時期：15世紀～16世紀か。

#### 60号土壙（図13・14）

F 9・10、G 9・10にかけて検出した土壙である。平面形は不整形、遺存部分で長軸334cm、短軸296cm、確認面からの深さ86cmを測る。19号溝跡の張り出し部分とみられる。

重複関係：58号土壙を切る。

出土遺物：590。他古瀬戸後IV新の卸目大皿、かわらけ等。

時期：15～16世紀。

#### 61号土壙（図18）

E 10グリッドで検出した土壙である。調査区の壁に一部かかるが、遺存部分で平面形は楕円形、長軸180cm、短軸119cm、確認面からの深さ30cmを測る。

重複関係：19号溝跡に切られる。

出土遺物：503～505。他須恵器長頸壺等。

時期：10世紀後半。

#### 62号土壙（図18）

H 14グリッドで検出した土壙である。調査区の壁が一部かかる。平面形はほぼ円形、遺存部分で長軸178cm、短軸125cm、確認面からの深さ38cmを測る。遺構の性格は不明。

重複関係：66・67号土壙、21号溝跡を切る。

出土遺物：506～508。他に在地擂鉢、肥前磁器等。

時期：18世紀後半。

#### 65号土壙（図18）

H 14グリッドで検出した土壙である。平面形は不整形、長軸130cm、短軸121cm、確認面からの深さ39cmを測る。遺構の性格は不明。

重複関係：69・71号土壙を切る。

出土遺物：509。他土師器、須恵器等。

時期：16世紀。

#### 70号土壙（図20）

H 13グリッドで検出した土壙である。平面形は楕円形、長軸128cm、短軸102cm、確認面からの深さ17cmを測る。骨等は出土しなかったが、遺構の形状、出土遺物から土壙墓とみられる。

重複関係：78号土壙を切る。

出土遺物：580・581。他土師器等。

時期：15世紀～16世紀。

#### 73号土壙（図19）

I 13グリッドで検出した土壙である。調査区の壁に一部かかり、平面形は不明である。遺存部分で、長軸74cm、短軸35cm、確認面からの深さ16cmを測る。

重複関係：68号土壙に切られる。

出土遺物：510・511。

時期：17世紀後半～18世紀前半。

#### 74号土壙（図20）

H 13グリッドで検出した土壙である。平面形は楕円形、長軸238cm、短軸154cm、確認面からの深さ12cmを測る。土壙内から人骨を検出している。遺存状態は悪く、部分的に検出できたのみである。

重複関係：なし。

出土遺物：512・513。他に土師器、かわらけ等。

時期：15～16世紀。

#### 75号土壙（図20）

G13グリッドで検出した土壙である。調査区の壁が一部かかるが、平面形は方形、遺存部分で長軸274cm、短軸約238cm、確認面からの深さ19cmを測る。土壙内から人骨を検出している。骨は最も遺存状態がよく、北枕西向きで体を屈めて埋葬されていた。骨は奥歯に銅製品が挟まれており、背の中ほどに占錢を6枚出土している。

重複関係：なし。

出土遺物：582～587。他土師器等。

時期：15世紀～16世紀。

#### 79号土壙（図18）

H14グリッドで検出した土壙で、平面形は楕円形、長軸159cm、短軸99cm、確認面からの深さ12cmを測る。土壙の形状などから、土壙墓と考えられる。

重複関係：69号土壙に切られる。

出土遺物：588。

時期：15世紀～16世紀。

#### 80号土壙（図19）

E6グリッドで検出した土壙である。平面形はほぼ円形、長軸42cm、短軸38cm、確認面からの深さ約4cmを測る。土壙内より、桶の底を検出しており、埋桶跡と考えられる。

重複関係：なし。

出土遺物：図化遺物なし。他に土師器等。

時期：江戸期。

#### 83号土壙（図19）

B区拡張区I12グリッドで検出した土壙である。平面形は円形、直径約40cm、確認面からの深さ約5cmを測る。土壙内より桶の底を検出しており、埋桶跡と考えられる。

重複関係：なし。

出土遺物：なし。

時期：江戸期か。

### 第7節 集石造構

集石造構と扱った造構は、1号集石造構を除き、集石墓と判断している。集石墓は土葬による上壙墓と区別する意味で、土壙中に石を組んだもの、埋設段階で石を投げこんだもの、敷きつめたものも含めた火葬墓を示している。

#### 1号集石造構（図20）

E6グリッドで検出した集石である。範囲のみ確認したものである。

重複関係：なし。

出土遺物：514。

時期：江戸期か。

#### 2号集石造構（図20）

E6グリッドで検出した集石である。平面形は長軸134cm、短軸122cm、確認面からの深

さ24cmを測る。

重複関係：15号上塙に切られる。

出土遺物：515～517。

時期：15～16世紀。

### 3号集石造構（図20）

F 8グリッドで検出した集石である。平面形はほぼ円形、長軸147cm、短軸146cm、確認面からの深さ43cmを測る。一部他の造構に切られるが、2～3段の石積を壁面にめぐらし、中央部に石を充填している。しかし、東側下部からは石組が検出されなかったため、当初から3面のみ石組であったと考えられる。埋土に骨の細片が混じるもの、蔵骨器は検出していない。検出状況から、火葬してのち埋葬されたものと考えている。

重複関係：12号集石を切る。8号溝跡に切られる。

出土遺物：518・519。

時期：15～16世紀。

### 4号集石造構（図21）

C 4グリッドで検出した集石である。平面形はほぼ円形、長軸97cm、短軸87cm、確認面からの深さ31cmを測る。土塙底部中央は一段深く掘り込まれている。

重複関係：土塙下から検出している。ピット172に切られる。

出土遺物：岡化遺物なし。造構確認段階で12号集石造構531と類似する青磁口縁が出土している。

時期：15～16世紀か。

### 5号集石造構（図21）

D 4グリッドで検出した集石である。平面形は楕円形、長軸は128cm、短軸は84cm、確認面からの深さ34cmを測る。埋土には骨の小片が混じる。

重複関係：13号溝跡を切る。

出土遺物：520。

時期：15～16世紀か。

### 6号集石造構（図21）

F 7・8グリッドで検出した集石である。一部擾乱を受けるが、遺存部分で平面形は不整形、長軸173cm、短軸158cm、確認面からの深さ34cmを測る。

重複関係：8号溝跡に切られる。

出土遺物：521～523。

時期：15世紀～16世紀。

### 7号集石造構（図21）

D 5グリッドで検出した集石である。平面形は楕円形、長軸167cm、短軸117cm、確認面からの深さ22cmを測る。埋土には骨の細片が多量に混じっていた。

重複関係：13号集石造構を切る。11号溝跡に切られる。

出土遺物：524～527。

時期：15～16世紀。

### 8号集石造構（図21）

E 5グリッドで検出した集石である。9号溝跡に切られているため、平面形は不明であるが検出した部分は方形を呈する。遺存部分で長軸132cm、短軸94cm、確認面からの深さ23cmを測る。検出部分での石積は一段であり、中央部に石を充填している。

重複関係：9号溝跡に切られる。

出土遺物：528。

時期：16世紀前半か。

### 9号集石造構（図21）

E 5グリッドで検出した集石である。平面形は不整円形、長軸161cm、短軸131cm、確認面からの深さ22cmを測る。

重複関係：なし。

出土遺物：岡化遺物なし。他土師器等。

時期：15～16世紀か。

### 10号集石造構（図21）

D 4グリッドで検出した集石である。平面形はほぼ円形、長軸172cm、短軸148cm、確認面からの深さ14cmを測る。集石埋土より火を受けた人骨の一部が出土している。

重複関係：なし。

出土遺物：529・530。

時期：15～16世紀。

### 11号集石造構（図22）

D 3グリッドで検出した集石である。平面形は円形、直径約90cm、確認面からの深さ24cmを測る。集石は土壌上部を覆う形で配置され、内部に充填されていない。埋土より人骨の一部が検出されている。

重複関係：土壌に切られる。

出土遺物：岡化遺物なし。他に土師器等。

時期：15～16世紀。

### 12号集石造構（図22）

F 8グリッドで検出した集石である。平面形は不整楕円形、長軸約150cm、短軸約130cm、確認面から深さ17cmを測る。他の造構と切り合うため、石は部分的に残っていた。

重複関係：36号土壌、3号集石造構、8号溝跡に切られる。

出土遺物：531・532。

時期：15～16世紀。

### 13号集石造構（図22）

D 4・5グリッドで検出した集石である。平面形は不整円形、長軸約180cm、短軸約140cm、確認面からの深さ23cm程を測る。石はまばらであり、埋土から骨の細片を検出している。

重複関係：7号集石造構、11号溝跡に切られる。

出土遺物：533～536。

時期：15～16世紀。

#### 14号集石造構（図22）

D 4・5グリッドで検出した集石である。平面形はほぼ円形、長軸97cm、短軸82cm、確認面からの深さ約20cmを測る。埋土からは焼けた骨の細片を検出している。

重複関係：13号溝跡を切る。

出土遺物：537。

時期：15～16世紀か。

#### 15号集石造構（図22）

I 12・13グリッドで検出した集石である。平面形はほぼ円形、直径約130cm、確認面からの深さ約30cmを測る。集石はまばらであるが、埋土に骨の細片を検出している。

重複関係：ピット389・404・406、68号土壙に切られる。

出土遺物：538。

時期：16世紀前半～中葉。

#### 16号集石造構（図22）

B区拡張区J 11グリッドから検出した集石である。平面形はほぼ円形、直径約70cmを測る。壁面付近に石組が部分的に検出された。

重複関係：81号土壙に切られる。

出土遺物：炭化遺物なし。他に土師器等。

時期：15～16世紀か。

### 第8節 井戸跡

#### 1号井戸跡（図22）

C 6グリッドで検出した井戸である。重機掘削中に検出したため、平面図のみ図示している。平面形は円形、掘り込み部分は確認していないが、石積直径約76cm、確認面から石積直上までの深さ約90cmを測る。

重複関係：なし。

出土遺物：539～542。

時期：15世紀～16世紀。

#### 2号井戸跡（図22）

E 8グリッドで検出した井戸である。平面形は円形、直径約120cm、確認面からの深さ98cmを測る。

重複関係：ピット165に切られる。

出土遺物：543～546。

時期：15世紀～16世紀。

#### 3号井戸跡（図22）

H 10グリッドで検出した井戸である。平面形は円形、直径約100cm、確認面からの深さ約90cmを測る。

重複関係：16号溝跡に切られる。

出土遺物：炭化遺物なし。他に土師器、瀬戸美濃陶磁器等。

時期：近代。

#### 4号井戸跡（図22）

H12グリッドで検出した井戸で、調査区の壁に一部かかるが、遺存部分で平面形はほぼ円形、直径約134cm、確認面からの深さ約60cmを測る。

重複関係：22号溝跡を切る。

出土遺物：図化遺物なし。他に土師器等。

時期：不明。

#### 第9節 壇穴状遺構

##### 1号壇穴状遺構（図22）

D8グリッドで検出した遺構である。調査区の壁に一部かかるが、遺存部分で平面形は方形、長軸305cm、短軸300cm、確認面からの深さ26cmを測る。

重複関係：12号土壙に切られ、6号壇穴状遺構、24号土壙を切る。

出土遺物：547～550。

時期：18世紀～19世紀。

##### 2号壇穴状遺構（図23）

C7・8グリッドで検出した遺構である。調査区の壁に一部切られるが、遺存部分で平面形はほぼ方形、長軸607cm、短軸は40cm、確認面からの深さ14cmを測る。

重複関係：25号土壙、ピット172に切られる。

出土遺物：図化遺物なし。他に土師器等。

時期：不明。

##### 3号壇穴状遺構（図23）

E10グリッドで検出した遺構である。調査区の壁が一部かかるが、平面形がほぼ方形、面の南部分中央に一段段差が設けられている。遺存部分で長軸270cm、短軸162cm、確認面からの深さ38cmを測る。

重複関係：15号土壙を切る。

出土遺物：図化遺物なし。他に瀬戸英濃・肥前陶磁器等。

時期：19世紀以降か。

##### 4号壇穴状遺構（図23）

G11グリッドで検出した遺構である。平面形はほぼ方形、長軸421cm、短軸357cm、確認面からの深さ41cmを測る。ほぼ方形で検出しており、壇穴状遺構のなかでは最も大きい。

重複関係：ピット276・288・294、49号土壙に切られる。

出土遺物：551～553。他に焼けた墳土と思われる焼土塊等が多数出土。

時期：15世紀。

##### 5号壇穴状遺構（図23）

E11グリッドで検出した遺構である。調査区の北壁に一部かかるが、遺存部分で平面形がほぼ方形、長軸337cm、短軸60cm、確認面からの深さ16cmを測る。

重複関係：なし。

出土遺物：図化遺物なし。他に土師器等。

時期：江戸期か。

### 6号竪穴状遺構（図23）

D8グリッドで検出した遺構である。直上を1号竪穴状遺構に切られているが、遺存部分で平面形がほぼ方形、長軸264cm、短軸246cm、確認面からの深さ約20cmを測る。

重複関係：3・24号上塙、1号竪穴状遺構に切られる。

出土遺物：554～558。他に土師器、須恵器等。

時期：10世紀前半か。

（山崎雅恵）

## 第10節 出土遺物

秋山氏館跡では、古墳時代～近現代まで幅広い遺物が出土している。図化したものは各遺構単位にまとめて掲載しているが、金属製品については全体的に縮尺が他と異なるため、一括して掲載している。

1～30までは1号堀跡の出上で7の青緑釉輪禿皿や11の瀬戸美濃鉄釉碗のような17世紀後半代の造物も散見できるが、主体は16・17・18のような18世紀後半～19世紀代の資料である。昭和まで使用されていたため、新しい時代のものも数多く存在した。15は須玉町で一時期焼かれていた小倉焼の行平鍋の把手で、20は「事変記念」と印刷されており、満州事変の記念として製作された徳利である。

31～41は1号上塙跡から出土した。31の大窯3段階後半の瀬戸美濃灰釉皿から33の志野鐵部鉄絵皿、37の黄瀬戸折筋鉢といった第1小期の遺物までが比較的まとまっている。図化はできなかったが、陶胎の漳州窯系青花皿等も少量出土している。中には34のような14世紀代の美濃系の山茶碗も出土している。

溝跡出土遺物については、42・44は瀬戸美濃天目茶碗で17世紀前半、46は瀬戸美濃の壺で17世紀前半の製品である。1・2号溝跡は近代の遺構であるため、下層のものが混入したと考えられる。52は瓦質擂鉢で在地のものと考えられる。53は常滑の壺の底部である。58は内耳鍋であるが、16世紀代のものに比べ器壁は厚く、土質もやや精緻であることから16世紀以前のものと考えられる。60～68までが13号溝跡の資料であるが、60は瓦質の茶釜で61は瓦質内耳鍋である。62は硯の破片で部分的に黒の痕跡が残されていた。63は内耳鍋か擂鉢の破片を磨いて作られた土製円盤である。66～68はかわらけで、器壁は比較的薄く、直線的に立ち上がる。いずれも15世紀代と考えられる。69は肥前の蛇ノ目高台の染付皿で18世紀後半であるが、同じ皿の破片がもう1個体分出土している。70は18世紀後半の色絵筒茶碗と考えられるが、通常のものに比べてやや口径が小さい。71は18世紀後半に類例のある鍋島の染付皿である。鍋島については第4章において考察を加えることとする。

72～302までが15号溝跡一括資料である。主な時代は17世紀後半～18世紀初頭と考えられる。72～116までがかわらけである。56～173までが瀬戸美濃・肥前陶器であり、圧倒的に碗が多く、特に尾呂茶碗が多数を占める。皿は159の灰釉皿、160の菊皿、161の青緑釉輪禿皿の3点のみで、84は唐津二彩鉢である。陶磁器については、第4章で若干の考察を加えているため参考されたい。174は古瀬戸中期の合子であり、底部に墨書きがある。175～196までは肥前磁器でやはり碗が圧倒的に多く、時期的にも17世紀後半のものが主体を占める。175～180までは17世紀後半以降の碗であるが、181は高尾窯の製品で18世紀初頭の製品である。188は小型の香炉であるが、陶磁器では唯一完形品であった。190は陶胎染付の灰おとしてあり、189・193は色絵の製品、194・195はいわゆる初期伊万里である。197～201は瀬戸擂鉢である。

202～204は瓦で、図化していないが、他にも平瓦が出土している。17世紀代の屋敷建物にどの程度まで使用されていたか不明であるが、部分的に瓦を葺いた建物が存在したよう

である。205～214は焙烙鍋、215～218は土器香炉で、219は焼塙壺の蓋である。図化できなかつたが、焼塙壺の身も出土しており、蓋と合わせて1個体存在していたようである。混入品では、226が甲斐型VII期の环であり、底部には「大○」と書かれた墨書が確認され、「下」の字は「親」ではないかと見られている。230～234は15号溝旧路の遺物であるが、234は「S」字状口縁台付甕である。235～247までは漆椀の蓋で、248～261までが漆椀である。261は1点のみ旧路から出土している。262も漆製品であるが、器台であろうか。263～298までは木製品で、曲物や桶、箸、農具、櫛、下駄等生活に関わる様々な道具が見られる。299～302は石製品である。303～305は17号溝跡の遺物で、303は18世紀後半である。

306～343までは18号溝跡出土遺物で、年代的に16世紀後半から17世紀初頭の遺物群が主体を占める。19号溝跡と切り合っているため、古い段階の遺物も多数混入している。321は火鉢と考えられ、内外面は黒色処理されている。325・326は焙烙鍋で、中世段階の内耳鍋から焙烙鍋に変化したものと考えられ、器高は17世紀後半段階の焙烙と16世紀段階の内耳鍋の中間的な高さであり、16世紀末～17世紀初頭段階で煮沸形態に変化が生じたものと考えられる。陶磁器は327は大窯2・3段階の天口茶碗、328は第1小期の志野織部鉄絵皿、329は大窯3後半段階の初山小环、330は大窯3段階の鉄釉皿である。播鉢も333・334の2個体分出土し、333は大窯3後半段階である。また337は中津川産と推定されている製品である。339は志戸呂の鉢と考えられる。341は漆の杓子である。

344～388までは19号溝跡の出土遺物で、369は茶釜であるが、瓦質で肩部にミガキが入る。茶釜に関しては、瓦質のものは基本的にミガキを施し、上師質のものは部分的に削り調整が施される程度である。371は白磁輪花皿、372は青磁碗で、中国陶磁器はこの2点のみであった。374は瀬戸美濃祖母懐壺の底部で、375～377は常滑甕の口縁部資料であり、いずれも13世紀後半～14世紀初頭のものである。378・379は混入品であるが、甲斐型环の底部で、墨書で「安」・「小介」の文字が確認できる。おそらく下層に存在する22号溝跡に関連する遺物と考えられる。380・381は漆椀である。いずれも外面黒漆、内側朱漆である。同一個体とも考えられたが、接点がなく若干径が異なったため別個体として扱った。

389～425は22号溝跡出土遺物で、甲斐型IX～XI期を主体とする遺物群である。墨書土器では、392が「太」、393が「小介」、418・420が「安」、394・395・400・401は不明であるが、395は「円」か「田」であろうか。419は記号であろうか。398は内外面黒色処理された付高台の环か碗、405・406は高环であるが、406は脚部が8角に面取りされたもので、県下でもこれまでのところ出上例は少ない資料である。

土壌資料も様々なものが出土しているが、442は景德鎮の青花である。30号土壌の資料が15世紀～16世紀段階のものとして比較的まとまっており、471・472は常滑である。44号土壌は埋桶であったが、490・491・492とも18世紀後半の資料であり、492は京・信楽産の色絵半球碗と考えられる。500は五輪塔の地輪で、57号土壌北側に据えてあったが、元の位置であるかは不明である。

集石造構については、資料がいずれも小破片であり、復元実測したものが多い。中でも523・531は青磁碗であり、7号集石造構底面からは526・527の土錐が2個体出土した。538は瀬戸美濃の灰釉皿であり、大窯2段階のものである。

井戸跡、竪穴状造構、ピットについては、2号井戸跡から543の白磁皿、4号竪穴状造構から551の青磁盤が出土している。ピット183の569は土製の犬だろうか。

調査区遺物では600が線刻の甲斐型环で、605～607が綠釉陶器碗、608は古瀬戸後IV新の鉢目大皿、609は12世紀後半の常滑甕である。615は大窯3後半の折縁皿、616は唐津向付である。622・623は17世紀後半の美濃菊皿で、624も17世紀後半の美濃鉄絵皿である。628は唐津碗であろうか。

(佐々木満)

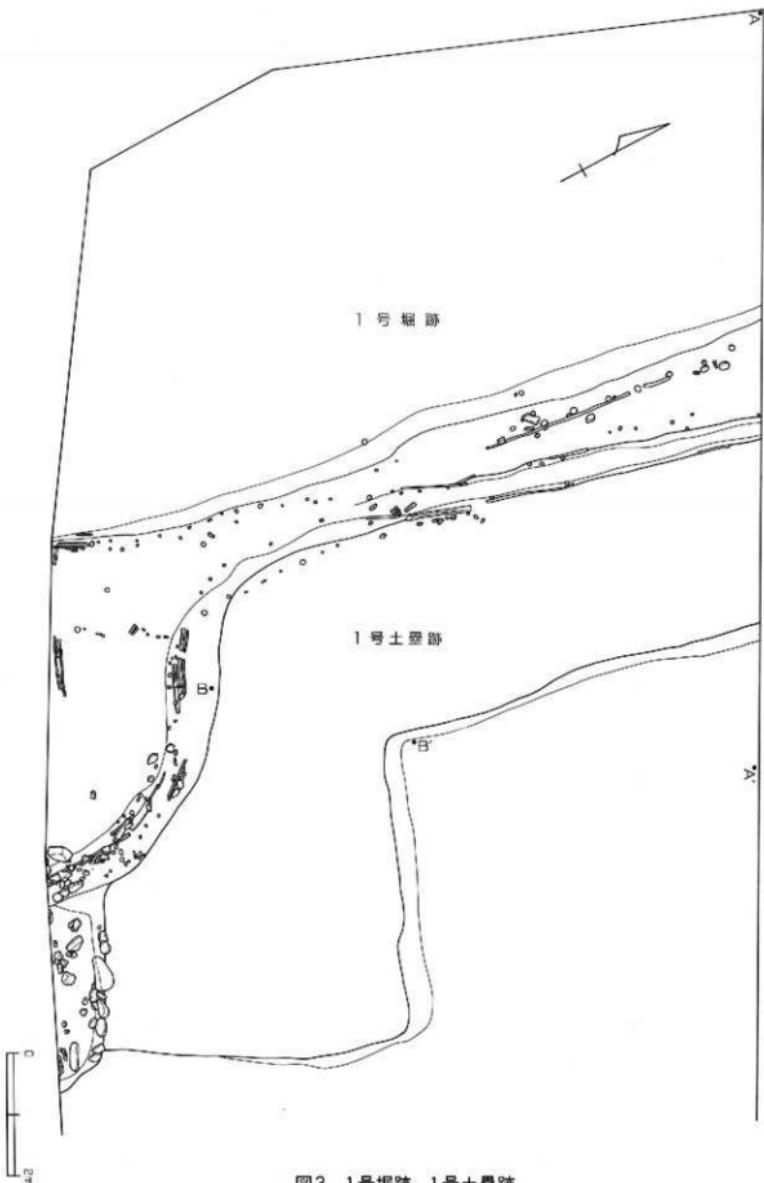


図3 1号掘跡、1号土壘跡

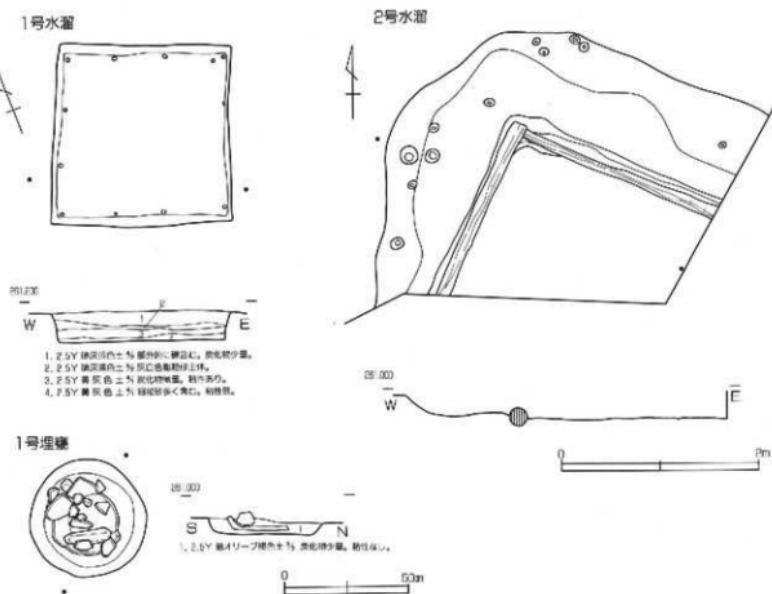
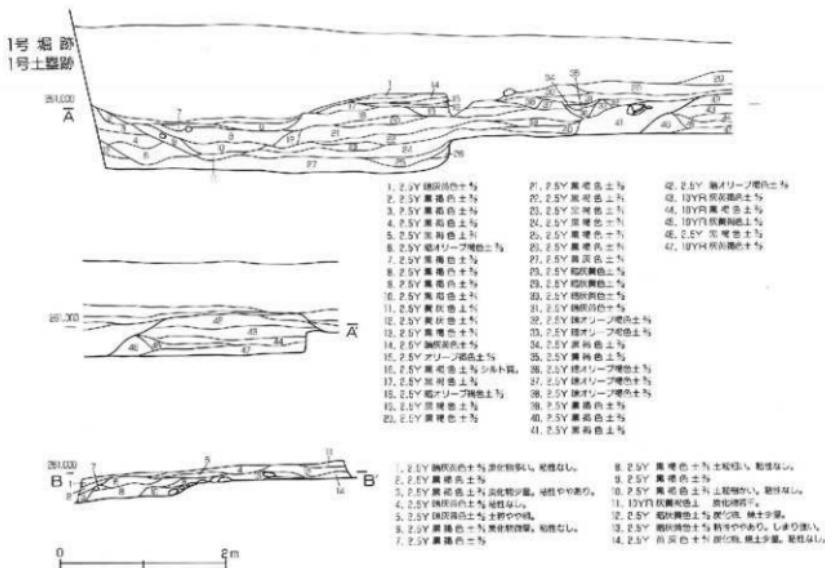


図4 1号掘跡、1号土壌跡、1号・2号水槽状構造、1号埋蔵

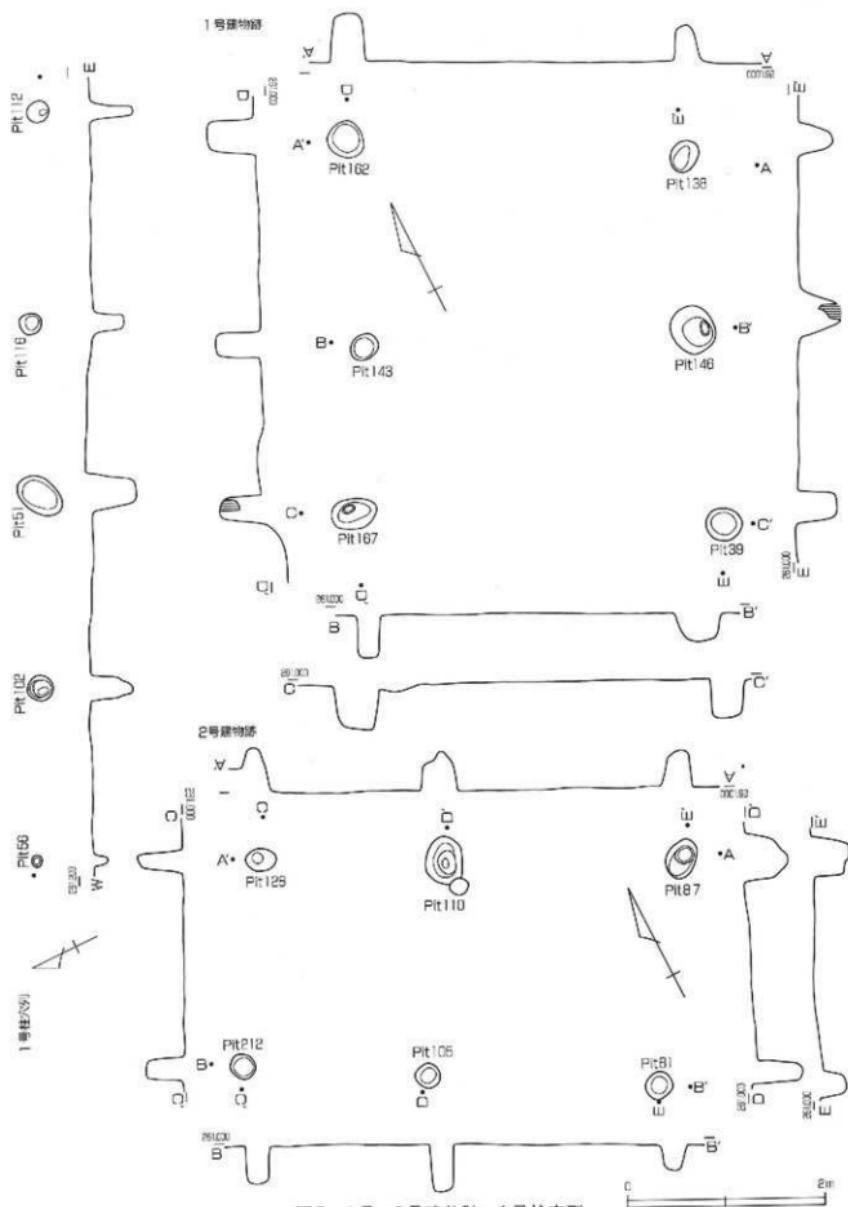
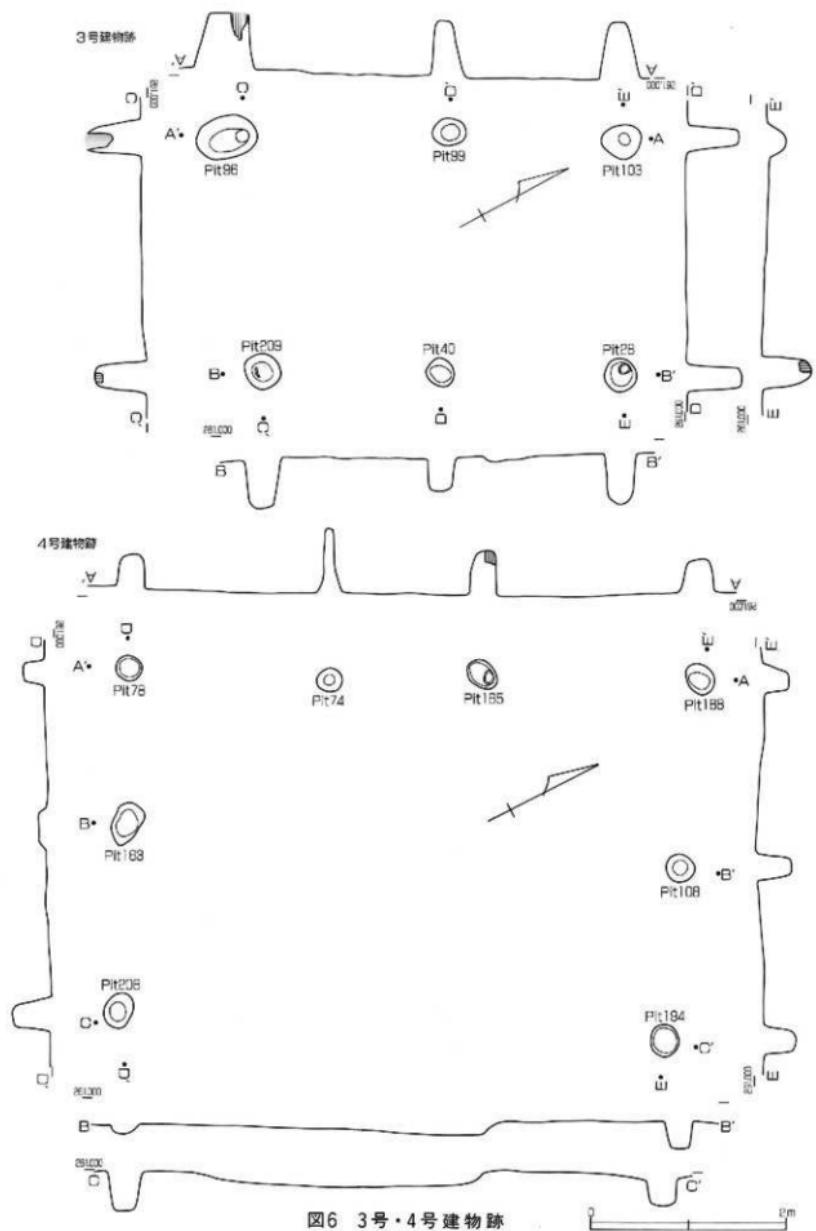


図5 1号・2号建物跡、1号柱穴列



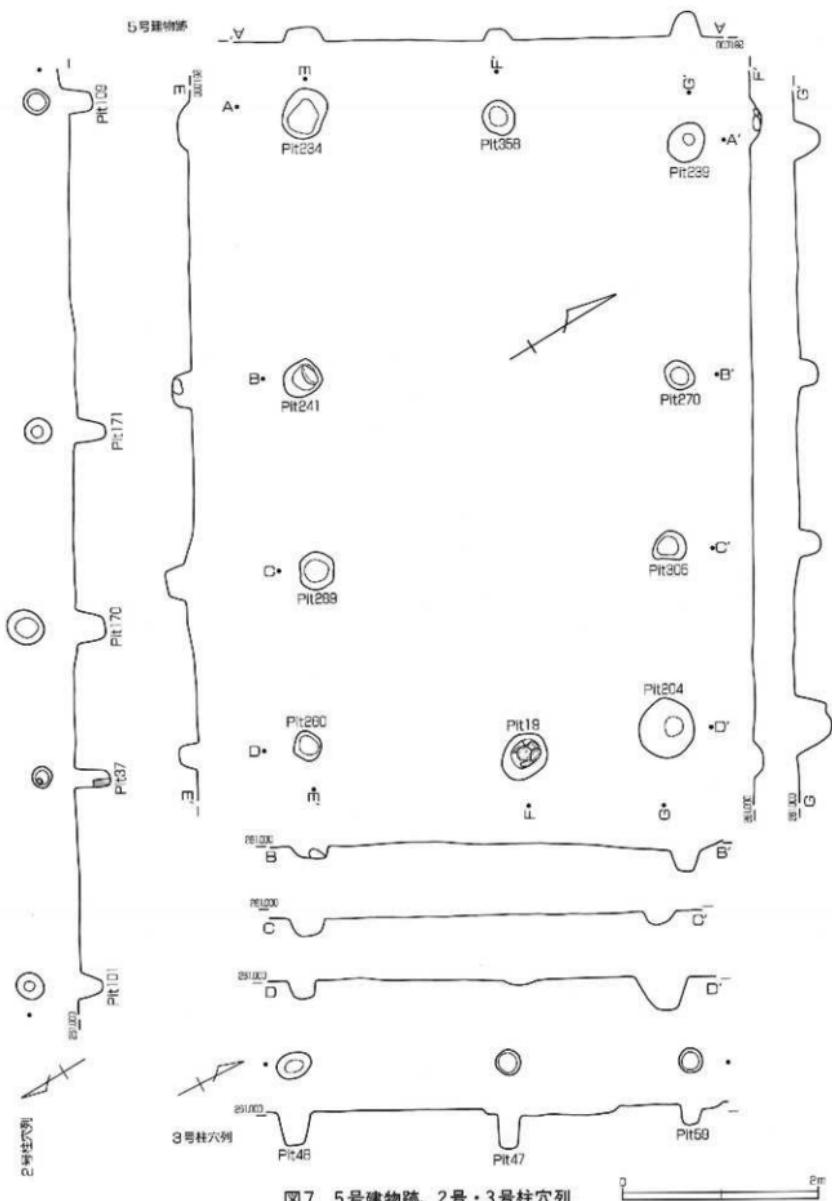


图7 5号建物跡、2号・3号柱穴列

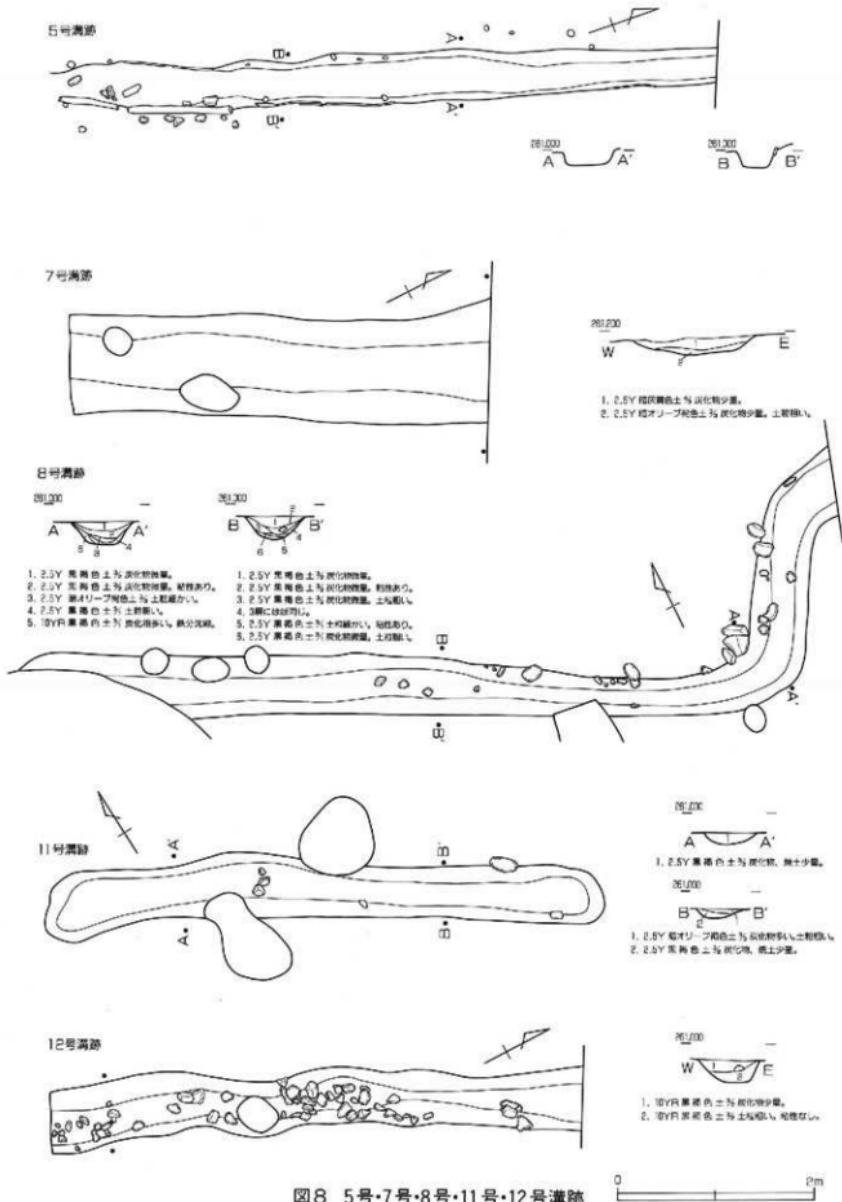


図8 5号・7号・8号・11号・12号溝跡

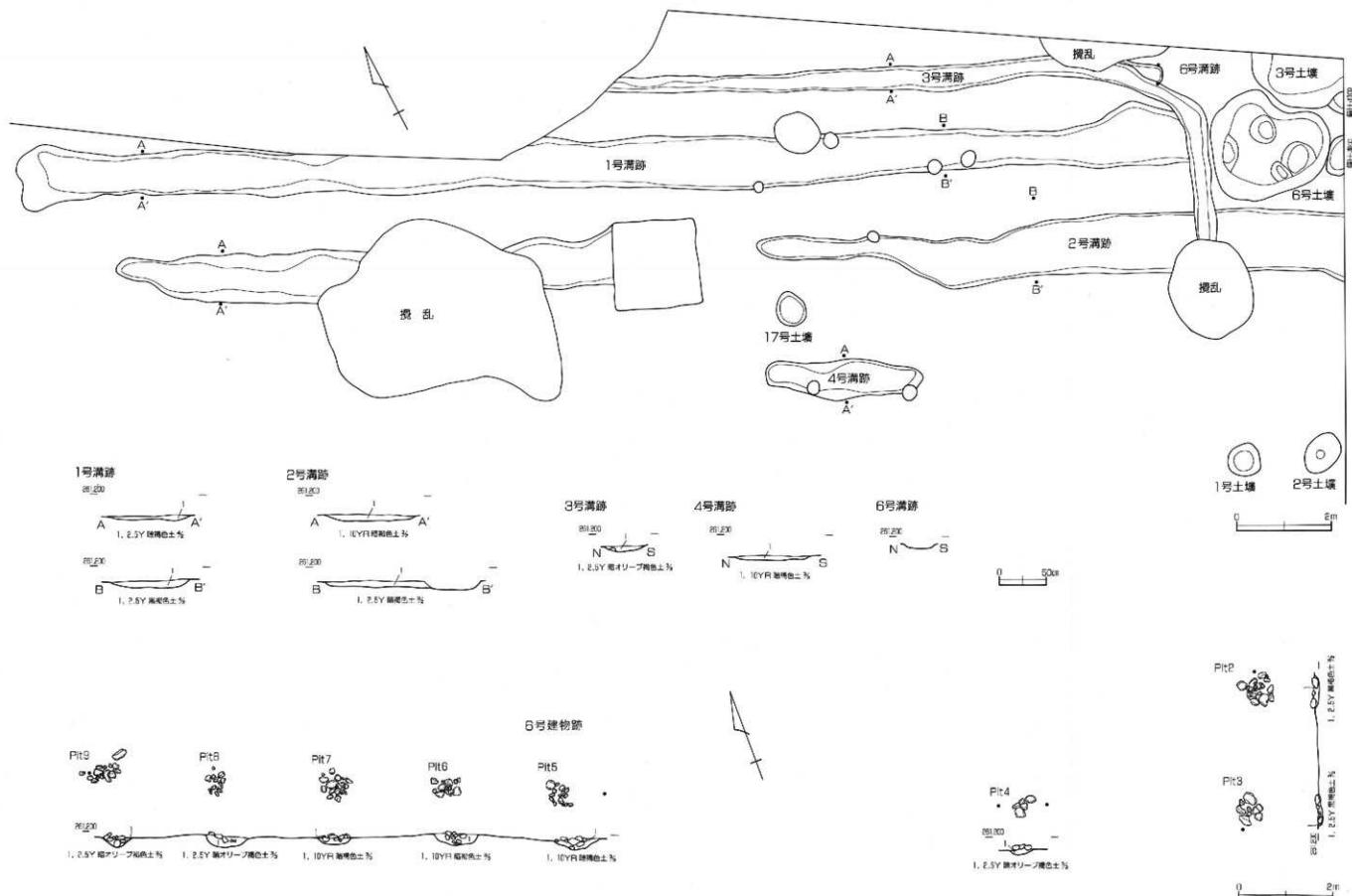
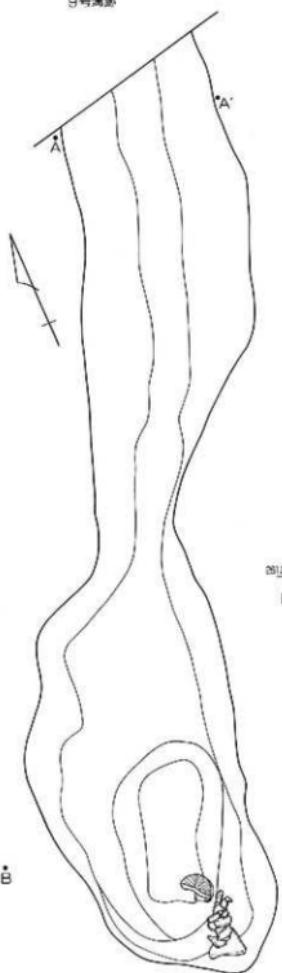
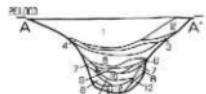


図9 6号建物跡、1~4・6号溝跡

9号溝跡



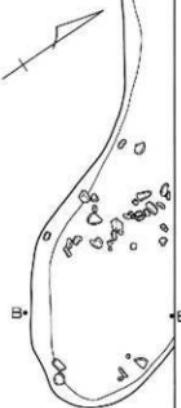
10号溝跡



1. 10YR 黒褐色土 有鉄物多。生食有。
2. 10YR 黑褐色土 有鉄物多。上部は黒。
3. 2.5Y 緑オリーブ褐色土 有鉄物少。
4. 2.5Y 黑褐色土 有鉄物少。しまりあり。
5. 2.5Y 黑褐色土 有鉄物少。しまりなし。
6. 10YH 黑褐色土 有鉄物少。
7. 2.5Y 黑褐色土 有鉄物少。土粒非常に細かい。
8. 2.5Y 黑褐色土 有鉄物少。
9. 2.5Y 黑褐色土 有鉄物少。
10. 2.5Y 黑褐色土 有鉄物少。
11. 2.5Y 黑褐色土 有鉄物少。
12. 2.5Y 黑褐色土 有鉄物少。



1. 10YH 黑褐色土 有鉄物少。しまりなし。
2. 2.5Y 黑褐色土 有鉄物少。
3. 2.5Y 黑褐色土 有鉄物少。
4. 2.5Y 黑褐色土 有鉄物少。
5. 2.5Y 黑褐色土 有鉄物少。
6. 2.5Y 黑褐色土 有鉄物少。
7. 2.5Y 緑オリーブ褐色土 有鉄物少。
8. 2.5Y 緑オリーブ褐色土 有鉄物少。



1. 2.5Y オリーブ褐色土 有鉄物少。



1. 2.5Y 緑オリーブ褐色土 有鉄物少。



図10 9号・10号溝跡

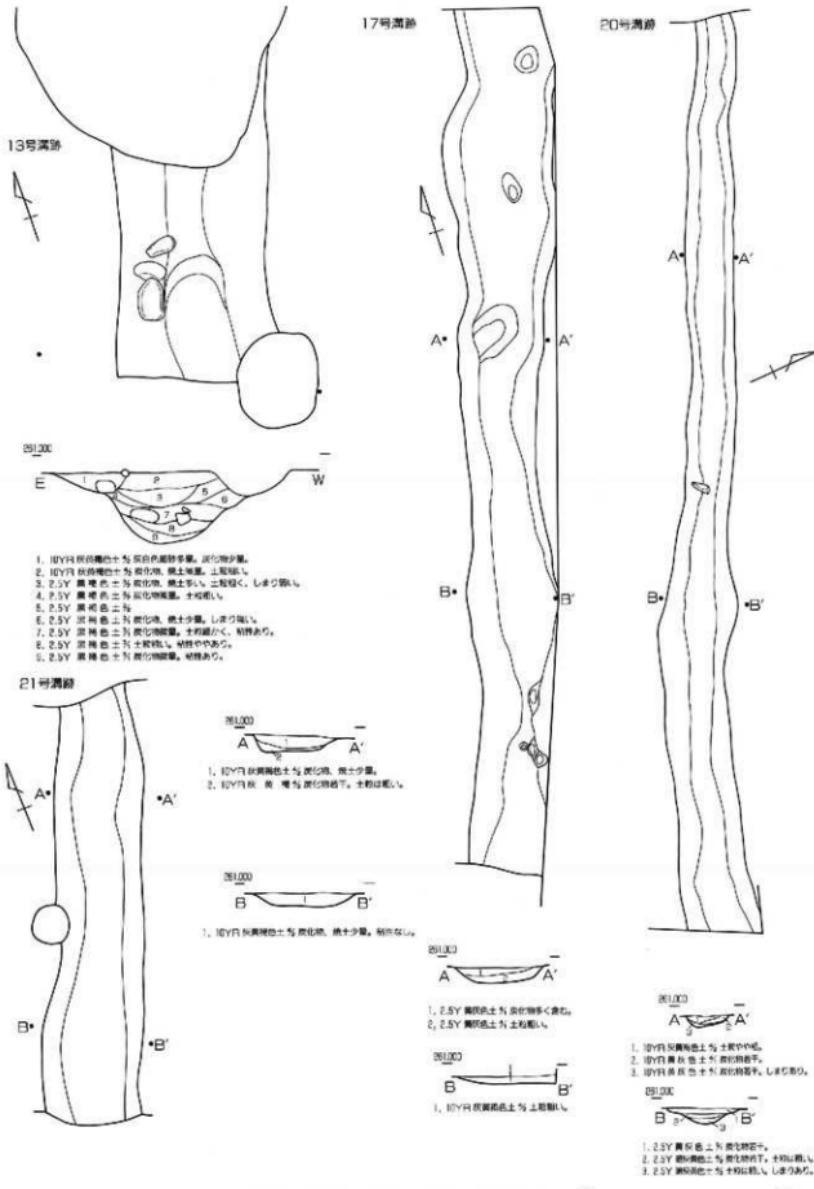


図11 13号・17号・20号・21号溝跡

1号石垣・14号溝跡

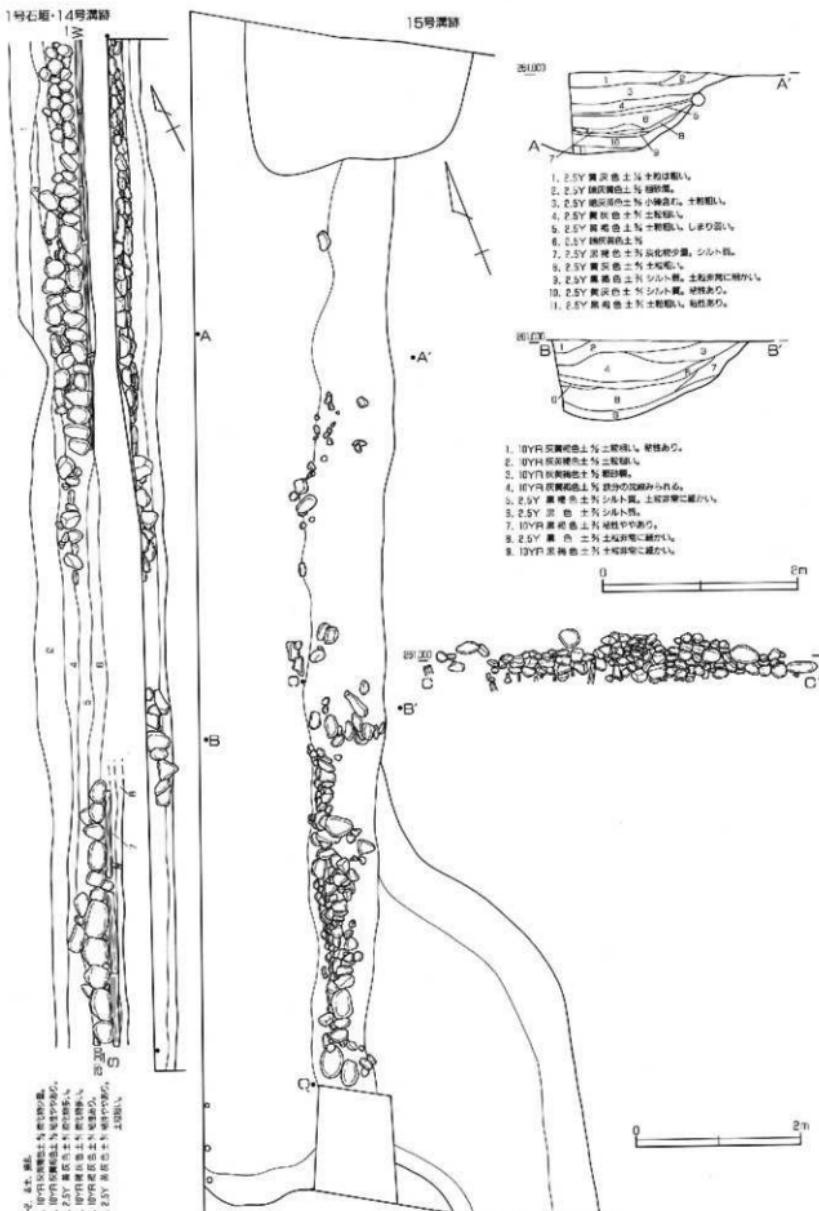


図12 1号石垣・14号・15号溝跡

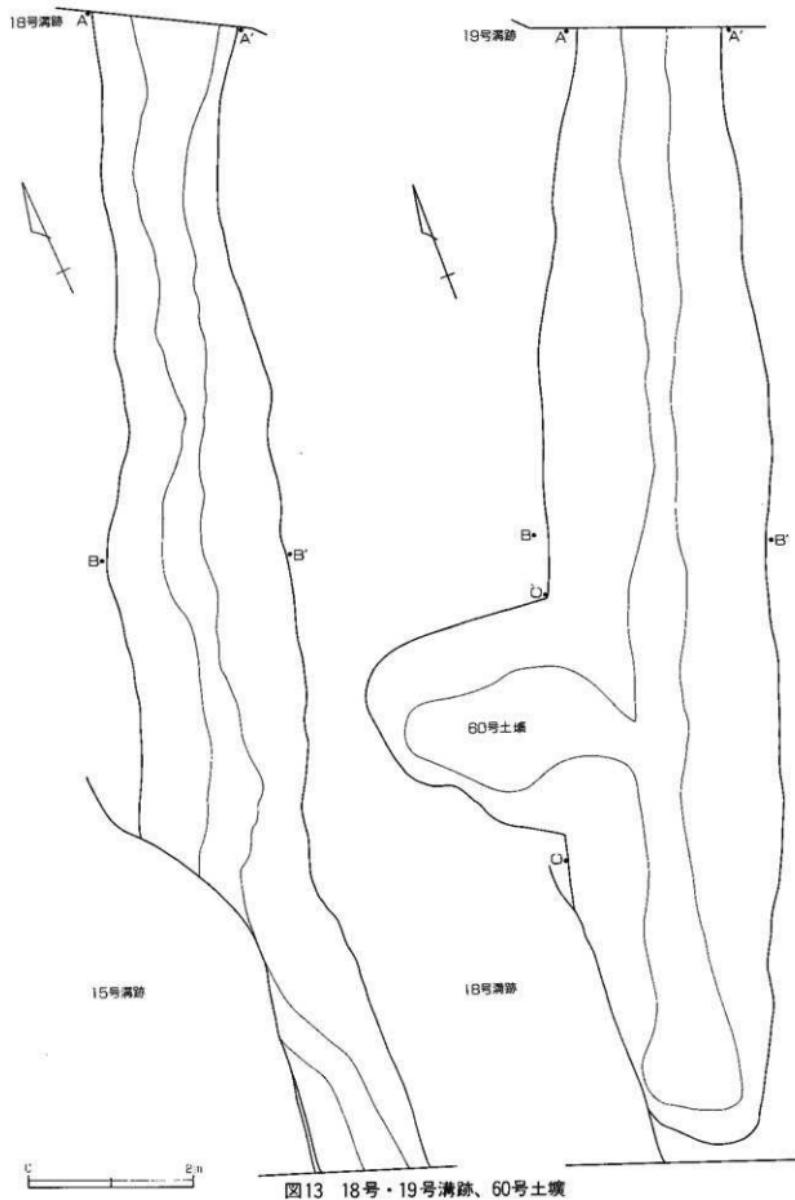


图13 18号・19号溝跡、60号土壤

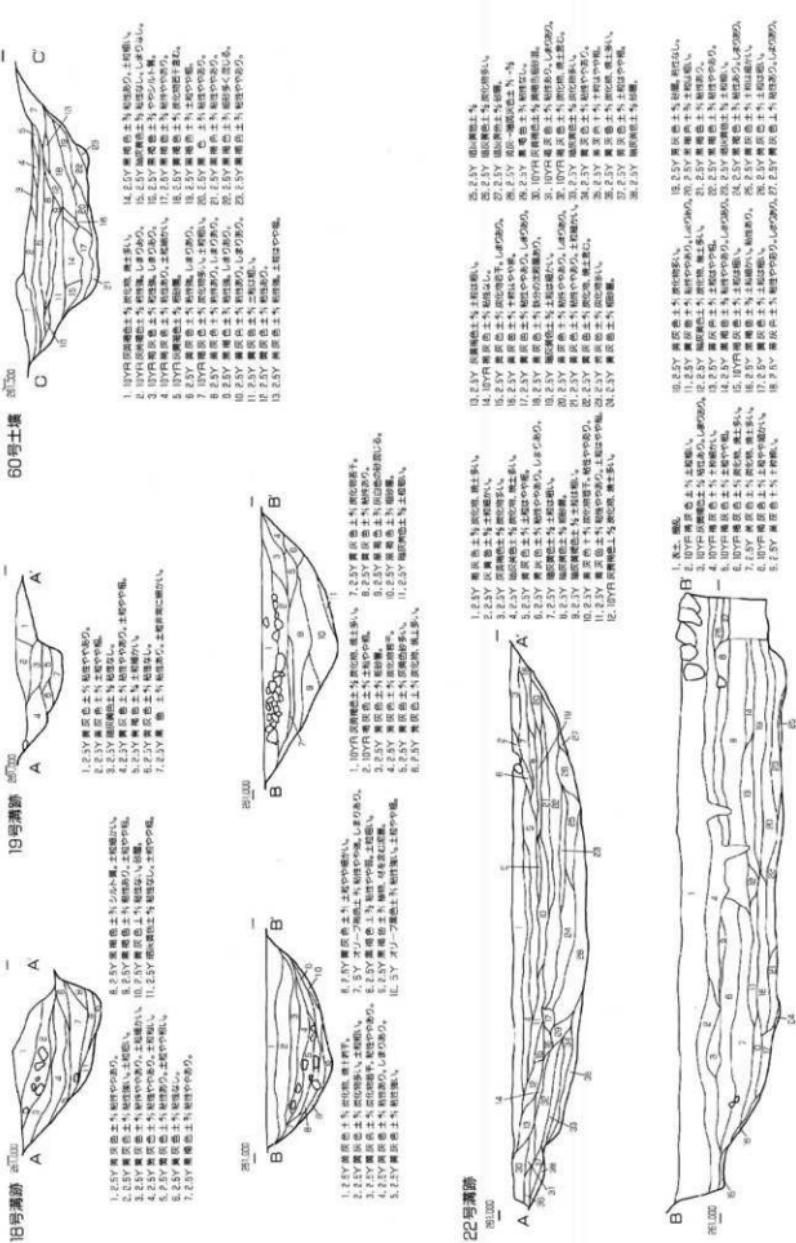


图14 18号·19号·22号溝跡、60号土壤 土層断面図

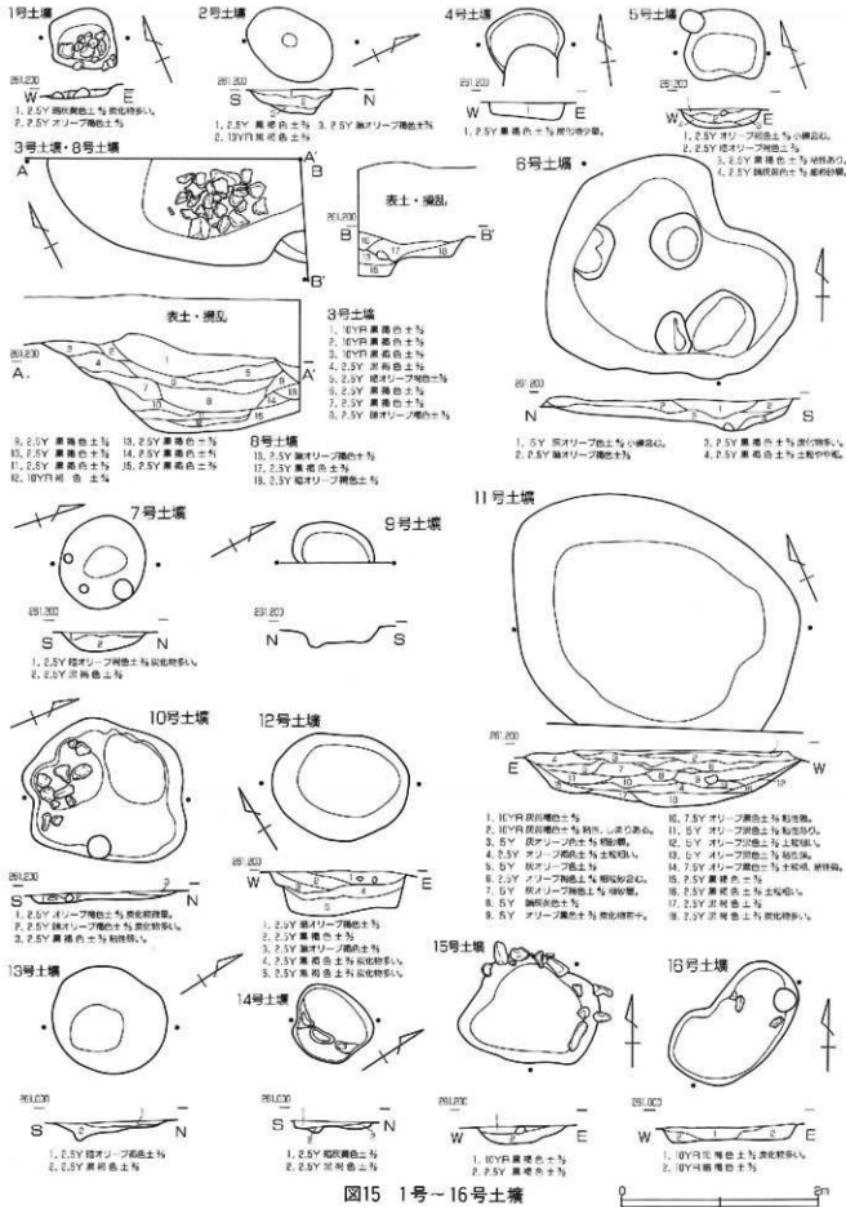


図15 1号～16号土壤

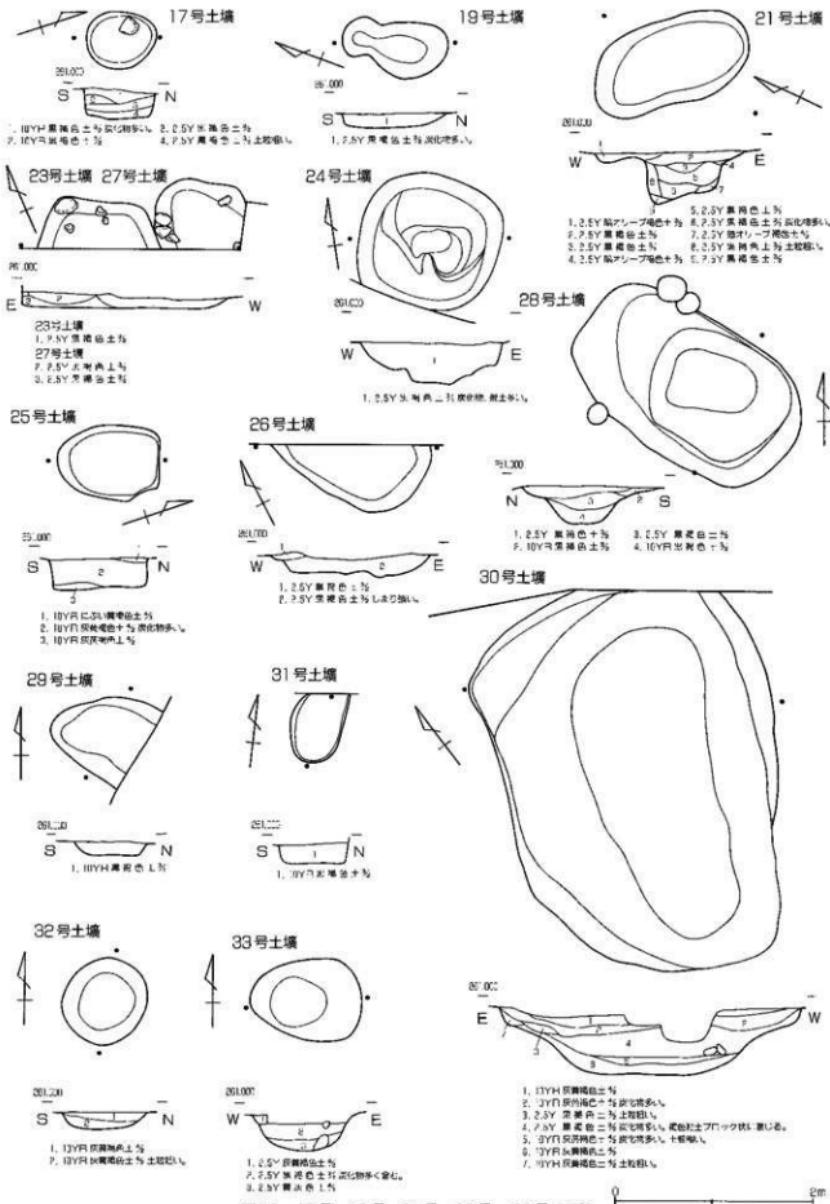


图 16 17号・19号・21号・23号～33号土壤

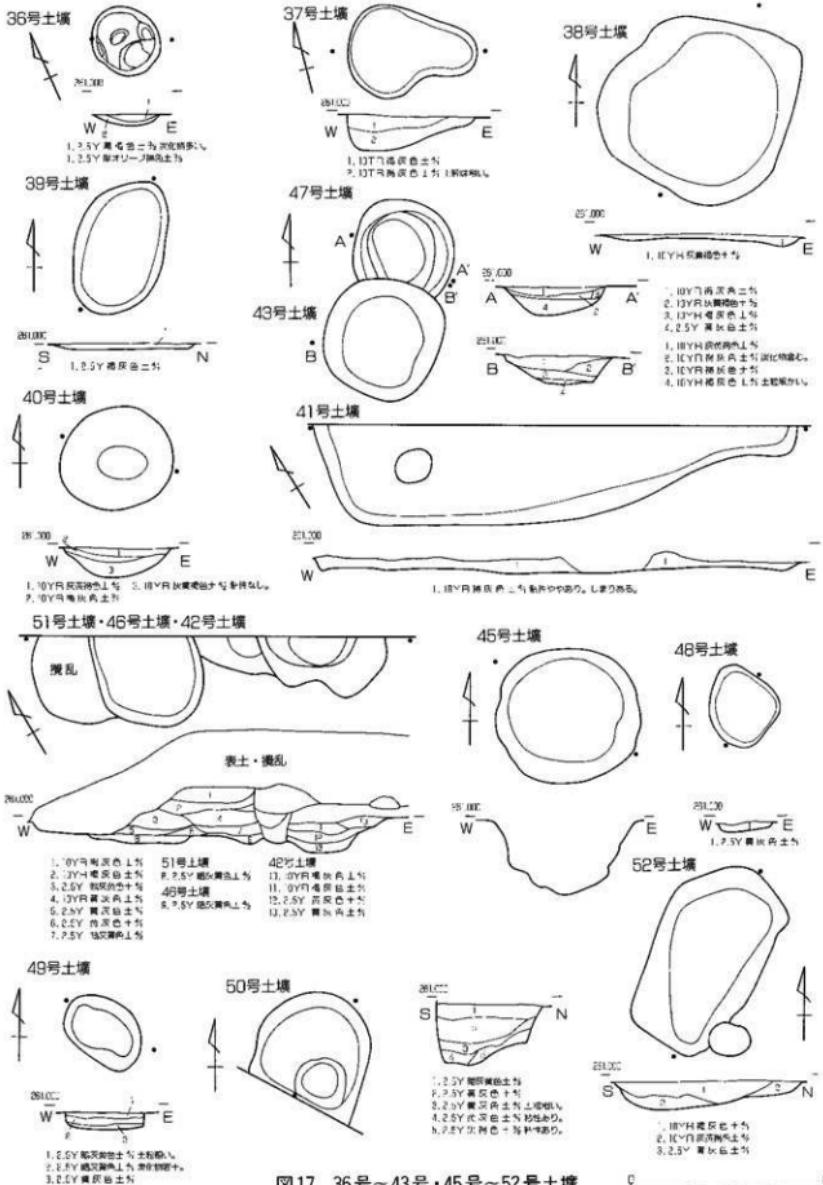


図17 36号～43号・45号～52号土壤

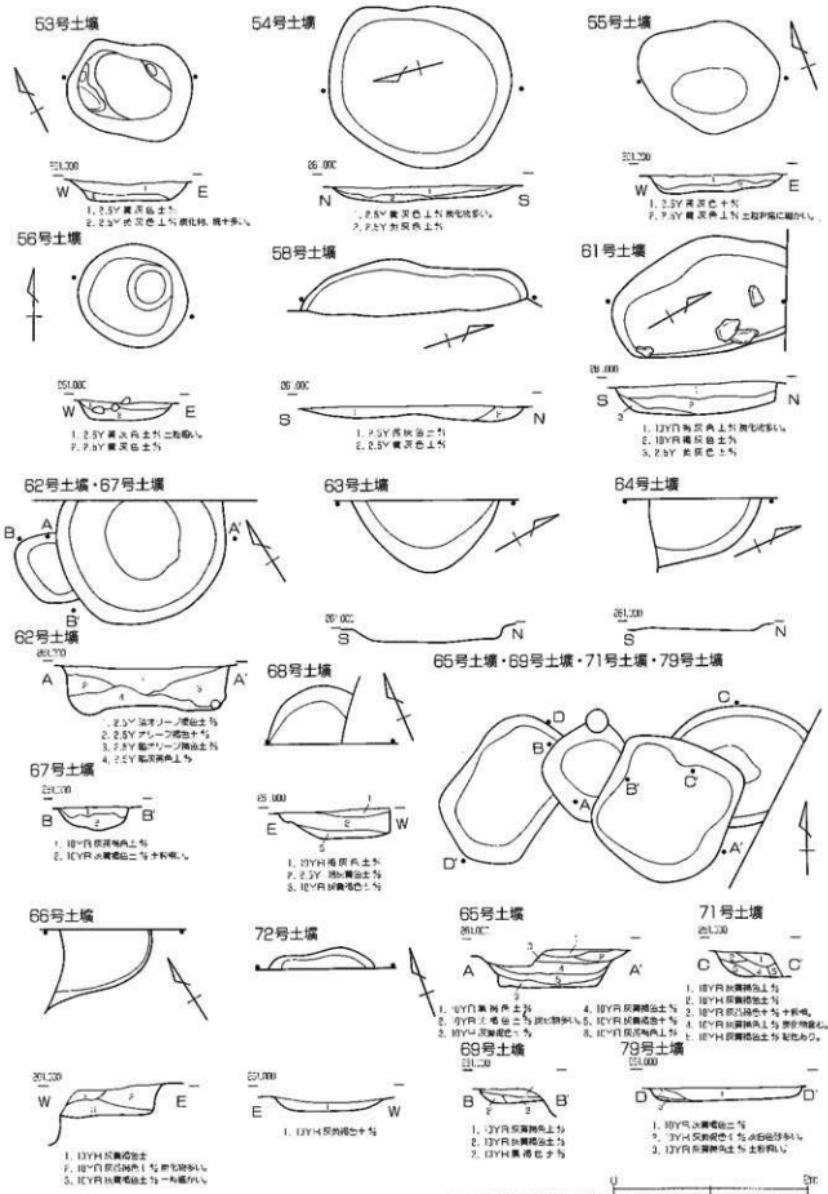


図18 53号~56号・58号・61号~69号・71号・72号・79号土壤

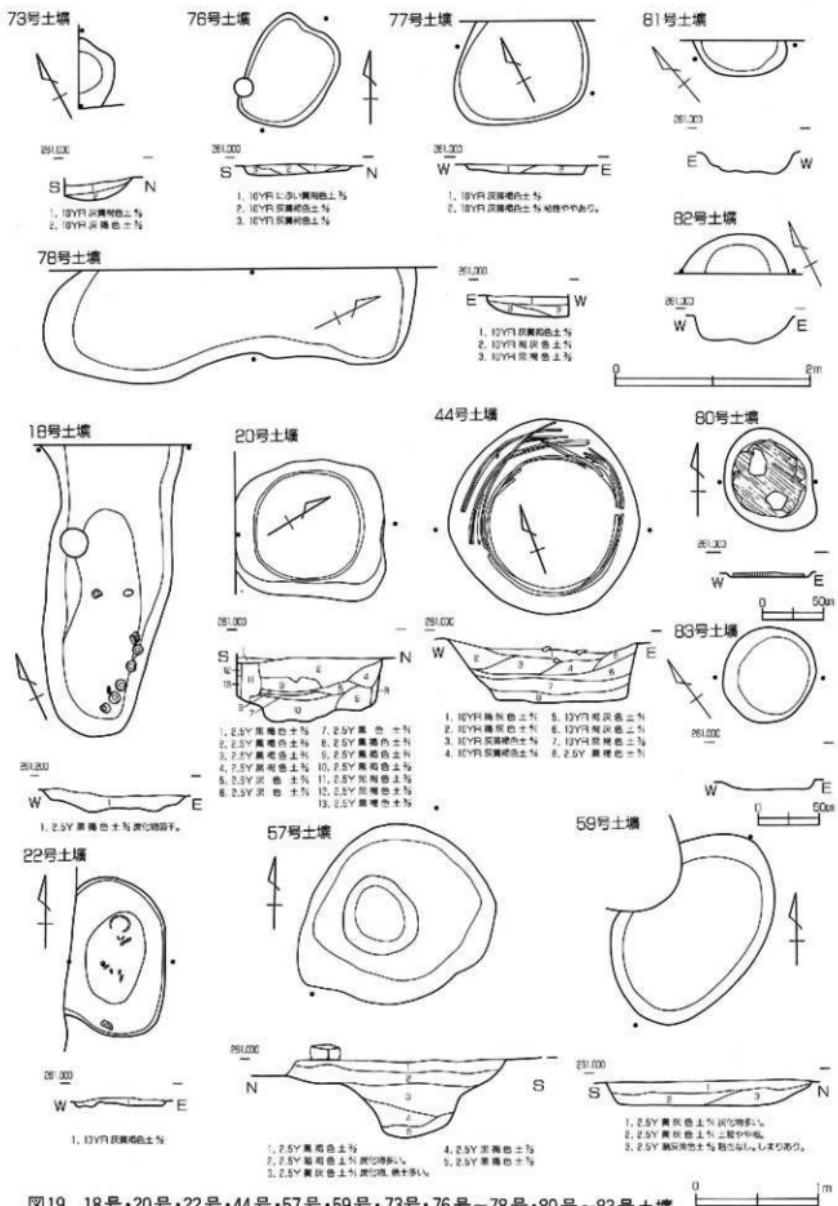


図19 18号・20号・22号・44号・57号・59号・73号・76号～78号・80号～83号土壤

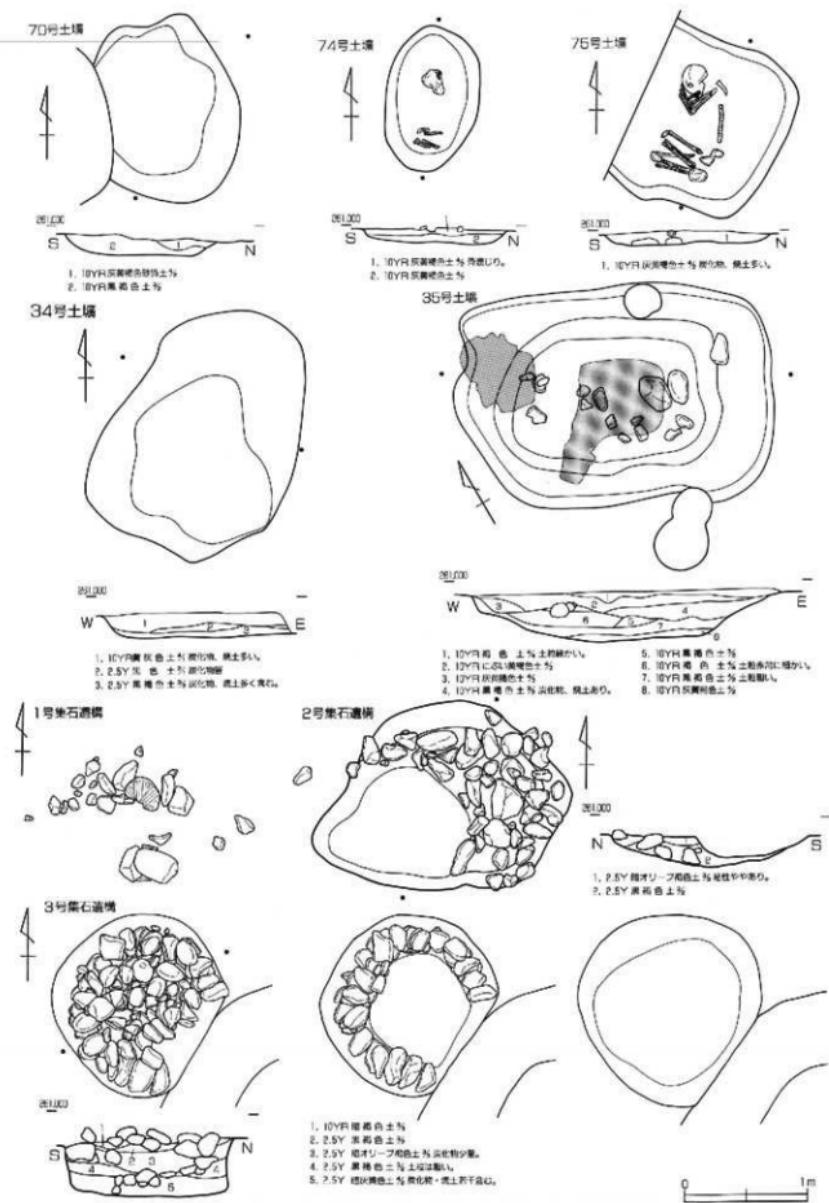


図20 34号・35号・70号・74号・75号土壤、1号～3号集石遺構

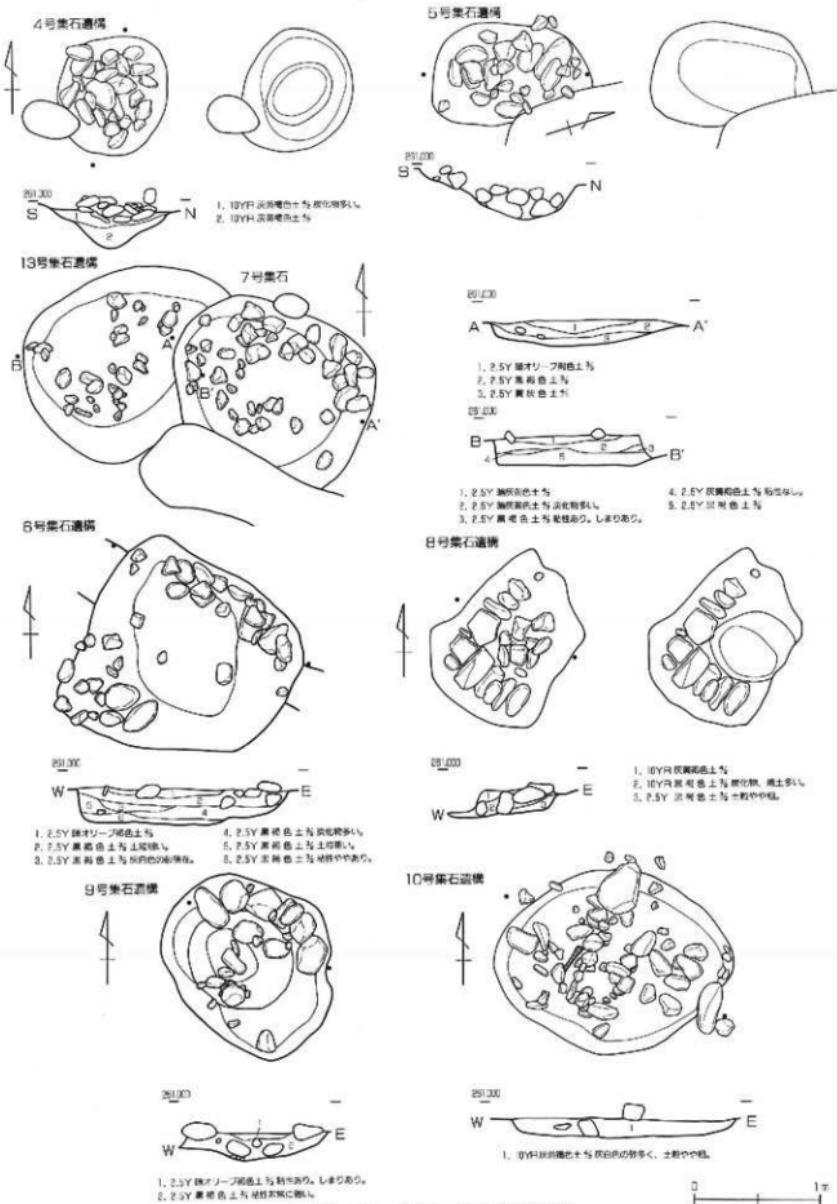


図21 4号～10号・13号集石遺構

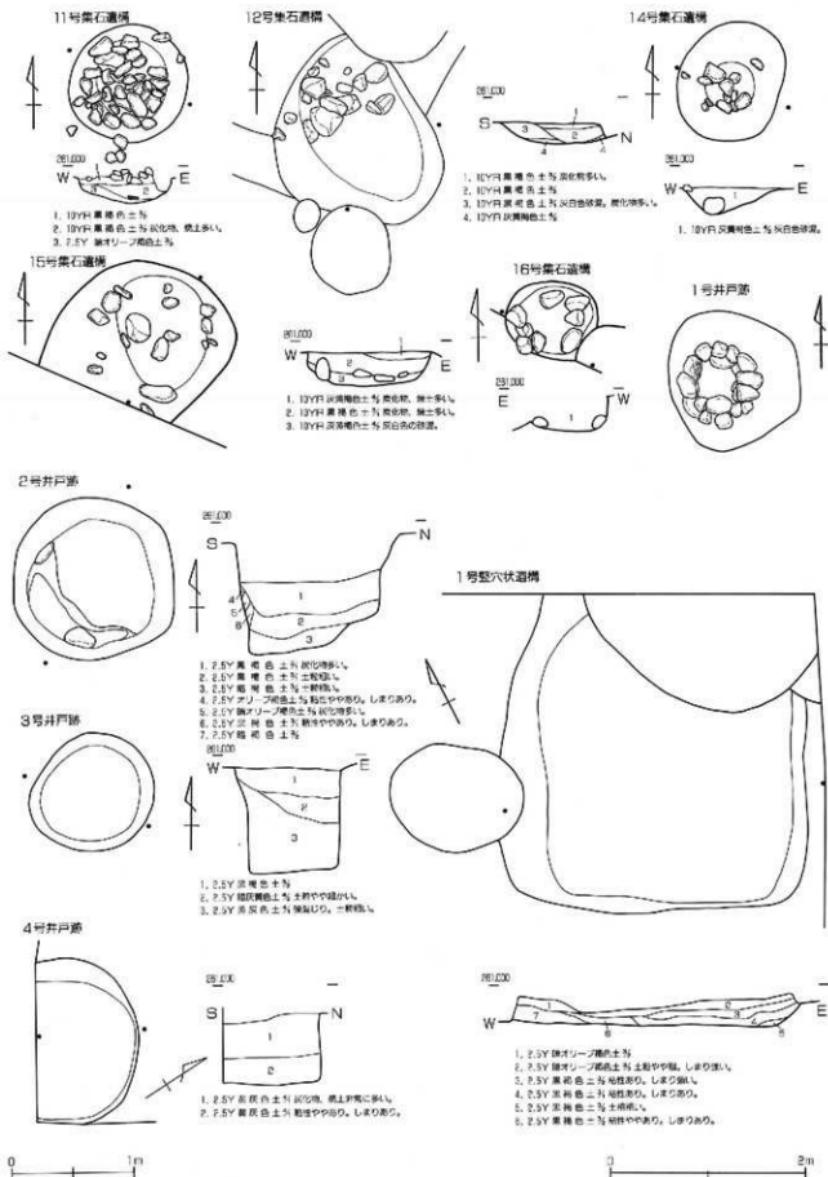
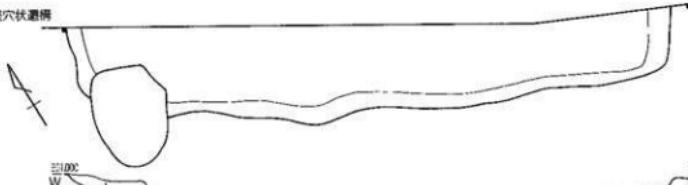
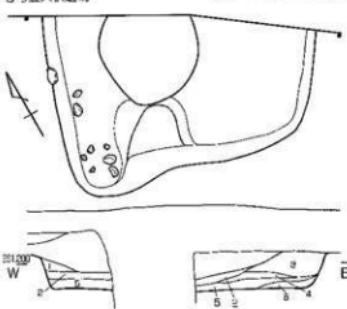


図22 11号・12号・14号・16号集石造構、1号～4号井戸跡、1号豎穴状造構

2号堅穴状遺構

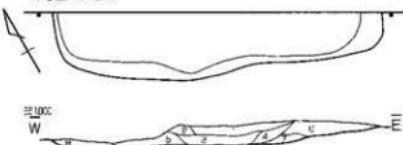


3号堅穴状遺構



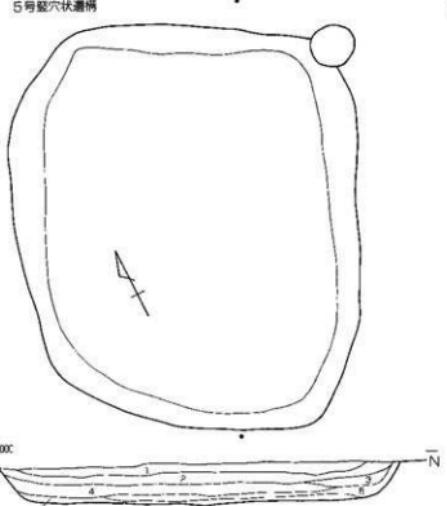
1. 10YR 売基岩土を含む物。無十無し。
2. 10YR 黄褐色土を上にやや厚。

4号堅穴状遺構



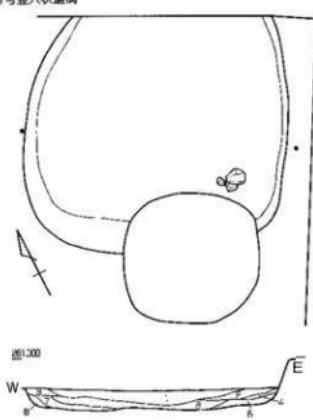
1. 2.5Y 黄色土を含む物が多い。
2. 2.5Y 黄褐色土を上にやや厚。
3. 2.5Y 黄褐色土を含む物や多い。
4. 2.5Y 黄褐色土を含む物、無し。
5. 2.5Y 黄褐色土を含む物や多い。しきりあり。
6. 2.5Y 黄褐色土を含む物や多い。
7. 2.5Y 黄褐色土を含む物なし。
8. 2.5Y 黄褐色土を含む物なし。しまりなし。

5号堅穴状遺構



1. 2.5Y 黄褐色土を含む物多い。
2. 2.5Y 黄褐色土を含む物、無し。
3. 2.5Y 黄褐色土を含む物や多い。
4. 2.5Y 黄褐色土を含む物や多い。

6号堅穴状遺構



1. 2.5Y 黄褐色土を含む物多い。
2. 2.5Y 黄褐色土を含む物や多い。
3. 2.5Y 黄褐色土を含む物や多い。しまりあり。
4. 2.5Y 黄褐色土を含む物なし。しまりあり。
5. 2.5Y 黄褐色土を含む物を含む。
6. 2.5Y 黄褐色土を上にやや厚。
7. 2.5Y 黄褐色土を二列はやや厚。
8. 2.5Y 黄褐色土を二列はやや厚。

図23 2号～6号堅穴状遺構



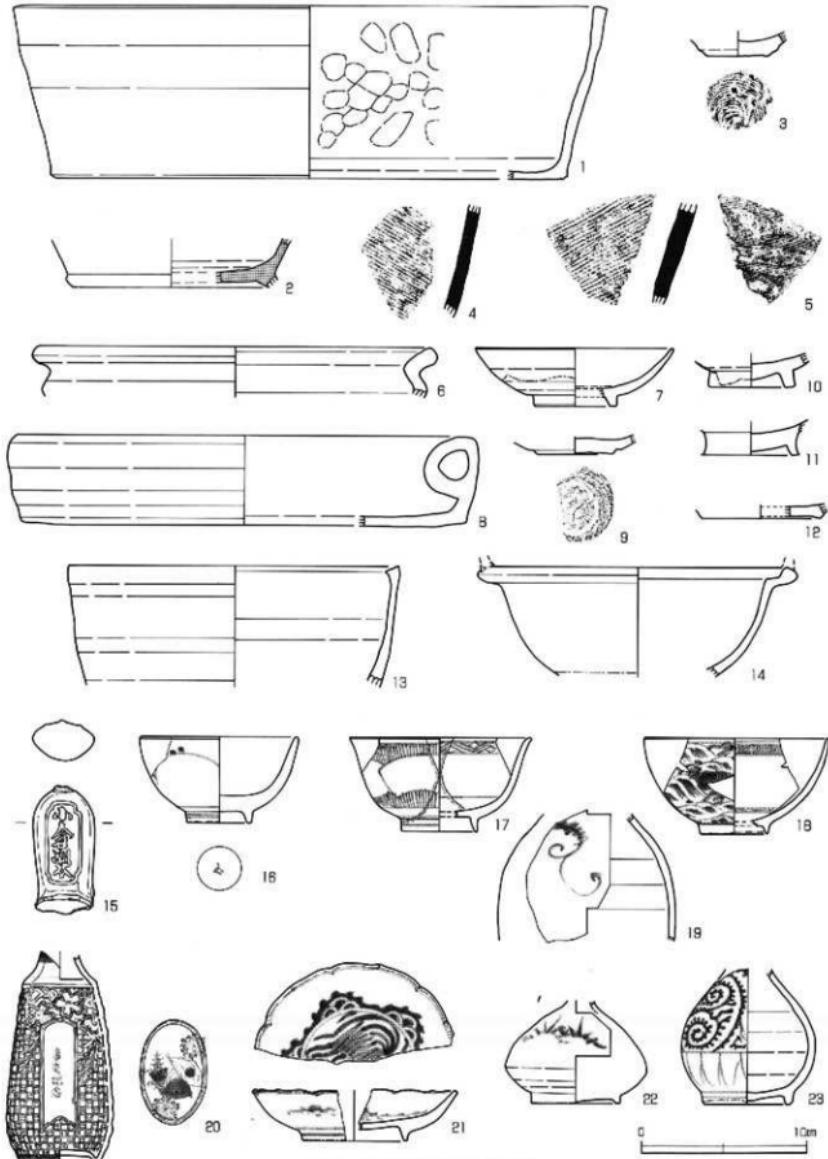


図24 1号堀跡出土遺物(1)

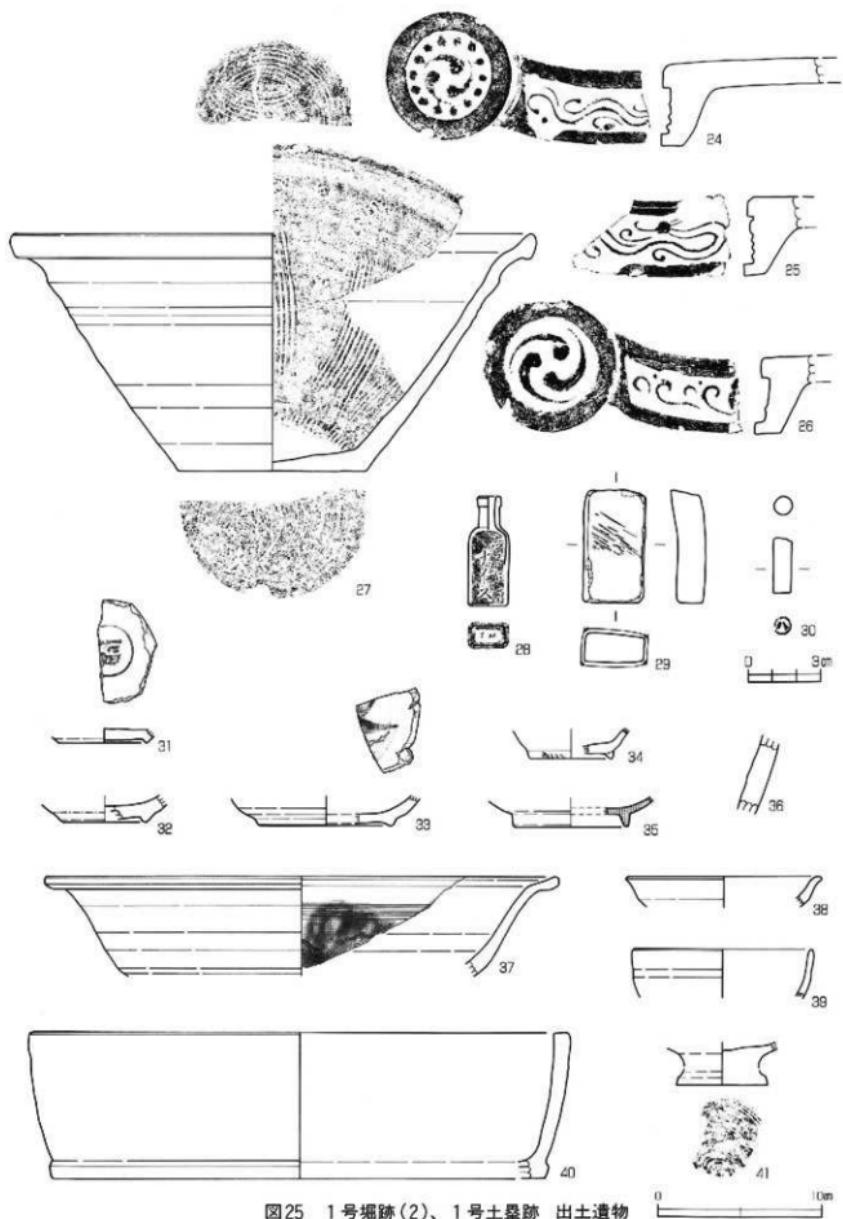


図25 1号堀跡(2)、1号土塁跡 出土遺物

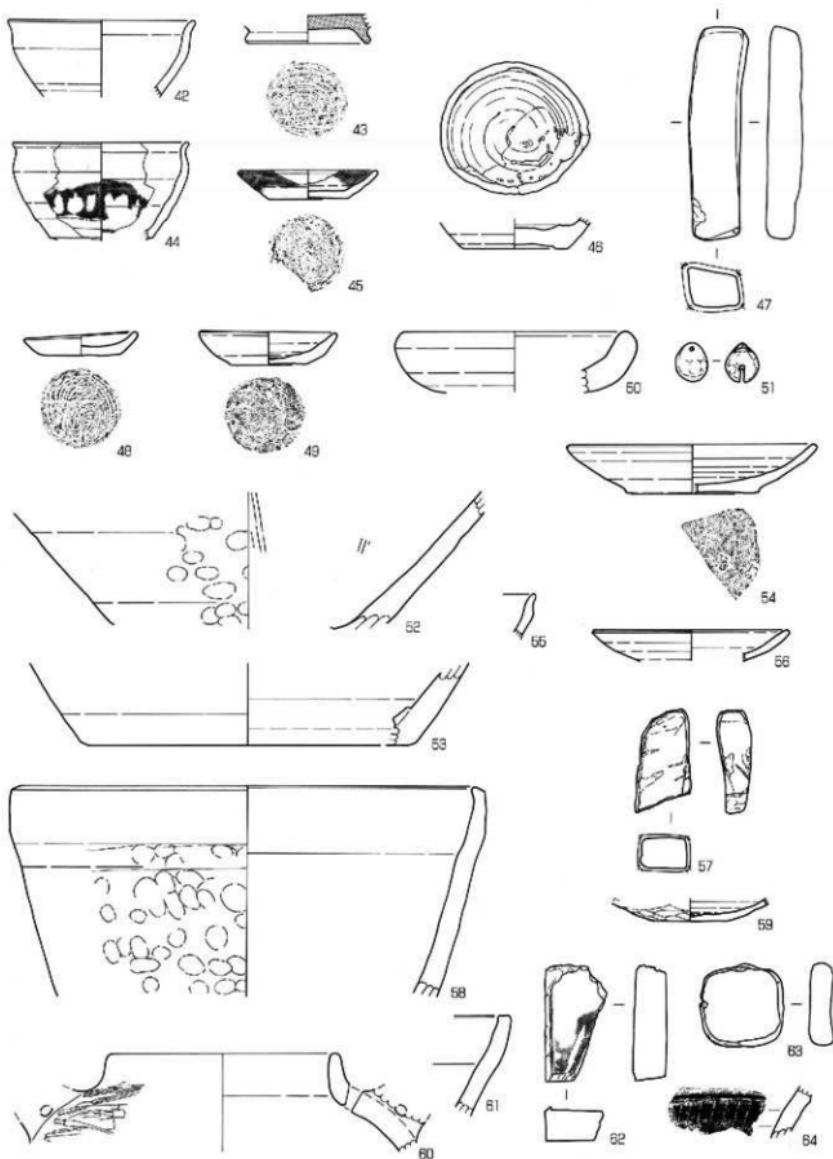


図26 1号・2号・7号～10号・13号(1) 溝跡出土遺物

0 10m

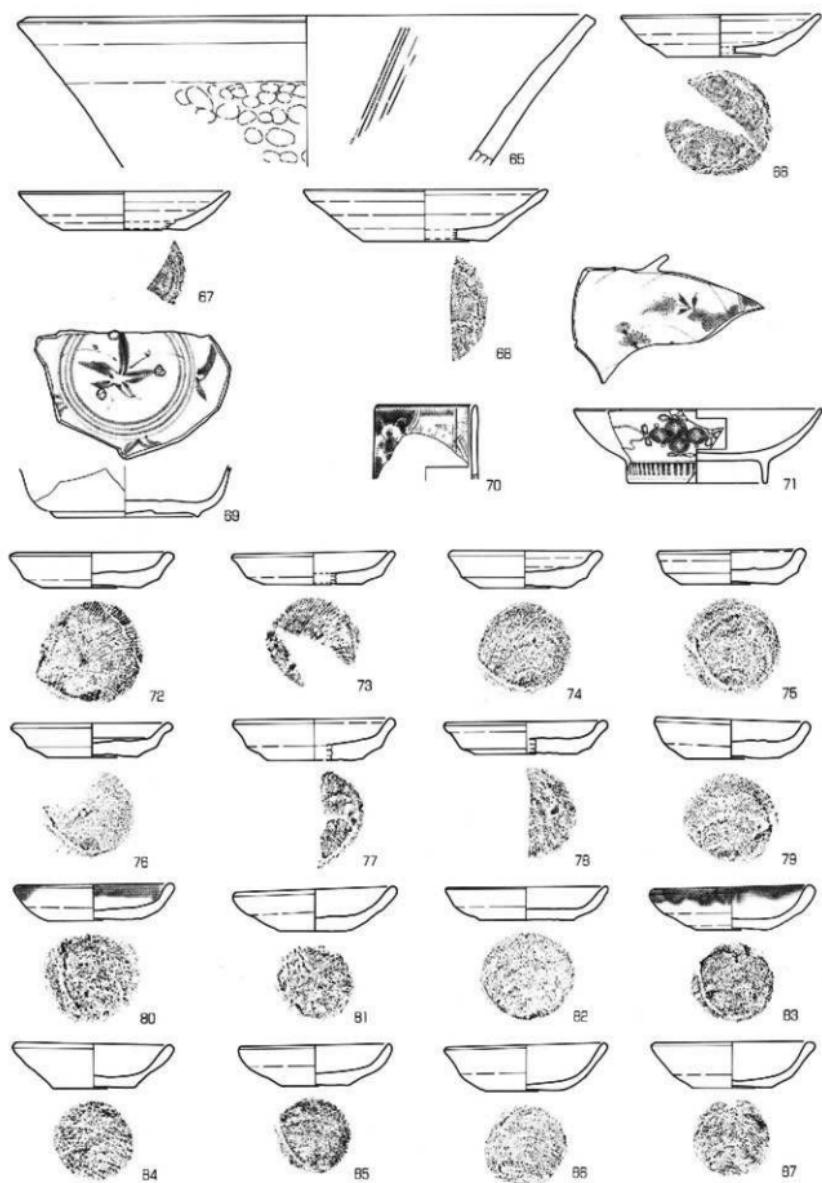


図27 13号(2)～15号(1) 溝跡出土遺物

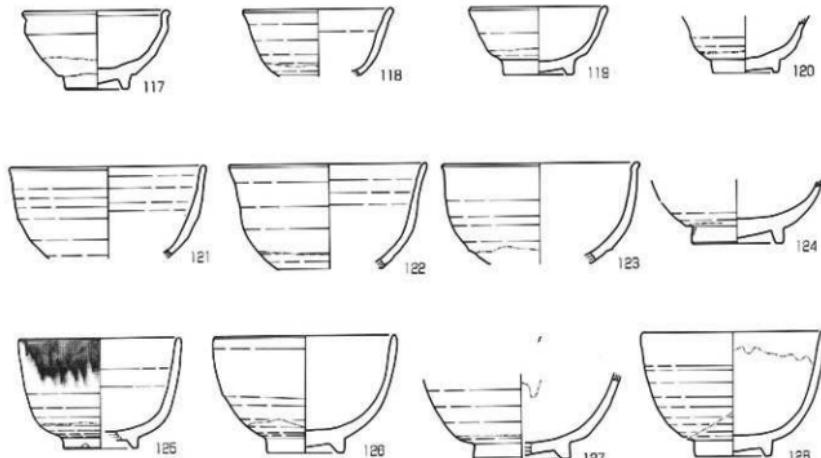
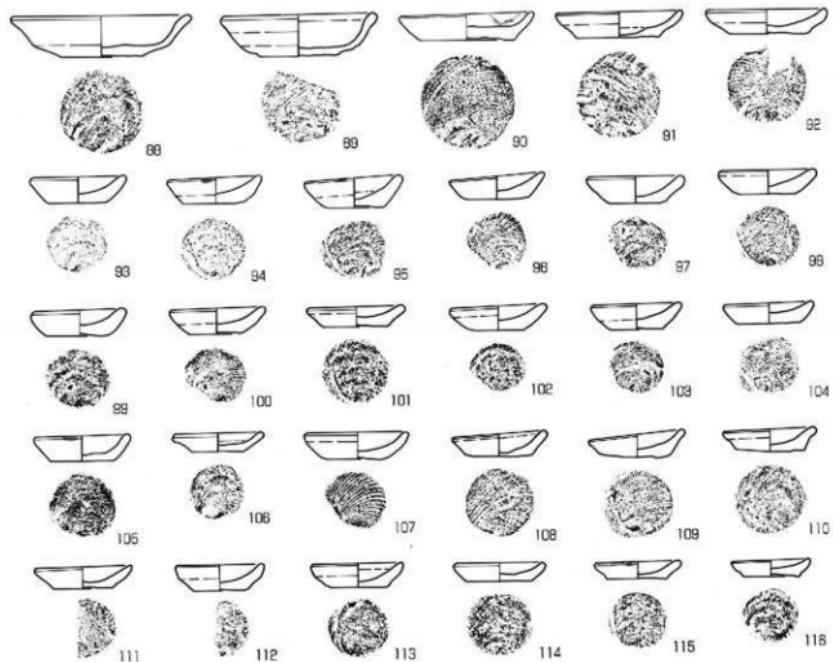


図28 15号溝跡出土遺物(2)

0 10cm

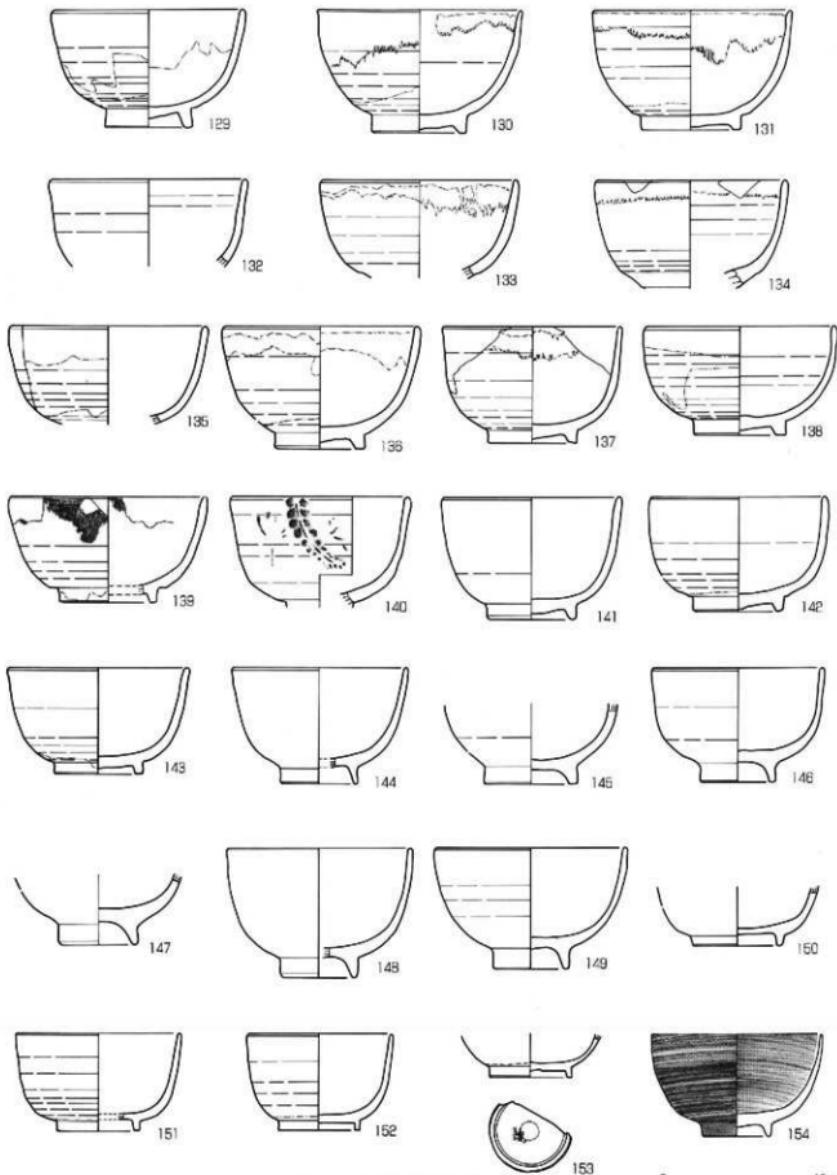


图29 15号溝跡出土遺物(3)

0 10cm

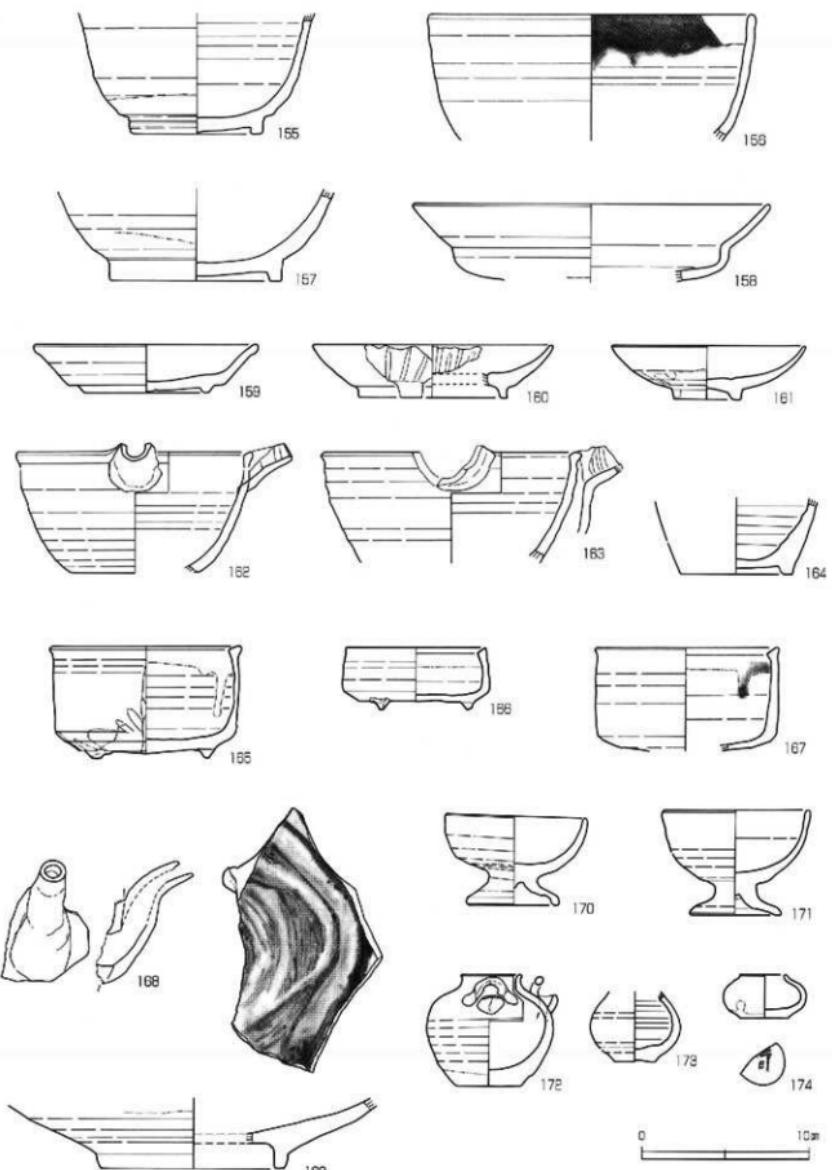


図30 15号溝跡出土遺物(4)

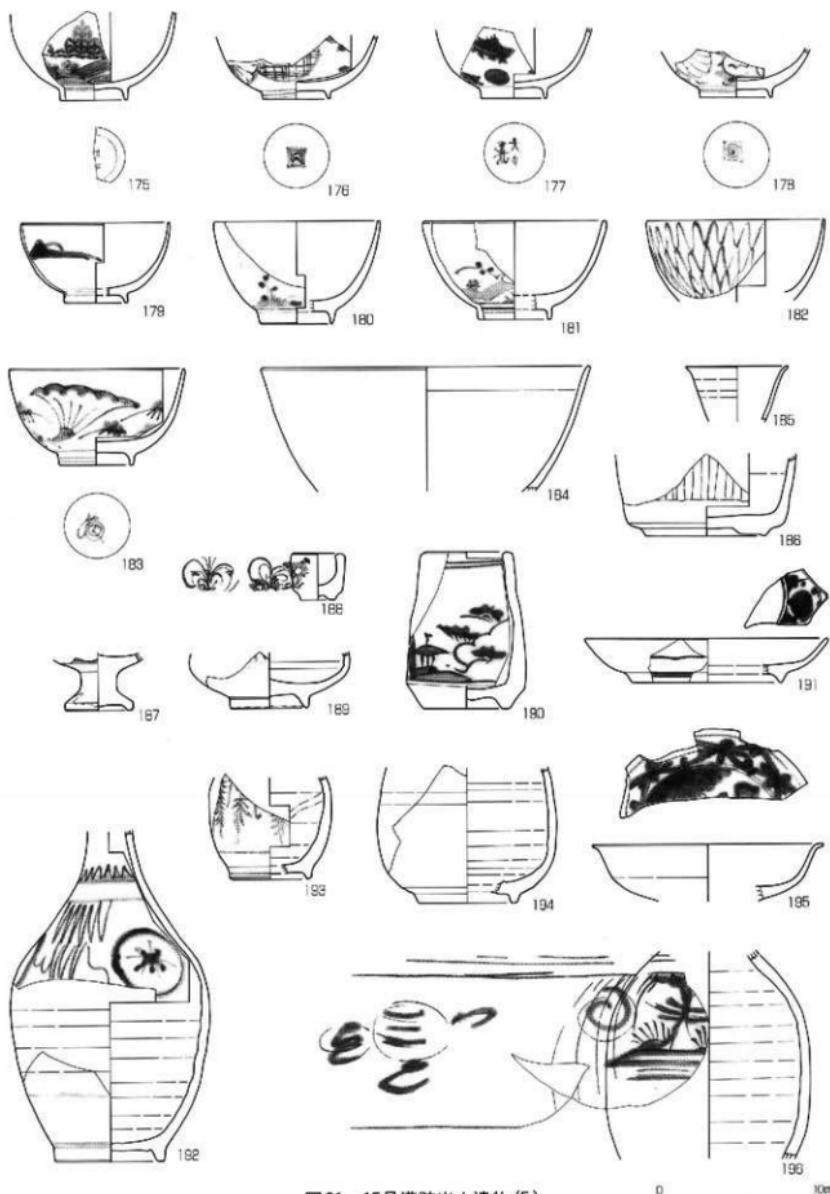


図31 15号溝跡出土遺物(5)

0 10cm

図32 15号溝跡出土遺物(6)

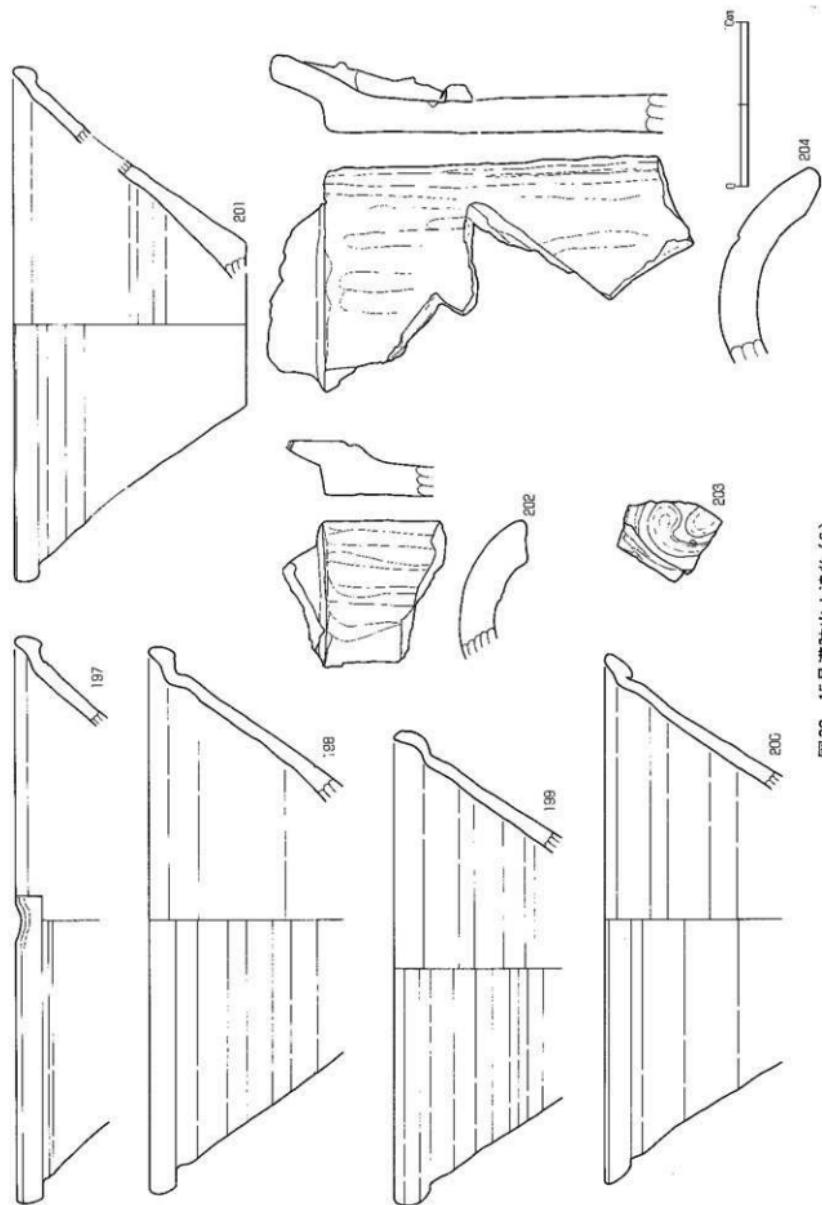
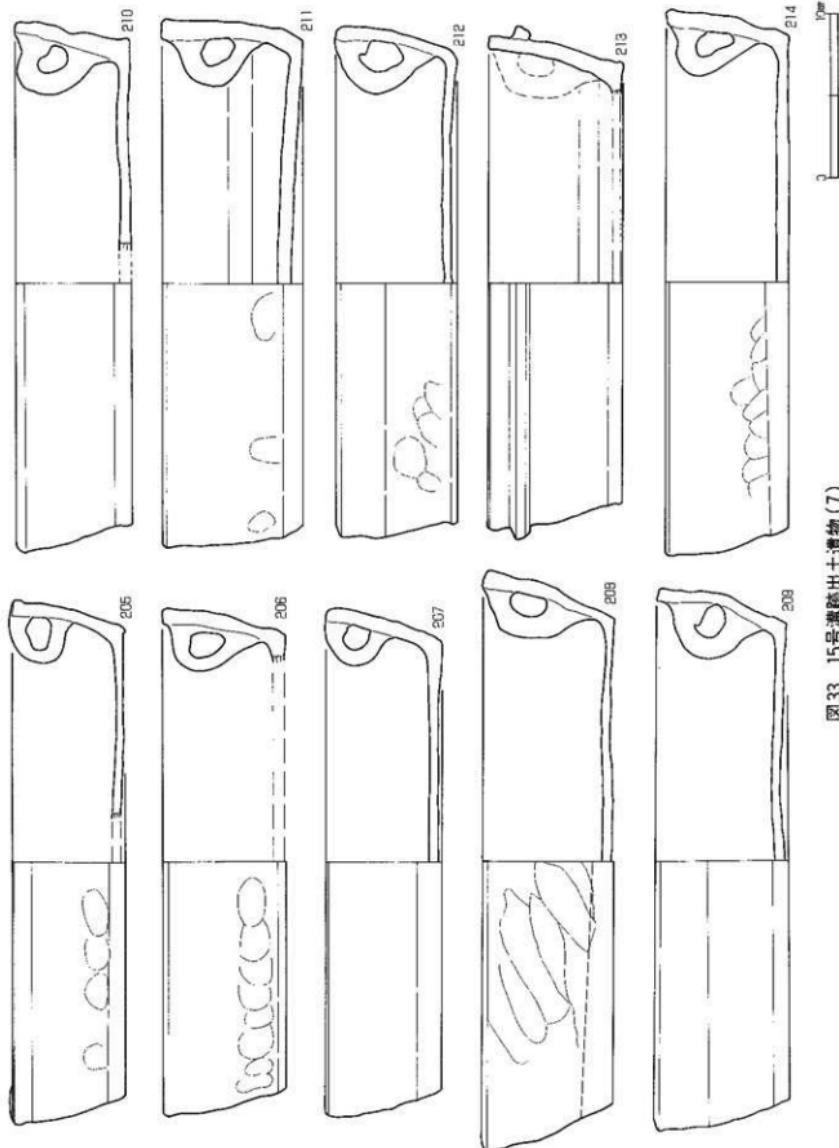


圖 33 15號溝出土遺物 (7)



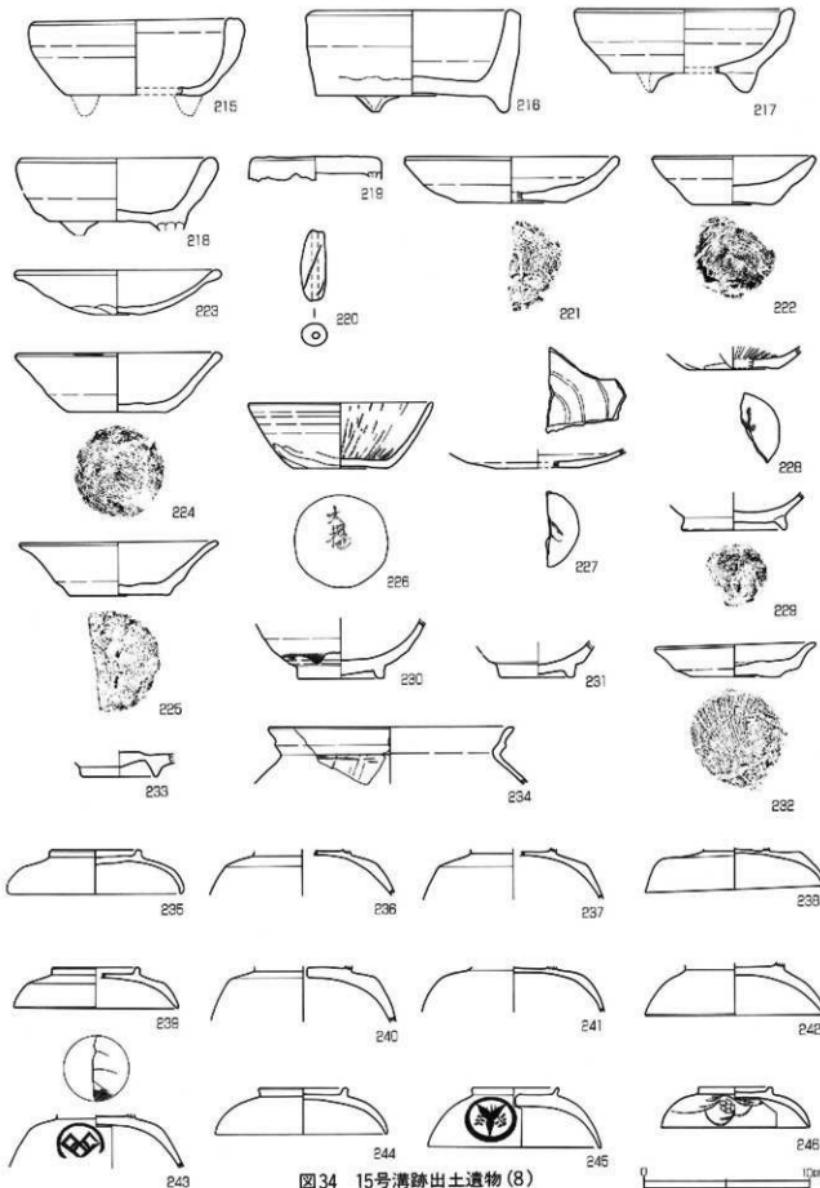


図34 15号溝跡出土遺物(8)



図35 15号溝跡出土遺物(9)

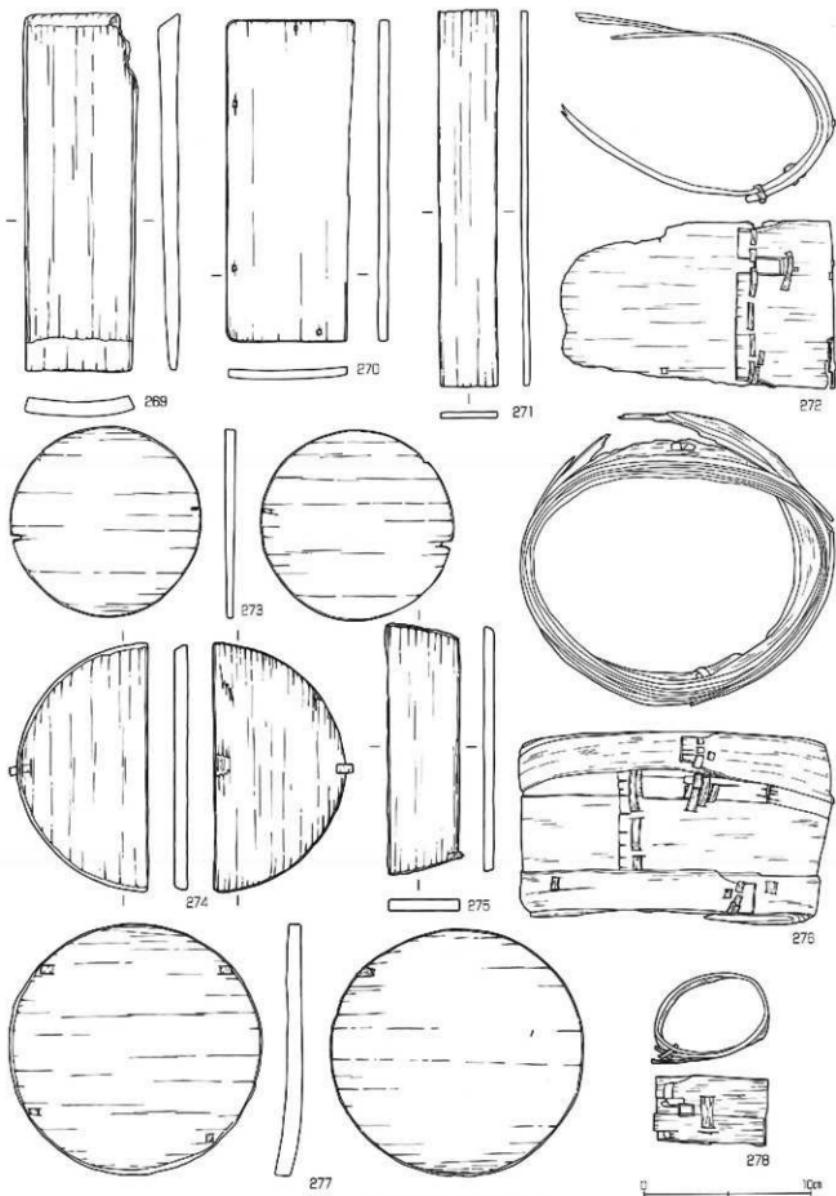


図36 15号溝跡出土遺物(10)

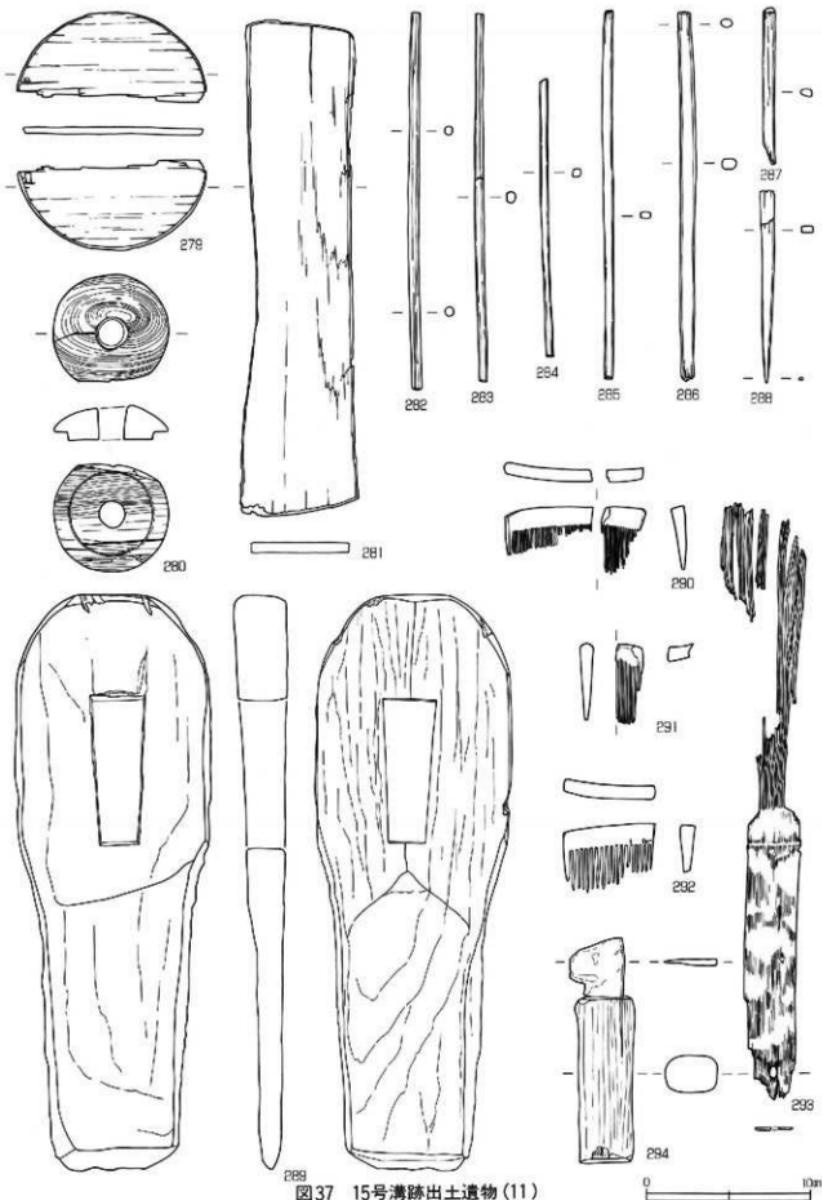


図37 15号溝跡出土遺物(11)

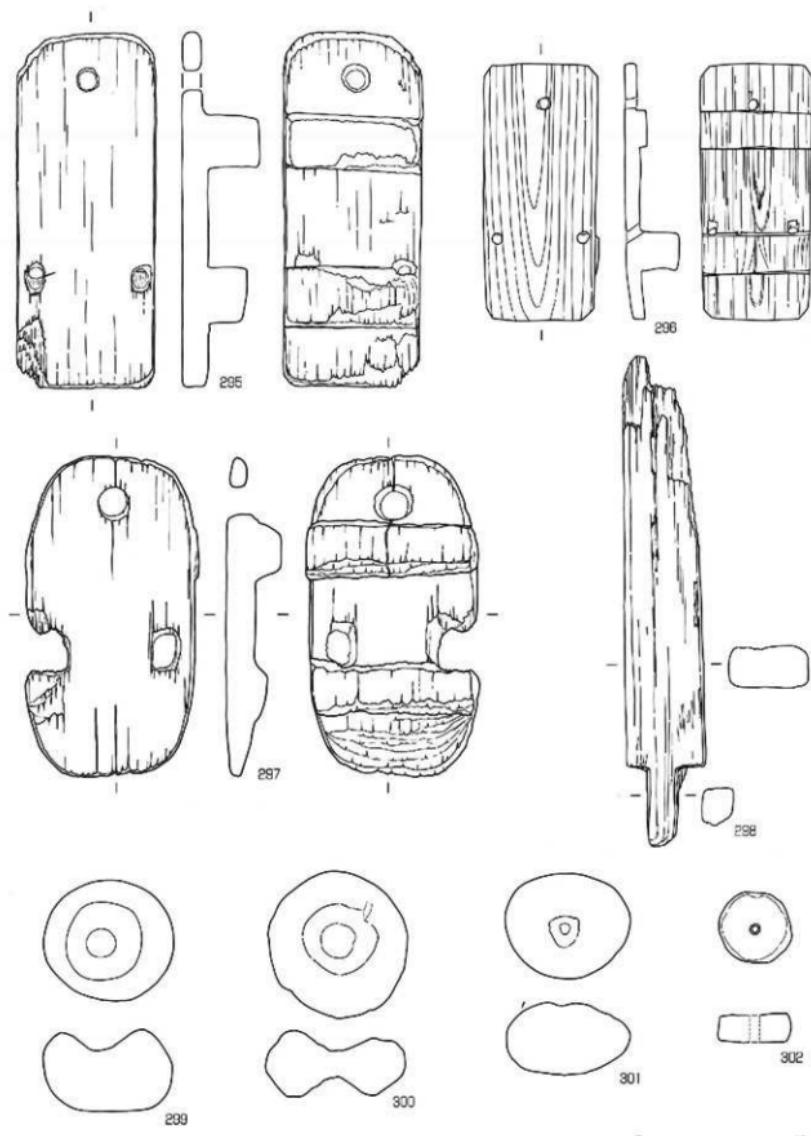


図38 15号溝跡出土遺物(12)

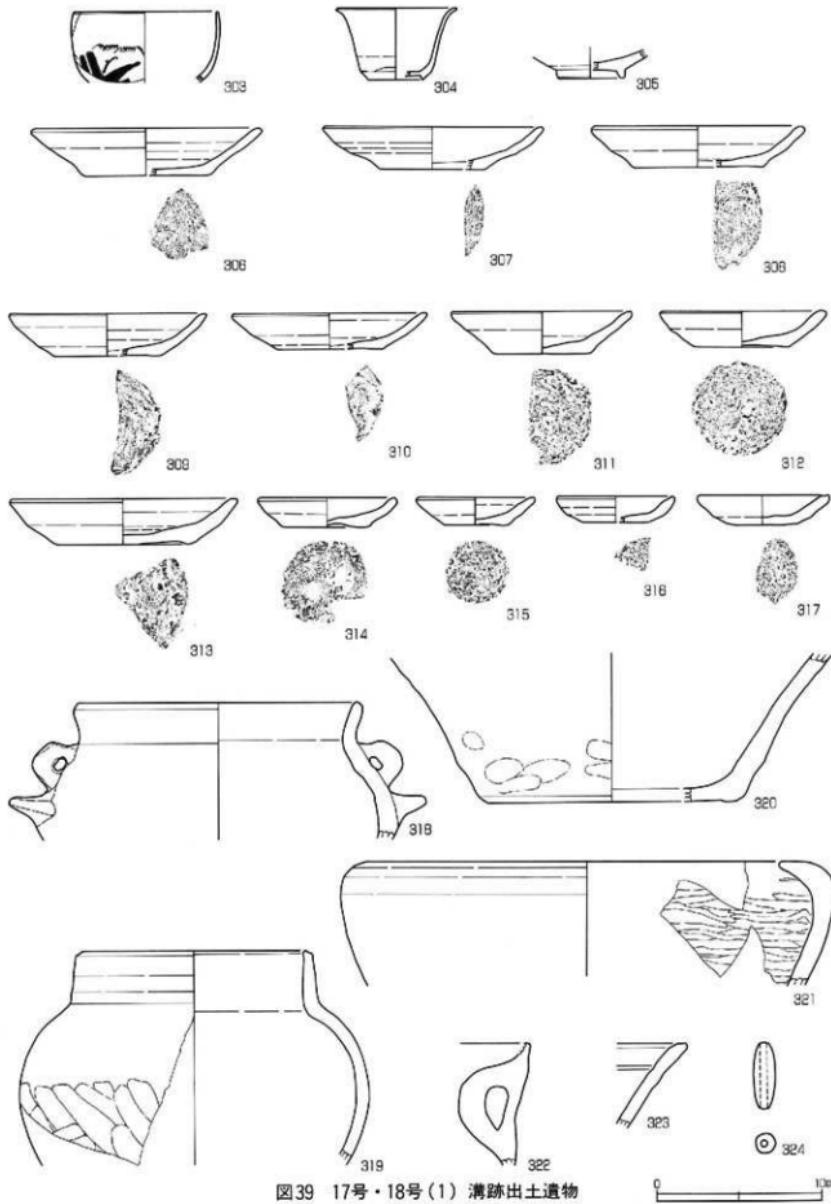


図39 17号・18号(1) 溝跡出土遺物

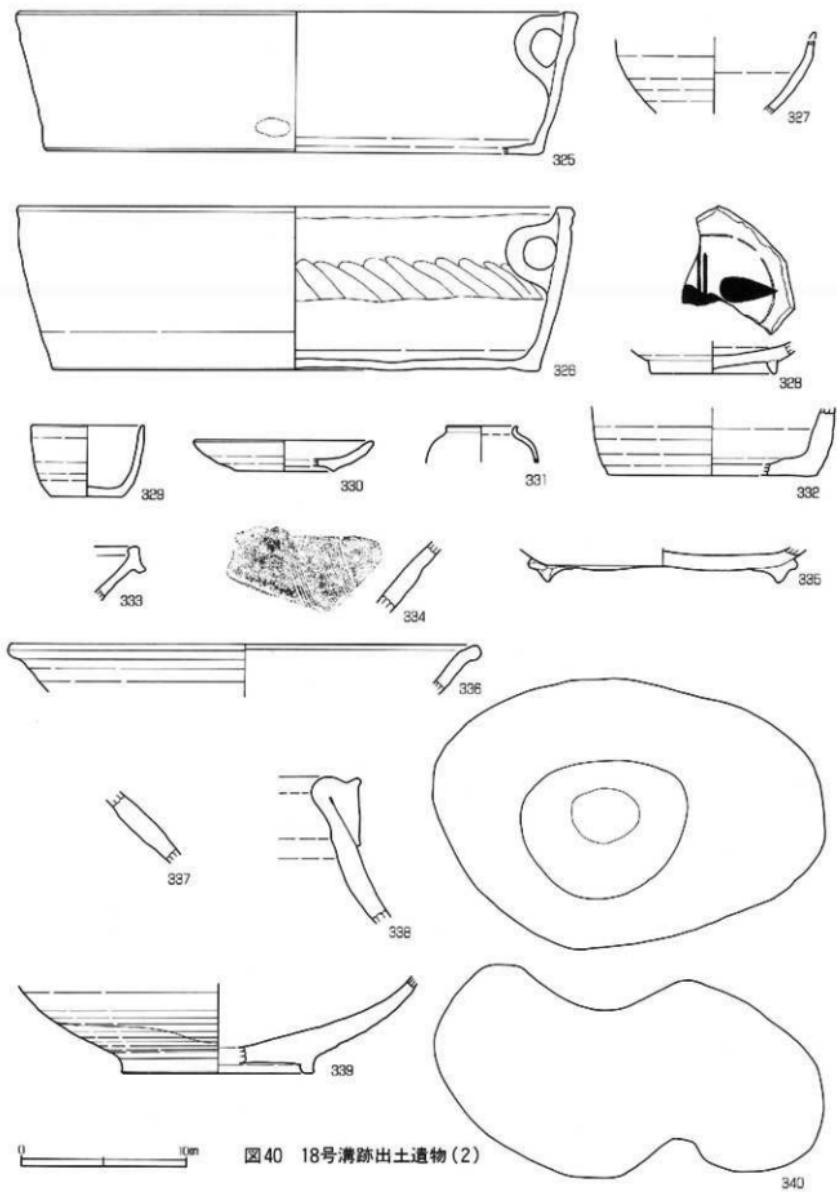


図40 18号溝跡出土遺物(2)

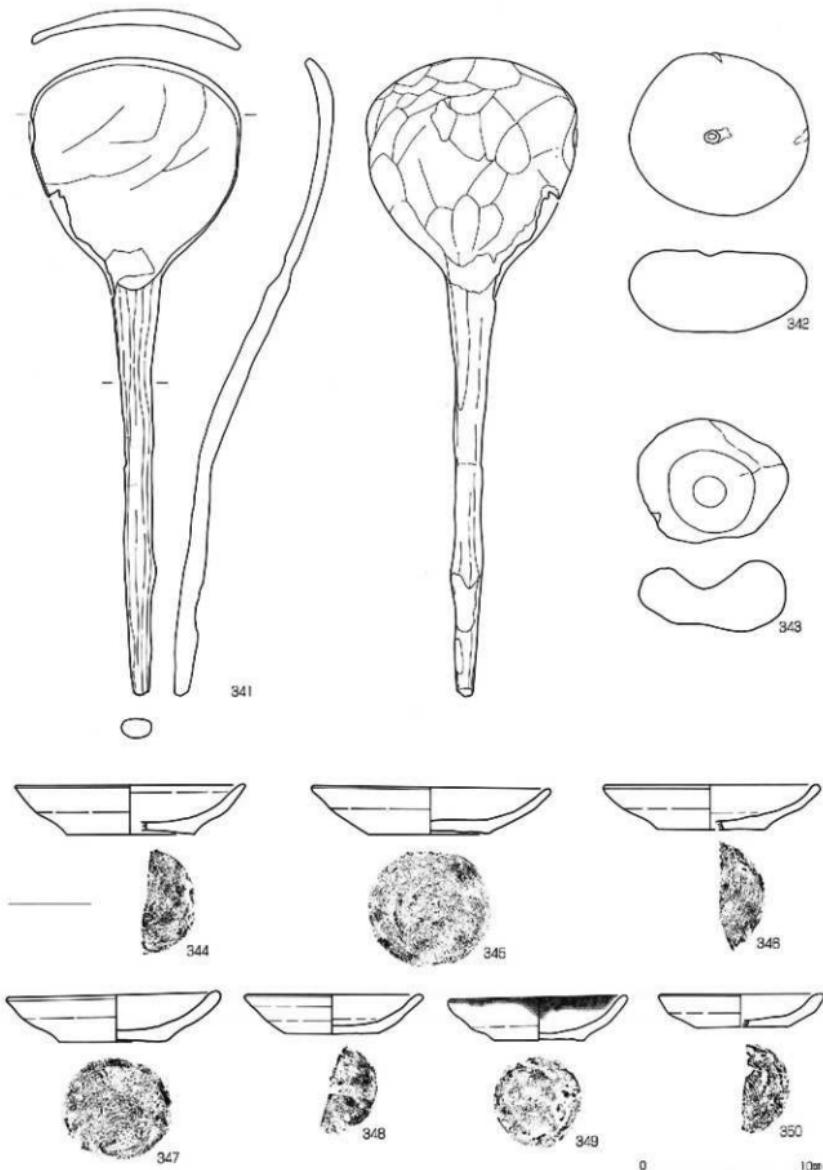


図41 18号(3)・19号(1) 溝跡出土遺物

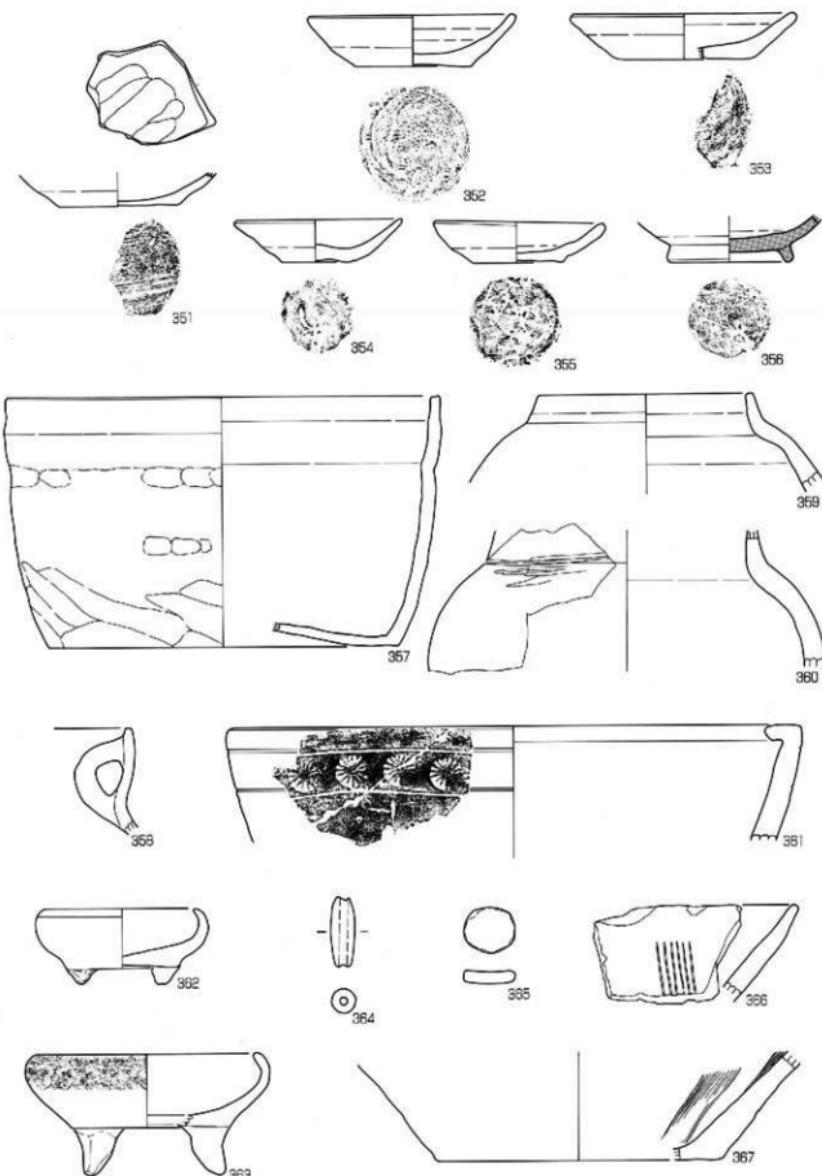


図42 19号溝跡出土遺物(2)

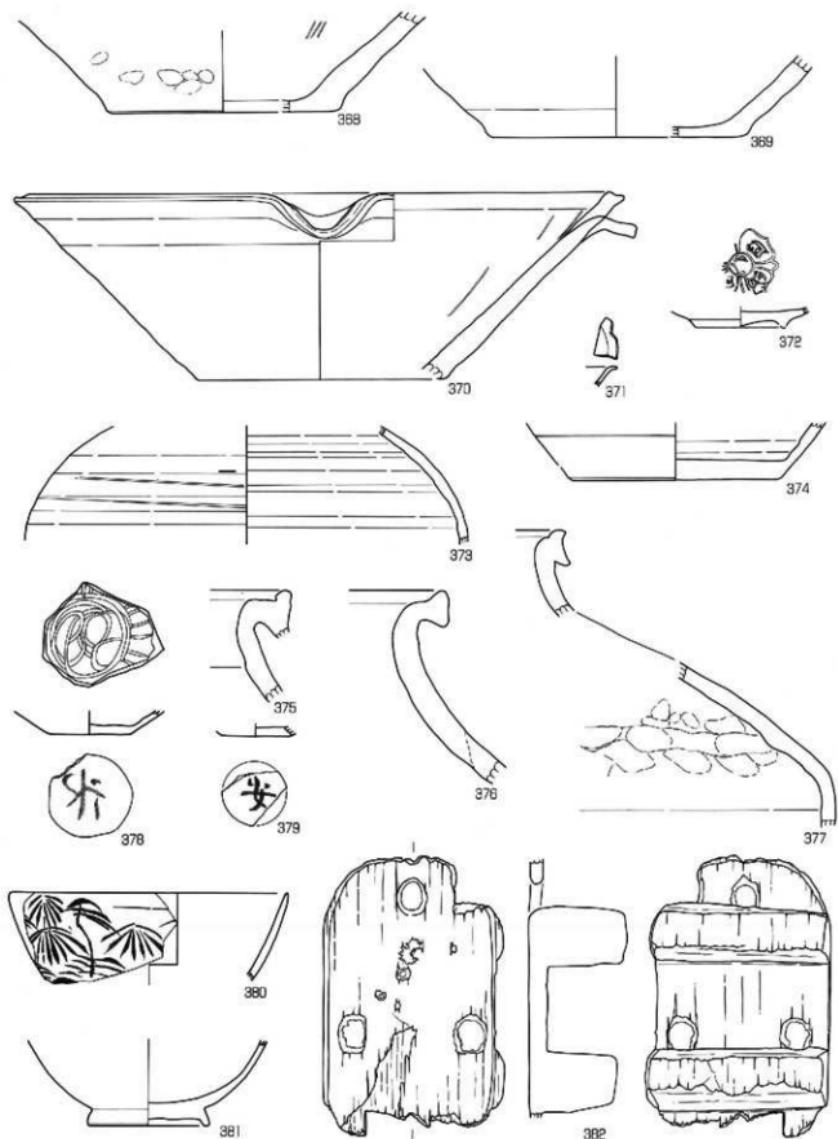


図43 19号溝跡出土遺物(3)

0 10cm

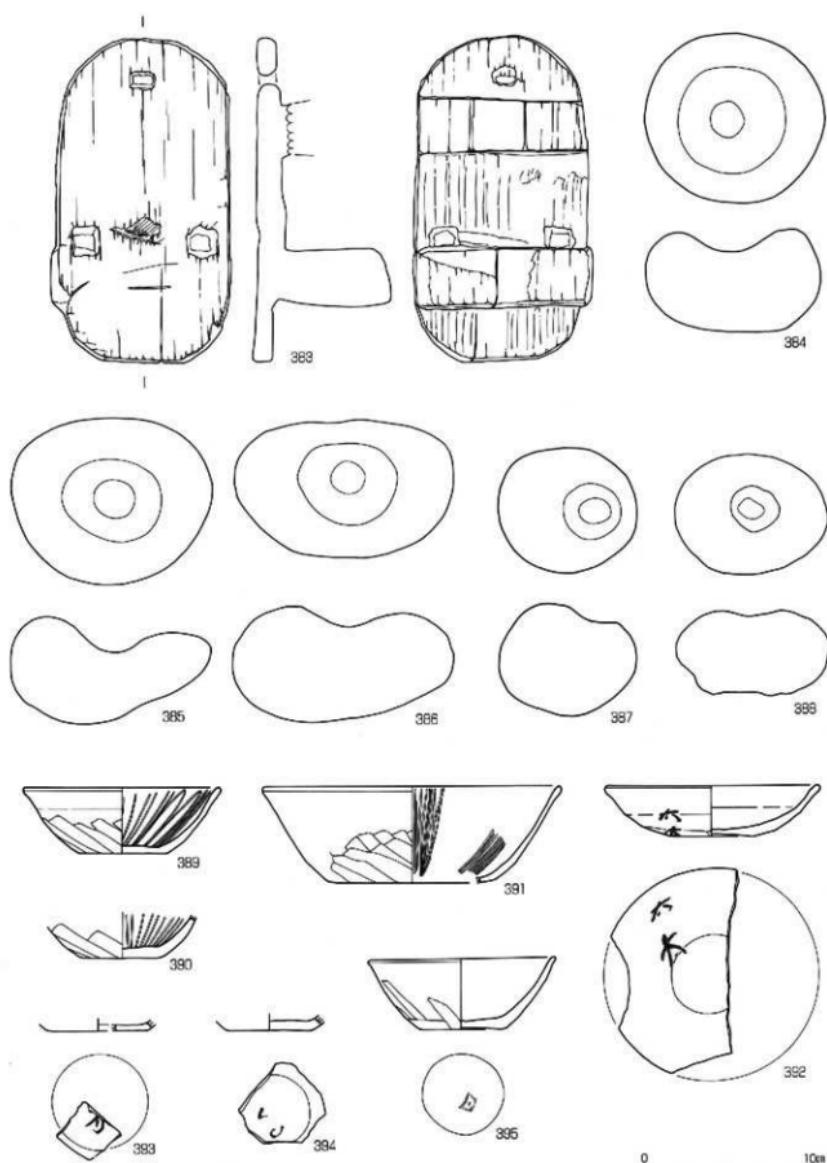


図44 19号(4)・22号(1)溝跡出土遺物

0 10cm



図45 22号溝跡出土遺物(2)

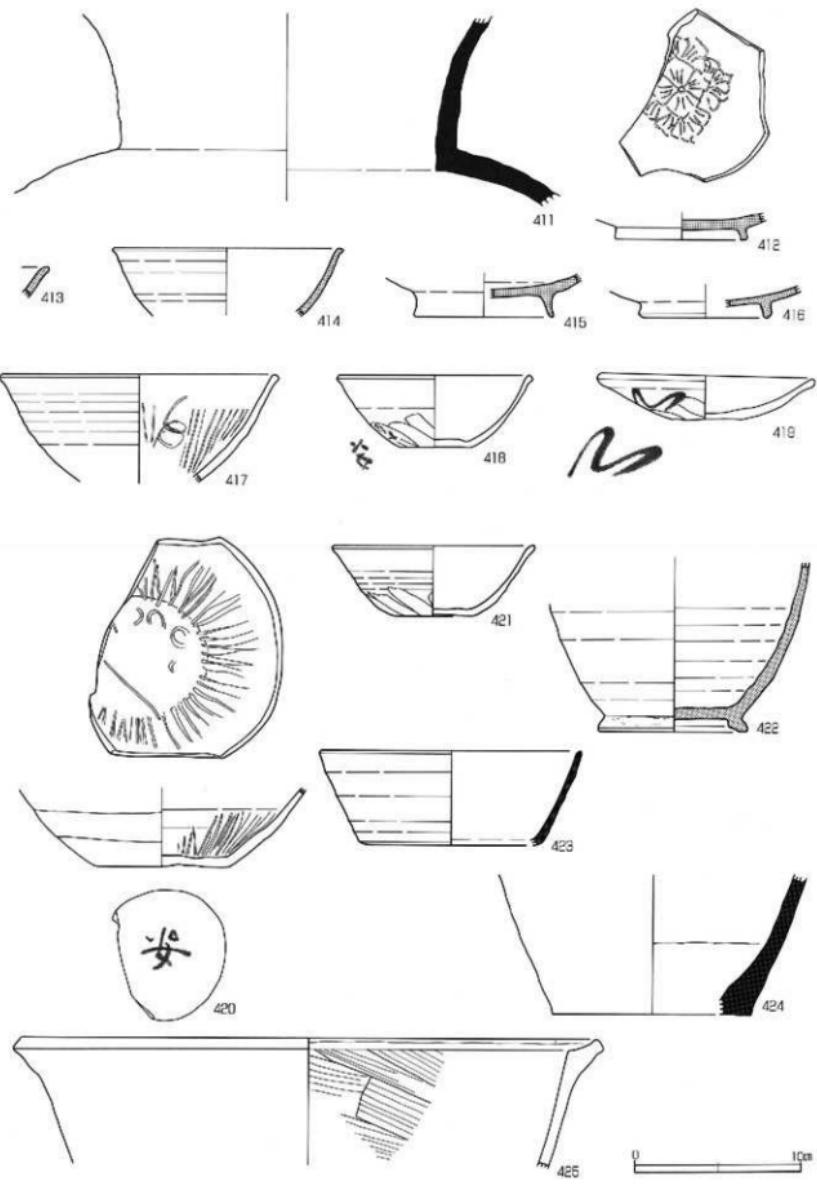


図46 22号溝跡出土遺物(3)



図47 1号～3号・6号・7号土壤出土遺物

0 10m

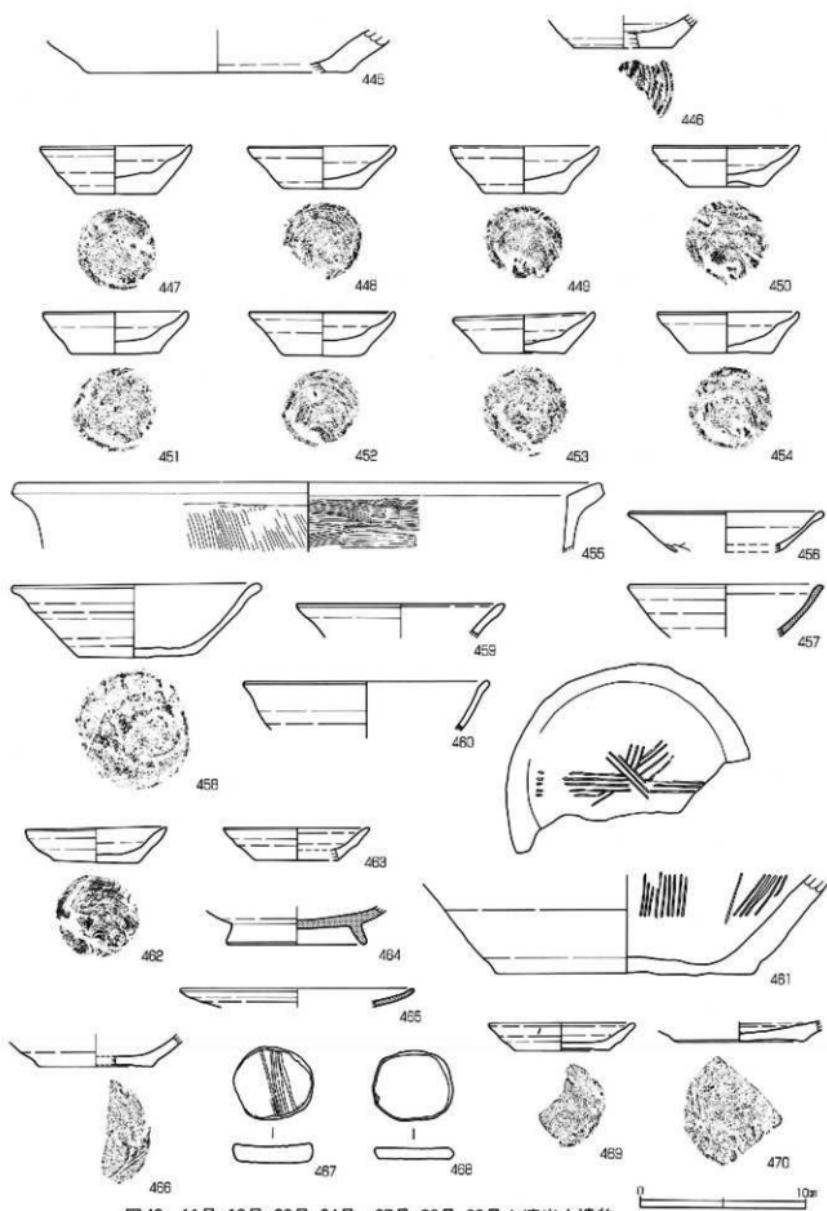


图48 11号·18号·22号·24号~27号·29号·30号土壤出土遗物

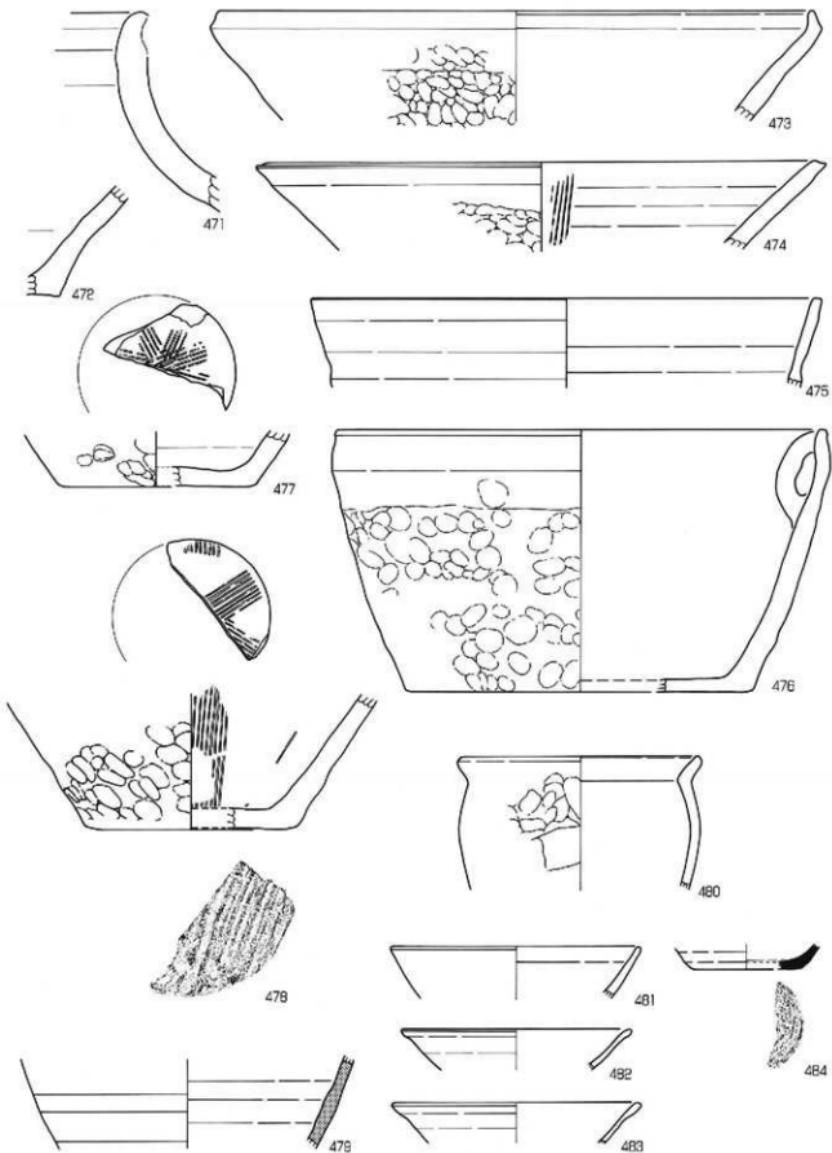


図49 30号・34号 土壌出土遺物



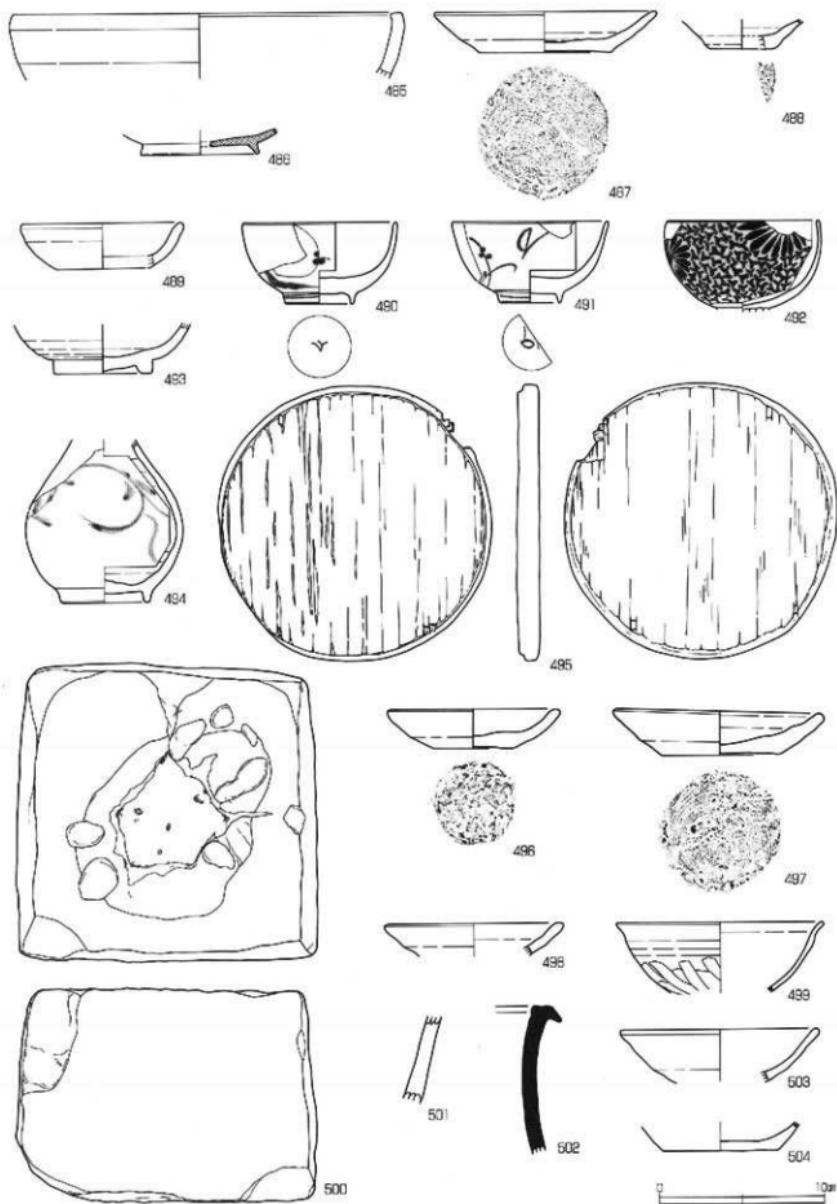


図50 35号・44号・53・54号・57号・61号(1) 土壌出土遺物

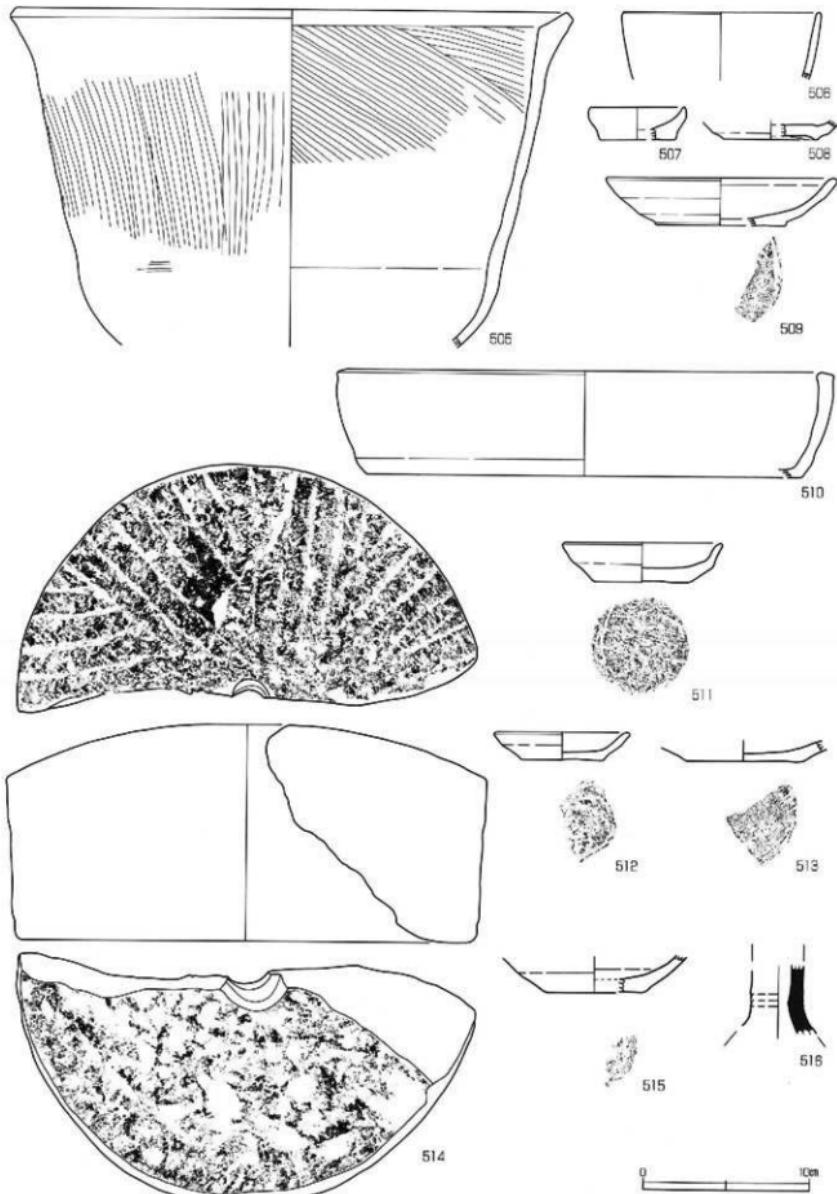


图51 61号(2)·62号·65号·73号·74号土壤、1号·2号集石造構出土遺物

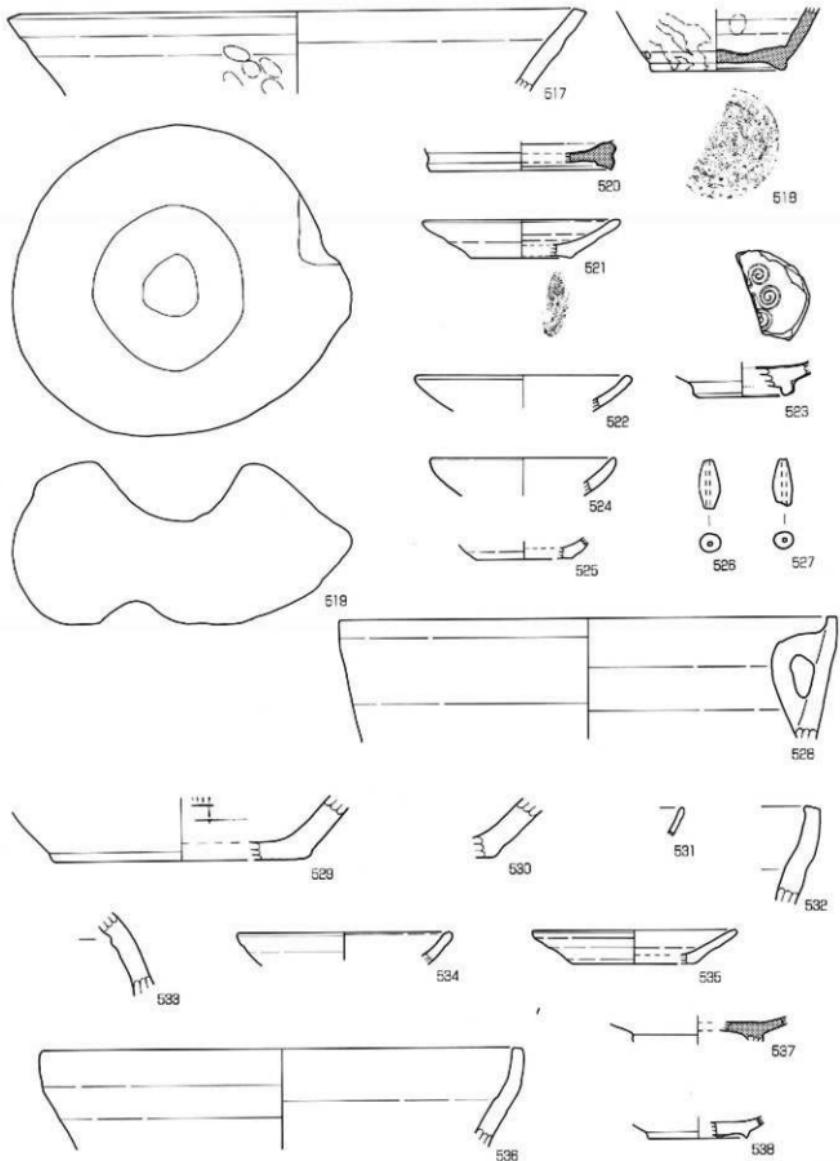


图52 2号·3号·5号~8号·10号·12号~15号集石造構出土遺物

10cm

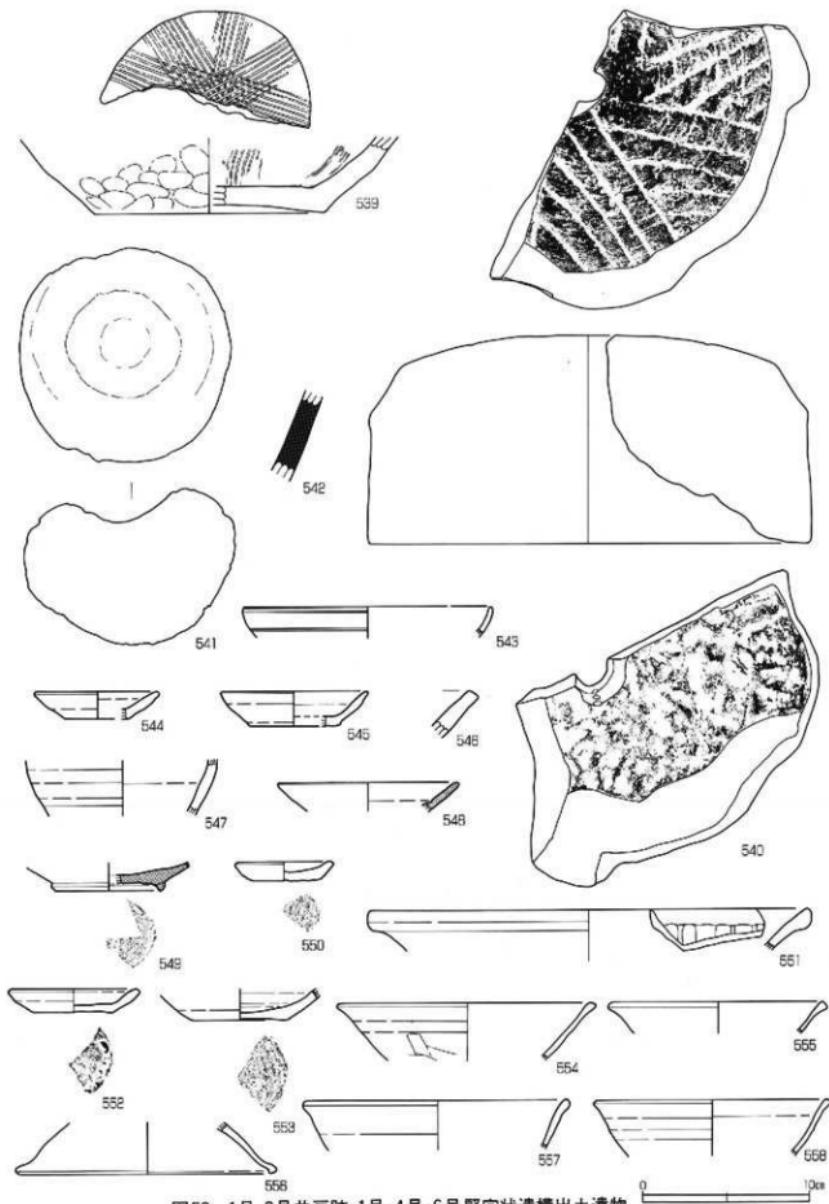


図53 1号・2号井戸跡、1号・4号・6号竪穴状遺構出土遺物

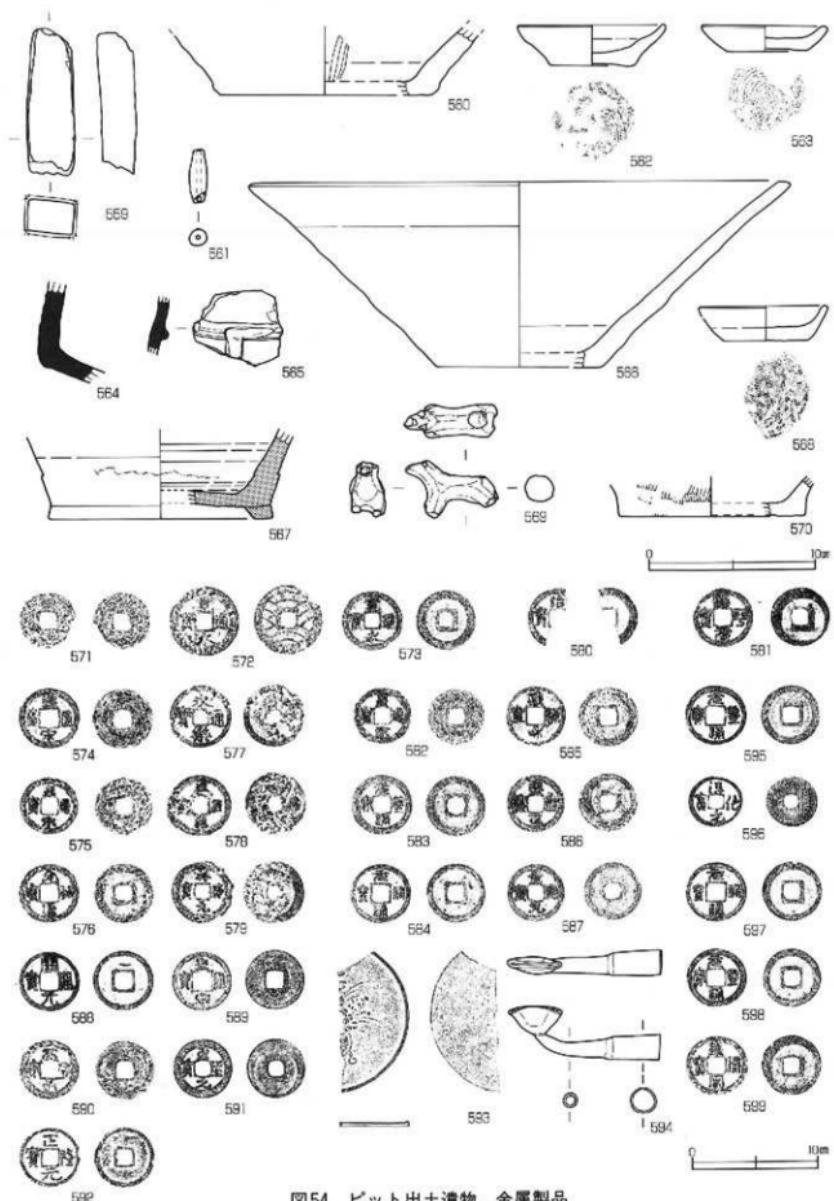


図54 ピット出土遺物、金属製品

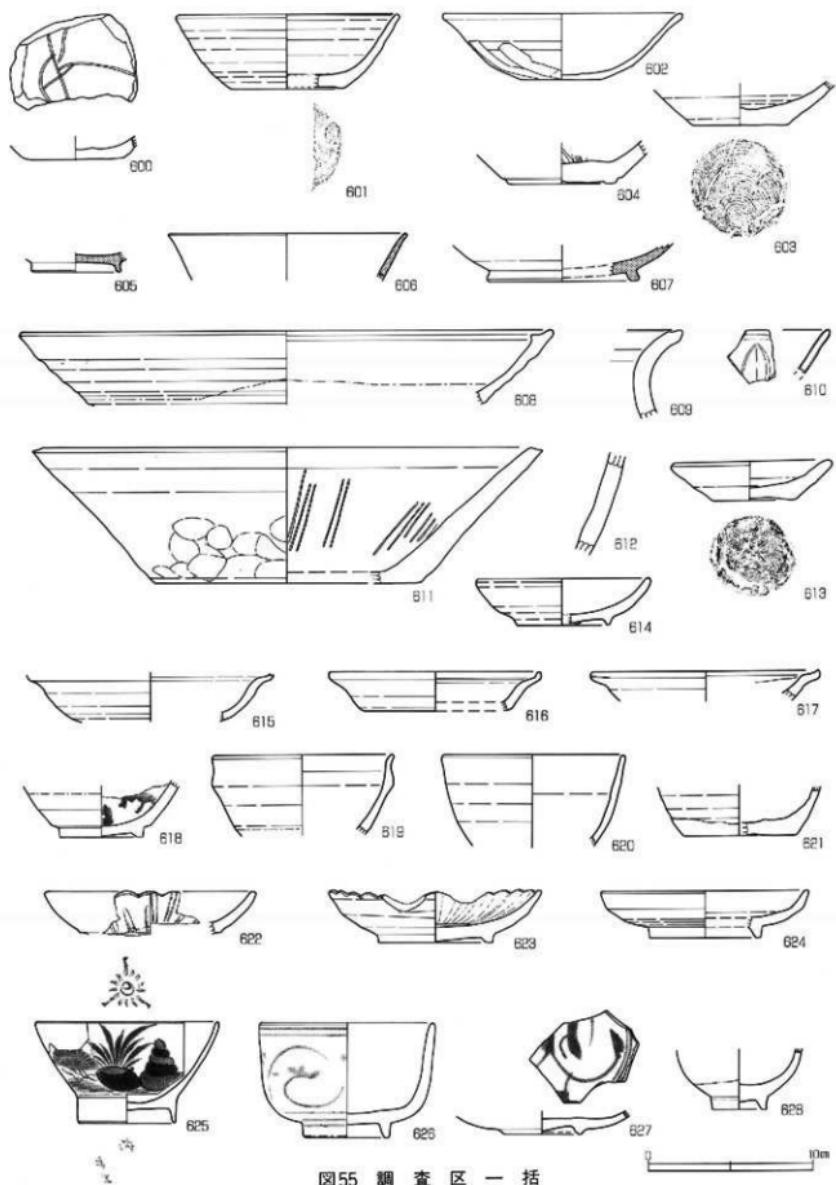


図55 調査区一括

表1 ピット・土壤観察表

単位: cm ( )は現存値

番号	平面形態	長径	短径	深さ	備考				
					番号	平面形態	長径	短径	
Pit.1	—	47	39	12	Pit.84	円形	36	33	49
Pit.2	—	(53)	(43)	6	Pit.85	円形	20	—	23
Pit.3	—	50	42	7	Pit.86	円形	8	—	19
Pit.4	—	41	—	14	Pit.87	楕円形	41	29	27
Pit.5	—	43	46	23	Pit.88	円形	14	—	29
Pit.6	—	50	42	21	Pit.89	楕円形	62	—	28
Pit.7	—	53	50	12	Pit.90	不整円形	24	20	27
Pit.8	—	49	—	31	Pit.91	楕円形	23	—	12
Pit.9	—	57	24	24	Pit.92	不整形円形	36	24	13
Pit.10	円形	(18)	—	26	Pit.93	円形	19	15	17
Pit.11	円形	(11)	—	7	Pit.94	円形	19	18	23
Pit.12	略円形	26	21	14	Pit.95	椭円形	42	33	16
Pit.13	椭円形	33	30	12	Pit.96	椭円形	60	43	56
Pit.14	略円形	30	25	21	Pit.97	略円形	19	16	21
Pit.15	略円形	23	19	6	Pit.98	円形	9	8	14
Pit.16	円形	28	—	63	Pit.99	略円形	32	27	59
Pit.17	略円形	31	28	3	Pit.100	略円形	29	28	24
Pit.18	略円形	28	25	20	Pit.101	略円形	29	26	21
Pit.19	略円形	50	38	85	Pit.102	略円形	27	24	24
Pit.20	略円形	23	21	27	Pit.103	不整円形	41	35	38
Pit.21	略円形	18	—	35	Pit.104	略円形	27	24	16
Pit.22	円形	33	32	9	Pit.105	略円形	23	22	26
Pit.23	略円形	20	15	26	Pit.106	円形	24	20	32
Pit.24	円形	16	—	30	Pit.107	略円形	27	24	38
Pit.25	椭円形	19	17	8	Pit.108	椭円形	29	28	27
Pit.26	椭円形	20	17	22	Pit.109	円形	25	24	41
Pit.27	椭円形	18	15	13	Pit.110	椭円形	30	36	41
Pit.28	円形	34	31	47	Pit.111	椭円形	27	25	29
Pit.29	略円形	34	28	36	Pit.112	略円形	24	23	37
Pit.30	円形	16	—	21	Pit.113	椭円形	24	21	27
Pit.31	不整円形	26	22	22	Pit.114	不整椭円形	57	34	49
Pit.32	椭円形	42	34	34	Pit.115	略円形	24	21	18
Pit.33	椭円形	53	38	16	Pit.116	略円形	24	22	27
Pit.34	略円形	28	24	48	Pit.117	不整円形	26	23	42
Pit.35	略円形	37	36	8	Pit.118	略円形	23	22	41
Pit.36	椭円形	32	25	42	Pit.119	円形	11	—	14
Pit.37	円形	20	19	11	Pit.120	椭円形	41	36	23
Pit.38	略円形	36	33	16	Pit.121	略円形	23	20	31
Pit.39	略円形	36	32	—	Pit.122	略円形	54	51	34
Pit.40	略円形	29	26	52	Pit.123	円形	26	—	38
Pit.41	不整円形	48	44	10	Pit.124	不整円形	19	16	7
Pit.42	略円形	28	24	14	Pit.125	(円形)	—	—	8
Pit.43	略円形	29	27	14	Pit.126	円形	16	—	16
Pit.44	椭円形	34	28	29	Pit.127	(円形)	(28)	(26)	16
Pit.45	不整円形	70	69	10	Pit.128	円形	22	—	34
Pit.46	略円形	25	22	23	Pit.129	略円形	28	27	27
Pit.47	円形	25	24	33	Pit.130	不整円形	28	24	19
Pit.48	不整圓形	40	24	34	Pit.131	略円形	25	23	13
Pit.49	略円形	17	16	16	Pit.132	略円形	26	26	23
Pit.50	円形	10	—	57	Pit.133	椭円形	34	25	37
Pit.51	円形	(35)	34	56	Pit.134	円形	14	13	24
Pit.52	略円形	(21)	(18)	28	Pit.135	略円形	30	29	9
Pit.53	円形	24	22	21	Pit.136	円形	25	24	44
Pit.54	略円形	23	21	4	Pit.137	円形	28	25	41
Pit.55	円形	15	14	23	Pit.138	椭円形	34	27	35
Pit.56	円形	11	—	14	Pit.139	円形	19	16	11
Pit.57	不整円形	22	18	8	Pit.140	略円形	21	17	11
Pit.58	略円形	32	31	46	Pit.141	椭円形	27	21	23
Pit.59	(円形)	(22)	(31)	21	Pit.142	円形	11	10	21
Pit.60	略円形	36	33	37	Pit.143	円形	26	26	4
Pit.61	円形	10	—	21	Pit.144	円形	28	25	26
Pit.62	円形	21	26	33	Pit.145	略円形	32	30	14
Pit.63	円形	17	13	16	Pit.146	略円形	49	44	37
Pit.64	円形	9	8	18	Pit.147	円形	28	26	21
Pit.65	円形	8	—	19	Pit.148	円形	27	—	49
Pit.66	不整円形	17	14	25	Pit.149	略円形	49	47	18
Pit.67	不整円形	18	17	35	Pit.150	略円形	32	30	37
Pit.68	略円形	31	27	58	Pit.151	円形	7	—	36
Pit.69	円形	16	—	15	Pit.152	円形	24	—	39
Pit.70	円形	14	13	24	Pit.153	不整円形	24	19	12
Pit.71	円形	8	—	22	Pit.154	略円形	12	9	18
Pit.72	椭円形	33	28	53	Pit.155	椭円形	51	41	34
Pit.73	略円形	29	24	30	Pit.156	略円形	30	24	40
Pit.74	円形	23	—	23	Pit.157	略円形	55	62	69
Pit.75	円形	15	—	24	Pit.158	略円形	28	25	13
Pit.76	円形	20	19	31	Pit.159	略円形	25	24	42
Pit.77	円形	13	—	32	Pit.160	椭円形	47	28	17
Pit.78	円形	13	—	28	Pit.161	略円形	68	66	31
Pit.79	円形	6	—	26	Pit.162	略円形	38	35	42
Pit.80	椭円形	23	16	37	Pit.163	不整椭円形	44	28	7
Pit.81	円形	27	25	26	Pit.164	円形	22	21	21
Pit.82	円形	23	22	38	Pit.165	略円形	27	25	42
Pit.83	略円形	17	(14)	13	Pit.166	椭円形	31	26	32

単位: cm ( )は現存範

番号	平面形状	長径	短径	深さ	備考	番号	平面形状	長径	短径	深さ	備考
Pt167	円内形	47	29	43	4号集石を切る	Pt247	略円形	40	37	22	
Pt168	不整円形	55	42	16	2号清路に切られる	Pt248	椭円形	57	40	19	
Pt169	不整円形	37	24	7		Pt249	椭円形	46	32	14	
Pt170	円形	36	35	28		Pt250	椭円形	38	31	22	
Pt171	不整円形	28	26	9		Pt251	略円形	43	26	19	
Pt172	(不整円形) (51) (27)	12				Pt252	円形	26	24	20	
Pt173	略円形	35	30	33		Pt253	不整円形	50	44	18	
Pt174	円形	27	-	10		Pt254	円形	24	20	11	
Pt175	略円形	28	24	21		Pt255	14形	39	18	10	
Pt176	不整円形	43	38	23		Pt256	円形	16	-	8	
Pt177	略円形	25	23	31		Pt257	円形	27	26	8	
Pt178	椭円形	28	26	31		Pt258	略円形	37	31	6	
Pt179	椭円形	34	30	16		Pt259	略円形	39	32	21	
Pt180	椭円形	36	34	15		Pt260	円形	28	26	12	
Pt181	不整円形	56	51	18		Pt261	略円形	39	38	12	
Pt182	(円形) (29)	-	46			Pt262	円形	29	-	25	
Pt183	(円形) (41)	-	27			Pt263	略円形	34	30	23	
Pt184	円形	18	-	31	1号清路に切られる	Pt264	略円形	46	39	6	
Pt185	(円形)	25	-	38	2号土壁を切る	Pt265	略円形	70	63	38	
Pt186	略円形	38	35	24	2号土壁を切る	Pt266	円形	28	24	9	
Pt187	(円形)	19	-	12		Pt267	略円形	28	24	21	
Pt188	椭円形	34	27	18		Pt268	円形	37	34	16	
Pt189	略円形	24	23	18		Pt269	円形	32	-	10	
Pt190	略円形	26	25	40		Pt270	椭円形	32	28	12	
Pt191	略円形	26	24	16		Pt271	円形	46	40	8	16号清路に切られる
Pt192	円形	24	-	12	Pt126に切られる	Pt272	略円形	37	34	24	16号清路に切られる
Pt193	椭円形	29	24	18		Pt273	不整円形	36	28	16	
Pt194	椭円形	32	26	23		Pt274	略円形	39	27	16	
Pt195	椭円形	30	28	14		Pt275	不整円形	38	30	16	
Pt196	不整円形	39	35	25		Pt276	円形	45	42	14	Pt220を切る
Pt197	略円形	23	18	18		Pt277	円形	30	25	9	
Pt198	略円形	21	18	26		Pt278	略円形	36	32	7	Pt278に切られる
Pt199	不整椭円形	32	24	24		Pt279	略円形	38	34	19	18号清路、19号清路を切る
Pt200	椭円形	27	18	14		Pt280	(円形)	36	42	10	32号土壁を切る
Pt201	不整椭円形	47	36	12		Pt281	略円形	47	43	10	
Pt202	略円形	29	28	29		Pt282	不整椭円形	44	34	30	
Pt203	椭円形	72	65	23	Pt219に切られる	Pt283	略円形	31	28	16	
Pt204	円形	23	-	6	1号土壁を切る	Pt284	不整円形	36	28	10	
Pt205	椭円形	36	25	25	8号清路を切る	Pt285	円形	36	35	15	
Pt206	略円形	27	24	14	8号清路を切る	Pt286	椭円形	24	18	6	
Pt207	椭円形	19	17	7	8号清路を切る	Pt287	円形	38	37	39	
Pt208	略円形	39	37	37		Pt288	略円形	29	25	20	
Pt209	略円形	34	32	71		Pt289	円形	37	35	16	
Pt210	円形	48	44	47		Pt290	略円形	36	34	23	
Pt211	略円形	20	17	18		Pt291	略円形	34	28	16	
Pt212	略円形	27	22	28		Pt292	円形	34	32	12	
Pt213	円形	11	-	29	2号清路に切られる	Pt293	不整円形	31	30	6	
Pt214	略円形	39	37	17		Pt294	円形	27	26	11	
Pt215	円形	29	-	31	28号土壁を切る	Pt295	円形	28	26	8	Pt303を切る
Pt216	椭円形	60	44	17		Pt296	円形	31	-	14	
Pt217	略円形	28	24	37	Pt210に切られる	Pt297	略円形	32	30	15	41号土壁を切る
Pt218	略円形	27	25	13	1号斜穴状通路を切る	Pt298	不整形	67	50	34	45号土壁に切られる
Pt219	円形	28	-	61	Pt203に切られる	Pt299	円形	31	30	29	
Pt220	略円形	14	11	11	1号斜穴状通路を切る	Pt300	略円形	24	22	10	
Pt221	不整椭円形	41	36	26	Pt203を切る	Pt301	略円形	36	32	13	Pt297に切られる
Pt222	椭円形	15	11	13	29号土壁に切られる	Pt302	円形	31	30	12	
Pt223	円形	41	40	63	12号集石構造を切る	Pt303	略円形	(31)	31	20	
Pt224	略円形	45	39	30		Pt304	円形	30	-	24	
Pt225	略円形	39	33	19		Pt305	不整円形	33	29	8	
Pt226	円形	34	-	14		Pt306	略円形	26	20	8	
Pt227	円形	32	28	21		Pt307	円形	37	36	18	
Pt228	略円形	39	38	36		Pt308	(円形)	50	47	10	20号清路、56号土壁に切られる
Pt229	略円形	28	-	33	14	Pt309	(円形)	68	(32)	22	
Pt230	略円形	28	-	7	40号土壁に切られる	Pt310	(円形)	66	(48)	14	
Pt231	略円形	39	34	7		Pt311	略円形	23	22	14	Pt356を切る
Pt232	略円形	42	36	13		Pt312	不整形	42	30	19	
Pt233	略円形	40	38	18		Pt313	椭円形	34	30	43	
Pt234	椭円形	32	40	12		Pt314	略円形	35	30	23	
Pt235	略円形	21	17	8		Pt315	略円形	34	30	51	
Pt236	円形	23	-	8		Pt316	円形	22	20	8	
Pt237	略円形	38	37	16		Pt317	椭円形	32	(29)	14	
Pt238	略円形	36	31	17		Pt318	略円形	2	19	13	Pt366を切る
Pt239	椭円形	42	35	21		Pt319	円形	21	19	22	
Pt240	円形	60	-	18		Pt320	略円形	34	32	17	Pt342を切る
Pt241	略円形	38	31	18		Pt321	円形	20	18	11	Pt342を切る
Pt242	略円形	56	51	26		Pt322	略円形	48	46	12	
Pt243	椭円形	44	35	11		Pt323	略円形	21	20	14	Pt364、Pt382を切る
Pt244	円形	32	-	22		Pt324	(略円形)	38	(17)	15	
Pt245	略円形	38	28	15		Pt325	椭円形	32	24	26	
Pt246	椭円形	43	32	19		Pt327	略円形	35	(39)	11	
Pt247	椭円形	-	-	-		Pt328	略円形	30	(24)	8	
Pt248	椭円形	-	-	-		Pt329	円形	22	-	30	
Pt249	椭円形	-	-	-		Pt330	円形	19	-	9	21号清路を切る

単位: cm ( )は現存値

番号	平面形態	長径	幅絶	深さ	備考	番号	平面形態	長径	幅絶	深さ	備考
Pt331	略円形	46	42	14		4号上坡	円形?	80	37	16	Pt46に切られる
Pt332	略山形	30	24	14		5号土坡	小豊円形	77	70	18	Pt33に切られる
Pt333	略円形	26	24	11		8号上坡	円形?	45	—	14	1号豊穴状結構を切る
Pt334	略円形	32	23	20		9号土坡	円形?	79	—	15	6号土坡に切られる
Pt335	略円形	47	29	35		10号上坡	不整形	150	141	6	Pt33に切られる Pt152を切る
Pt336	円形	19	18	9	Pt362に切れる	12号土坡	椭円形	136	107	46	11号溝跡を切る
Pt337	椭円形	57	47	20	76号上坡を切る	13号上坡	山形	118	106	17	被覆斑か?
Pt338	略円形	24	22	31		14号上坡	不整円形	52	70	14	2号集石造構を切る
Pt339	椭円形	49	32	34		15号上坡	不整円形	126	108	26	Pt118Cに切られる
Pt340	円形	18	16	32		16号上坡	椭円形	142	78	13	
Pt341	椭円形	32	27	30	Pt322、Pt323に切られる	17号土坡	椭円形	70	57	30	11号溝跡を切る
Pt342	略円形	(32)	(31)	27		18号土坡	不整形	105	34	14	2号集石造構に切られる
Pt343	略円形	32	27	12		21号上坡	不整椭円形	102	76	31	
Pt344	円形	26	26	16		23号土坡	円形	119	110	51	Pt127、185、187、215に切られる
Pt345	略円形	34	29	15		28号上坡	円形	139	126	37	古鉄出土
Pt346	不整形	32	30	55		31号土坡	椭円形	71	52	18	
Pt347	略円形	31	27	44		32号土坡	円形	87	—	17	土基跡に切られる
Pt348	不整椭円形	40	29	28		33号土坡	不整円形	15	83	26	1号基部に切られる
Pt349	椭円形	35	30	26		36号土坡	(椭円形)	260	154	16	
Pt350	椭円形	31	28	20		37号上坡	不整形	132	97	56	
Pt351	略円形	26	23	6		38号土坡	略円形	184	182	10	
Pt352	略山形	28	22	29		39号土坡	椭円形	136	91	6	
Pt353	略円形	33	30	34		40号土坡	円形	190	162	36	Pt229に切られる
Pt354	略円形	26	24	49		41号土坡	(不明)	41	110	32	46号土坡、53号土坡を切る
Pt355	略円形	32	30	51	Pt313に切られる	42号上坡	不整形	131	49	50	47号上坡を切る
Pt356	不整形	(62)	(50)	10		43号土坡	(内形)	125	118	28	種類か?
Pt357	(円形)	32	(29)	31		45号上坡	円形	115	138	68	42号土坡に切られる
Pt358	不整椭円形	31	26	56		46号上坡	(不明)	66	37	36	53号土坡を切る 構造底か?
Pt359	円形	50	45	43	2号水溜底構に切られる	47号上坡	(内形)	192	90	27	
Pt360	(椭円形)	(86)	(33)	14	Pt337に切られる	48号上坡	不整円形	70	59	9	
Pt361	円形	26	23	16		49号土坡	内形	88	61	17	
Pt362	略円形	22	20	16		50号上坡	(椭円形)	114	14	60	
Pt363	椭円形	38	30	28		51号土坡	(略円形)	108	93	8	Pt282に切られる
Pt364	略円形	23	20	11	Pt325に切られる	52号上坡	椭円形	189	115	27	
Pt365	円形	30	28	32		55号上坡	不整椭円形	145	112	16	59号上坡を切る
Pt366	円形	22	20	8	Pt320に切られる	56号上坡	略円形	118	103	18	18号溝跡に切られる
Pt367	円形	27	24	24		58号上坡	(不明)	216	58	17	70号上坡を切る
Pt368	略円形	24	27	54		63号土坡	(椭円形)	152	74	22	16号溝跡に切られる
Pt369	内形	40	32	14		64号上坡	(内形)	149	67	14	62号上坡に切られる
Pt371	略円形	36	31	2	Pt379を切る	66号土坡	(椭円形)	91	66	26	62号上坡に切られる
Pt372	略円形	21	20	18		67号上坡	椭円形	111	84	10	
Pt373	(椭円形)	(20)	26	10		77号土坡	(椭円形)	158	111	9	
Pt374	略円形	22	—	8		78号土坡	(不明)	389	83	31	
Pt375	椭円形	22	18	22		81号土坡	(内形)	94	40	13	16号気石造構を切る
Pt376	略円形	22	16	38		82号土坡	(内形)	92	42	13	
Pt377	略円形	18	16	19							
Pt378	椭円形	41	26	31							
Pt379	円形	20	18	12							
Pt380	椭円形	30	22	20							
Pt381	円形	16	—	7							
Pt382	略円形	34	(33)	16	Pt371に切られる						
Pt383	円形	22	18	20							
Pt384	円形	18	17	30							
Pt385	円形	14	—	25	Pt325に切られる						
Pt386	略円形	32	(25)	24							
Pt387	椭円形	36	3	27							
Pt388	椭円形	34	25	30							
Pt389	内形	20	18	21							
Pt390	内形	32	30	14							
Pt391	略円形	32	26	32	15号集石造構に切られる						
Pt392	略円形	24	21	31							
Pt393	椭円形	33	26	15							
Pt394	略円形	20	18	18							
Pt395	円形	28	27	18							
Pt396	略円形	26	24	38							
Pt397	椭円形	30	23	42							
Pt398	略円形	35	36	20							
Pt399	円形	19	18	13							
Pt400	円形	32	30	14							
Pt401	円形	22	21	22							
Pt402	円形	34	—	18							
Pt403	(内形)	25	(12)	17							
Pt404	椭円形	22	16	8							
Pt405	椭円形	58	54	13							
Pt406	椭円形	32	21	14							
Pt407	(内形)	48	(36)	54	15号集石造構に切られる						
Pt408	(椭円形)	82	(82)	12							

表2 出土遺物観察表

単位: cm ( )は既往文書による指定値

函番 番号	出土位置・遺構	器 種	法 量			地盤生産地	色 調	焼成	備考
			口径	器高	底径				
■ 1 堀跡	土器・壺	(34.4) (10.5) (31.2)	在地	7.5YR 黄褐色 7/2	良好	外面スズボン 内面指痕・鉢底			
■ 2 堀跡・下層	灰釉陶器・壺	—	—	—	—	米澤	5PB 明青灰 7/1	良好	
■ 3 堀跡	土器・かわらけ	—	(3.6)	—	—	在地	2.5YR 鉄い赤褐色 4/4	良好	
■ 4 1号堀跡・下層	須恵器・丸かわらけ	—	—	—	—	在地	N 7/ 白灰	良好	
■ 5 1号堀跡	須恵器・窓かわらけ	—	—	—	—	在地	10YR 鉄灰 6/1	良好	
■ 6 1号堀跡	土器・丸かわらけ	(24.0)	—	—	—	在地	5YR 鉄い棕 7/3	良好	
■ 7 1号堀跡	陶器・輪充量	11.8	3.6	4.9	肥前	2.5Y 黄灰 7/2 銅線軸	良好		
■ 8 1号堀跡・下層	土器・壺	(24.4) (5.5) (24.0)	在地	2.5YR 鉄い棕 6/4	良好	外面スズボン	良好		
■ 9 1号堀跡	陶器・壺	—	(4.6)	—	—	古瀬戸	2.5Y 黄白 8/1	良好	古瀬戸後IV新
■ 10 1号堀跡・下層	陶器・鉢	(5.0)	—	—	—	产地不明	10YR 黄白 7/1 鉄釉	良好	
■ 11 1号堀跡	陶器・鉢袖碗	—	(5.4)	—	—	瀬戸美濃	10YR 淡黄褐色 8/3 鉄釉	良好	2次被熱
■ 12 1号堀跡	陶器・志野垂	—	—	(7.0)	—	瀬戸美濃	2.5Y 黄白 8/1 長石釉	良好	
■ 13 1号堀跡	陶器・片口鉢	(20.0)	—	—	—	瀬戸美濃	10YR 黄白 8/2	良好	
■ 14 1号堀跡	陶器・鉢	18.0	—	—	—	瀬戸美濃	10YR 黄白 8/1	良好	
■ 15 1号堀跡	陶器・手平鉢の把手	—	—	—	在地(須田)	2.5Y 黄褐 5/1	良好	小倉焼	
■ 16 1号堀跡	磁器・くらわんか碗	(9.3) (5.2) (3.8)	肥前	染付	—	—	—	良好	18世紀後半
■ 17 1号堀跡	磁器・壺	(10.8) (5.7) (4.5)	肥前	染付	—	—	良好	燒窯あり	
■ 18 1号堀跡	磁器・丸壺	11.0	5.9	4.0	肥前	染付	—	良好	19世紀前半
■ 19 1号堀跡	磁器・德利	—	—	—	肥前	染付	—	良好	やや陶胎
■ 20 1号堀跡	磁器・德利	—	—	4.5	瀬戸か	型押・青白釉	良好		
■ 21 1号堀跡	磁器・輪花皿	12.2	3.1	6.2	产地不明	染付	良好		
■ 22 1号堀跡・下層	陶器・油壺	—	—	5.4	瀬戸美濃	2.5Y 黄白 8/1 銅線軸	良好		
■ 23 1号堀跡	磁器・德利	—	—	—	肥前	染付(硝青帯)	良好		
■ 24 1号堀跡	瓦・軒瓦	—	—	—	在地	N 4/ 黑	良好		
■ 25 1号堀跡	瓦・軒瓦	—	—	—	在地	N 4/ 黑	良好		
■ 26 1号堀跡	瓦・軒瓦	—	—	—	在地	N 4/ 黑	良好		
■ 27 1号堀跡・下層	陶器・瓶	(31.3) (14.5) (11.2)	瀬戸 <sup>1</sup>	2.5Y 黄白 8/1	良好				
■ 28 1号堀跡	硝子製品・化粧瓶	—	—	—	产地不明	—	—	—	
■ 29 1号堀跡	石製品	—	—	—	—	—	—	—	
■ 30 1号堀跡	石製品・印	—	—	—	—	—	—	—	
■ 31 1号土壙跡	陶器・灰釉皿	—	—	5.4	瀬戸美濃	2.5Y 黄白 7/1 鉄釉	良好	大黒窯後半	
■ 32 1号土壙跡	陶器・鉢	—	—	—	5.1	瀬戸美濃	3Y 黄白 8/1 鉄釉	良好	
■ 33 1号土壙跡	陶器・志野織部皿	—	—	—	8.2	美濃	30YR 青・淡青 7/4 灰白釉・鉄鉢	良好	第1小期
■ 34 1号土壙跡	陶器・山茶碗	—	—	—	5.0	美濃	2.5Y 黄白 7/1	良好	14世紀前半
■ 35 1号土壙跡	綠釉陶器・碗	—	—	—	6.6	美濃	N 黄白 7/ 緑釉	良好	
■ 36 1号土壙跡	上器・火鉢	—	—	—	—	在地	5YR 棕 6/6	良好	
■ 37 1号土壙跡	陶器・黄瀬戸鉢	31.0	—	—	—	瀬戸美濃	2.5Y 淡黄 8/3 黄釉・緑釉	良好	第1小期
■ 38 1号土壙跡	陶器・志野垂	11.4	—	—	—	瀬戸美濃	N 黄白 8/ 長石釉	良好	
■ 39 1号土壙跡	陶器・鉢袖碗	(10.8)	—	—	—	产地不明	N 黄白 7/	良好	
■ 40 1号土壙跡	上器・壺	(32.0)	8.9	(30.0)	在地	5YR 棕 6/4	良好	外向スズボン・砂浜	
■ 41 1号土壙跡	陶器・柱状高台	—	—	5.6	在地	5YR 棕 4/6	良好		
■ 42 1号溝跡	陶器・日天系碗	(11.0)	—	—	—	瀬戸美濃	10YR 黄白 8/1 鉄鉢	良好	17世紀前半
■ 43 1号溝跡	灰釉陶器・碗	—	—	(7.0)	—	美濃	10YR 黄白 7/1	良好	
■ 44 2号溝跡	陶器・天目茶碗	(10.3)	—	—	—	瀬戸美濃	10YR 黄白 8/2	良好	17世紀第1四半期
■ 45 2号溝跡	上器・かわらけ	8.0	1.7	4.6	在地	7.5YR 鉄い棕 6/4	良好	タール付着	
■ 46 2号溝跡	陶器・茶壺	—	—	(6.4)	瀬戸美濃	10YR 黄白 7/1 鉄釉	良好	17世紀前半	
■ 47 2号溝跡	石製品・紙石	—	—	—	—	—	—	—	
■ 48 2号溝跡	土器・かわらけ	6.4	1.3	4.9	在地	7.5YR 鉄い棕 6/4	良好		
■ 49 7号溝跡	土器・かわらけ	8.0	2.0	4.6	在地	7.5YR 鉄い棕 6/4	良好		
■ 50 7号溝跡	瓦質土器・取扱	(13.2)	—	—	在地	10YR 黄白 8/1	良		
■ 51 7号溝跡	土製品・土鉢	1.3	1.9	2.0	在地	10YR 黄白 8/2	良好	内向消耗している	
■ 52 8号溝跡	瓦質土器・器皿	—	—	—	在地	10YR 黄白 8/2	良	高台内面に付着	
■ 53 8号溝跡	陶器・常滑青白	—	—	—	常滑	10YR 黄白 7/1	良		
■ 54 8号溝跡	土器・かわらけ	(14.7) (3.0) (8.1)	在地	5YR 棕 7/6	良好				
■ 55 9号溝跡	陶器・天日蒸碗	—	—	—	瀬戸美濃	10YR 淡黄斑 8/3	良好		
■ 56 9号溝跡	土器・かわらけ	11.6	—	—	在地	5YR 棕 6/6	良好		
■ 57 9号溝跡	石製品・礫石	—	—	—	—	—	—	—	
■ 58 10号溝跡	瓦質土器・内耳鉢	27.5	—	—	在地	2.5Y 黄褐 6/1	良好	外向スズボン	
■ 59 10号溝跡	上器・環	—	—	4.5	在地	5YR 鉄い棕 6/4	良好		
■ 60 13号溝跡	瓦質土器・茶釜	13.1	—	—	在地	2.5Y 黄褐 5/1	良好		
■ 61 13号溝跡	瓦質土器・内耳鉢	30.2	—	—	在地	10YR 黄い青 7/2	良好	外向スズボン	
■ 62 13号溝跡	石製品・碗	7.0	3.5	1.9	—	—	—	温付着	
■ 63 13号溝跡	土器・土製凹盤	—	—	—	在地	7.5YR 鉄い棕 7/4	良好	内耳漏れ用	
■ 64 13号溝跡	須恵器・長頸瓶	—	—	—	在地	10YR 鉄い黄褐色 7/2	良好		
■ 65 13号溝跡	上器・鉢	33.8	—	—	在地	7.5YR 鉄い棕 6/4	良好		
■ 66 13号溝跡	土器・かわらけ	(11.8) (2.5) (6.6)	在地	7.5YR 鉄い棕 7/4	良好				
■ 67 13号溝跡	上器・かわらけ	12.5	2.3	7.6	在地	7.5YR 鉄い棕 7/4	良好		
■ 68 13号溝跡	土器・かわらけ	14.5	3.1	7.5	在地	7.5YR 鉄い棕 7/4	良好		
■ 69 14号溝跡	磁器・蛇・日高台皿	—	—	8.6	肥前	染付	良好	18世紀後半	
■ 70 14号溝跡	磁器・色絵四角形碗	6.0	—	—	肥前	赤・緑・白・紫釉	良好	18世紀後半	

図版番号	出土位置・造形	器種	法			推定生産地	色調	焼成	備考
			口径	器高	底径				
227	14号溝跡	磁器・鍋鳥皿	(15.0)	4.5	8.4	紀前	染付	良好	18世紀後半
228	15号溝跡	上器・かわらけ	(10.0)	2.2	6.0	在地	7.5YR 鈍い橙 6/4	良好	
229	15号溝跡	上器・かわらけ	9.6	2.0	6.0	在地	5YR 鈍い赤褐 5/4	良好	
230	15号溝跡	上器・かわらけ	8.6	2.3	5.3	在地	10YR 鈍い黄褐 5/3	良好	
231	15号溝跡中層	土器・かわらけ	8.6	2.1	6.0	在地	10YR 鈍い黄褐 5/4	良好	
232	16号溝跡	土器・かわらけ	(9.8)	2.1	5.6	在地	10YR 淡灰 4/1	良好	
233	17号溝跡	上器・かわらけ	(9.3)	2.5	(5.7)	在地	7.5YR 鈍い橙 7/4	良好	
234	17号溝跡	下器・かわらけ	(9.2)	2.0	(6.1)	在地	7.5YR 鈍い赤褐 5/3	良好	
235	18号溝跡中層	上器・かわらけ	9.0	2.6	5.6	在地	5YR 鈍い赤褐 5/4	良好	口縁部にスス付着
236	18号溝跡	土器・かわらけ	9.4	2.2	5.6	在地	10YR 鈍い黄褐 5/3	良好	
237	18号溝跡	上器・かわらけ	9.6	2.8	4.4	在地	7.5YR 鈍い赤褐 5/4	良好	
238	19号溝跡上層	土器・かわらけ	9.5	2.1	5.6	在地	7.5YR 鈍い黄褐 7/4	良好	
239	19号溝跡	土器・かわらけ	9.5	2.7	4.5	在地	10YR 鈍い黄褐 5/3	良好	
240	19号溝跡中層	土器・かわらけ	9.2	2.9	(5.0)	在地	7.5YR 鈍い黄褐 5/3	良好	
241	19号溝跡	土器・かわらけ	(9.0)	2.5	4.4	在地	10YR 鈍い黄褐 6/4	良好	
242	19号溝跡	下器・かわらけ	9.4	2.9	4.3	在地	10YR 鈍い黄褐 6/3	良好	
243	19号溝跡	土器・かわらけ	10.0	2.8	4.7	在地	10YR 鈍い黄褐 5/3	良好	
244	20号溝跡下層	土器・かわらけ	(10.4)	2.5	5.0	在地	10YR 黑褐 3/1	良好	
245	20号溝跡	土器・かわらけ	8.8	2.7	4.7	在地	10YR 鈍い黄褐 5/3	良好	
246	20号溝跡	土器・かわらけ	8.0	1.7	5.5	在地	7.5YR 鈍い橙 6/4	良好	口縁部にスス付着
247	21号溝跡下層	土器・かわらけ	7.2	1.6	5.0	在地	10YR 鈍い黄褐 5/3	良好	
248	21号溝跡	土器・かわらけ	7.2	1.5	4.6	在地	10YR 鈍い黄褐 6/4	良好	内面・船にスス付着
249	21号溝跡	上器・かわらけ	5.3	1.6	3.4	在地	5YR 鈍い赤褐 5/4	良好	
250	21号溝跡	土器・かわらけ	5.3	1.7	3.5	在地	5YR 鈍い赤褐 5/4	良好	口縁部にスス付着
251	21号溝跡	上器・かわらけ	5.4	2.0	3.3	在地	7.5YR 鈍い黄褐 6/4	良好	
252	21号溝跡	土器・かわらけ	5.4	1.6	3.4	在地	10YR 鈍い黄褐 5/4	良好	
253	21号溝跡	土器・かわらけ	5.4	1.7	5.5	在地	10YR 鈍い黄褐 5/3	良好	
254	21号溝跡	土器・かわらけ	5.4	1.7	3.5	在地	2.5YR 黄褐 5/3	良好	
255	21号溝跡	土器・かわらけ	5.3	1.7	3.6	在地	5YR 鈍い赤褐 5/4	良好	
256	21号溝跡	土器・かわらけ	5.5	1.6	3.1	在地	10YR 鈍い黄褐 6/3	良好	
257	21号溝跡	土器・かわらけ	5.5	1.3	4.0	在地	10YR 鈍い黄褐 5/3	良好	
258	21号溝跡	土器・かわらけ	5.6	1.6	3.4	在地	10YR 鈍い黄褐 5/3	良好	
259	21号溝跡	土器・かわらけ	5.0	1.6	3.2	在地	7.5YR 鈍い橙 6/3	良好	
260	21号溝跡	土器・かわらけ	5.3	1.3	3.7	在地	7.5YR 鈍い黄褐 5/3	良好	
261	21号溝跡	土器・かわらけ	5.7	1.6	4.0	在地	10YR 鈍い黄褐 5/3	良好	
262	21号溝跡	土器・かわらけ	5.3	1.2	3.2	在地	5YR 鈍い赤褐 5/4	良好	
263	21号溝跡	土器・かわらけ	6.0	1.7	3.3	在地	2.5YR 黄褐 5/3	良好	
264	21号溝跡	土器・かわらけ	5.4	1.6	4.1	在地	10YR 鈍い黄褐 6/4	良好	
265	21号溝跡	土器・かわらけ	5.3	1.7	4.3	在地	10YR 鈍い黄褐 5/4	良好	
266	21号溝跡	土器・かわらけ	5.2	1.5	4.2	在地	10YR 鈍い黄褐 5/4	良好	
267	21号溝跡石横	土器・かわらけ	5.6	1.4	3.6	在地	10YR 鈍い黄褐 5/4	良好	
268	21号溝跡下層	土器・かわらけ	(5.1)	1.6	3.0	在地	2.5YR 咎灰質 5/2	良好	
269	21号溝跡	土器・かわらけ	5.2	1.5	3.7	在地	10YR 咎灰質 6/2	良好	
270	21号溝跡	土器・かわらけ	5.2	1.5	4.0	在地	5YR 鈍い赤褐 5/4	良好	
271	21号溝跡	土器・かわらけ	4.8	1.1	3.5	在地	7.5YR 鈍い黄褐 6/4	良好	口縁部にスス付着
272	21号溝跡	土器・かわらけ	4.5	1.1	3.3	在地	10YR 鈍い黄褐 6/3	良好	
273	21号溝跡	陶器・鉢輪小碗	8.6	4.8	3.7	美濃	10YR 灰白 8/1 鉢輪	良好	
274	21号溝跡	陶器・鉢輪小碗	(8.8)	—	—	美濃	10YR 灰白 8/1 鉢輪	良好	
275	21号溝跡	陶器・鉢輪小碗	(8.0)	4.2	4.2	美濃	10YR 灰白 8/1 鉢輪	良好	
276	21号溝跡	陶器・鉢輪小碗	—	—	(4.0)	美濃	2.5Y 灰白 8/1 鉢輪	良好	
277	21号溝跡	陶器・鉢輪丸碗	(11.7)	—	—	美濃	2.5Y 灰白 8/1 鉢輪	良好	
278	21号溝跡	陶器・鉢輪丸碗	(11.8)	—	—	瀬戸	2.5Y 灰白 8/1 鉢輪	良好	
279	21号溝跡	陶器・輪反碗	(11.6)	—	—	瀬戸	2.5Y 灰白 8/1 鉢輪	良好	
280	21号溝跡	陶器・尾呂茶碗	—	—	5.4	美濃	10YR 灰白 8/1 鉢輪	良好	
281	21号溝跡	陶器・鉢輪丸碗	9.7	6.7	4.6	美濃	2.5Y 灰白 8/1 鉢輪	良好	
282	21号溝跡	陶器・尾呂茶碗	10.4	7.2	4.4	美濃	2.5Y 灰白 8/1 鉢輪	良好	
283	21号溝跡	陶器・尾呂茶碗	—	—	(5.6)	美濃	5Y 灰白 8/1 鉢輪	良好	
284	21号溝跡中層	陶器・尾呂茶碗	11.0	7.6	4.6	美濃	2.5Y 灰白 7/2 鉢輪	良好	
285	21号溝跡中層	陶器・尾呂茶碗	(11.2)	7.2	5.2	美濃	10YR 灰白 7/1 鉢輪	良好	
286	21号溝跡	陶器・輪反碗	(12.2)	7.5	5.7	美濃	2.5Y 灰白 8/1 姦稚輪	良好	
287	21号溝跡	陶器・尾呂茶碗	(11.9)	7.3	5.8	美濃	2.5Y 灰白 8/1 鉢輪	良好	
288	21号溝跡	陶器・尾呂茶碗	(11.7)	—	—	美濃	10YR 灰白 6/1 鉢輪	良好	
289	21号溝跡	陶器・尾呂茶碗	(11.8)	—	—	美濃	10YR 灰白 7/1 鉢輪	良好	
290	21号溝跡	陶器・尾呂茶碗	(11.2)	—	—	美濃	2.5Y 灰白 8/2 黄釉	良好	
291	21号溝跡	陶器・尾呂茶碗	(11.8)	—	—	美濃	2.5Y 灰白 7/1 黄釉	良好	
292	21号溝跡	陶器・尾呂茶碗	(11.6)	7.5	5.4	美濃	2.5Y 灰白 7/1 鉢輪	良好	
293	21号溝跡	陶器・尾呂茶碗	(10.8)	7.1	5.4	美濃	10YR 灰白 7/1 鉢輪	良好	
294	21号溝跡中層	陶器・尾呂茶碗	11.4	6.7	5.4	美濃	10YR 灰白 7/1 黄釉	良好	
295	21号溝跡	陶器・蘇麻丸碗	(11.6)	6.5	(5.5)	瀬戸	2.5Y 灰白 8/2 黄釉	良好	
296	21号溝跡	陶器・蘇麻丸碗	(10.7)	—	—	瀬戸	2.5Y 灰白 8/2 黄釉	良好	鉢輪あり

団版番号	番号	出土位置・遺構	器 理	法 量			推定生産地	色 調	焼成	備 考
				口径	器高	底径				
141	15号溝跡中層	陶器・灰釉丸碗	(10.6)	7.45	(5.2)	瀬戸	2.5Y 灰白 7/1 鉄釉	良好		
"	142	15号溝跡上層	陶器・灰丸碗	(10.3)	7.0	(5.3)	瀬戸	2.5Y 灰白 8/2 鉄釉	良好	
"	143	15号溝跡	陶器・灰釉丸碗	(10.8)	6.5	(5.3)	瀬戸	2.5Y 灰白 8/2 鉄釉	良好	
"	144	15号溝跡中層	陶器・灰器手碗	(10.4)	7.1	(4.4)	肥前	2.5Y 灰白 8/1 透明釉	良好	
"	145	15号溝跡	陶器・灰器手碗	—	—	5.6	肥前	2.5Y 灰白 8/2 透明釉	良好	
"	146	15号溝跡	陶器・灰器手碗	(10.2)	6.9	4.5	肥前	2.5Y 灰白 8/2 透明釉	良好	豊付部分無釉17℃後~18℃初
"	147	15号溝跡	陶器・灰器手碗	—	—	4.4	肥前	2.5Y 灰白 8/2 透明釉	良好	
"	148	15号溝跡	陶器・灰器手碗	(11.0)	6.9	(5.0)	肥前	2.5Y 灰白 8/2 透明釉	良好	
"	149	15号溝跡	陶器・灰器手碗	(10.6)	7.4	4.5	肥前	2.5Y 灰白 8/2 透明釉	良好	高台部分無釉17℃後~18℃初
"	150	15号溝跡	陶器・灰燒風陶馬頭	—	—	5.2	肥前	10YR 黄褐色 7/2 鉄釉	良好	
"	151	15号溝跡	陶器・灰燒風陶馬頭	(9.8)	5.9	(5.0)	肥前	2.5Y 灰白 8/1 透明釉	良好	
"	152	15号溝跡中層	陶器・灰燒風陶馬頭	(8.8)	5.8	(5.0)	肥前	5Y 灰白 7/2 透明釉	良好	
"	153	15号溝跡	陶器・灰燒風陶馬頭	—	—	(5.0)	肥前	2.5Y 灰白 8/1 透明釉	良好	底部に「福次」の銘あり
"	154	15号溝跡	陶器・刷毛口鉢	(10.2)	6.2	4.0	肥前	10YR 黄褐色 6/2 鉄釉	良好	
155	15号溝跡	陶器・鉢口片口鉢	—	—	(7.2)	美濃	2.5Y 灰白 8/2 鉄釉	良好		
"	156	15号溝跡	陶器・片口鉢	(19.4)	—	—	美濃	N'7 灰白 外・口縁凹輪	良好	
"	157	15号溝跡下層	陶器・片口鉢	—	—	(10.4)	瀬戸	2.5Y 灰白 8/2 鉄釉	良好	
"	158	15号溝跡	陶器・輪秃鉢	(21.4)	—	—	肥前	2.5Y 灰白 7/2 透明釉	良好	
"	159	15号溝跡中層	陶器・灰丸皿	(13.3)	2.9	6.4	美濃	2.5Y 灰白 6/1 鉄釉	良好	
"	160	15号溝跡	陶器・剪刀	(14.4)	2.8	8.0	瀬戸	2.5Y 灰白 8/1	良好	
"	161	15号溝跡中層	陶器・輪秃皿	(11.4)	3.3	4.0	肥前	2.5Y 灰白 7/1 鉄釉	良好	
"	162	15号溝跡	陶器・片口鉢	(14.0)	—	—	美濃	2.5Y 灰白 8/2 鉄釉	良好	
"	163	15号溝跡	陶器・片口鉢	(15.7)	—	—	美濃	2.5Y 灰白 8/2 滑い鉄釉	良好	
"	164	15号溝跡	陶器・刮刀	—	—	6.6	美濃	2.5Y 灰白 8/2 透明釉	良好	
"	165	15号溝跡	陶器・香炉	(10.0)	6.8	(8.2)	美濃	2.5Y 灰白 7/1 滑・鉄釉	良好	
"	166	15号溝跡	陶器・香炉	(8.4)	3.8	(7.0)	美濃	2.5Y 灰白 7/1 鉄釉	良好	
"	167	15号溝跡	陶器・香炉	(10.8)	—	—	美濃	2.5Y 灰白 8/2 鉄釉	良好	
"	168	15号溝跡	陶器・土瓶	—	—	—	美濃	2.5Y 灰白 7/2 透明釉	良好	
"	169	15号溝跡	陶器・二彩鉢	—	—	(11.6)	肥前	10YR 黄褐色 6/2 鉄釉	良好	
"	170	15号溝跡	陶器・仏壇	8.5	5.6	5.3	美濃	2.5Y 灰白 8/1 灰釉	良好	
"	171	15号溝跡中層	陶器・仏壇	(8.6)	6.4	5.4	美濃	2.5Y 灰白 8/2 鉄釉	良好	
"	172	15号溝跡中層	陶器・水注	3.4	6.8	4.0	美濃	2.5Y 灰白 7/1 鉄釉	良好	
"	173	15号溝跡下層	陶器・小壺	—	—	2.4	美濃	10YR 黄褐色 7/3 透明釉	良好	
"	174	15号溝跡中層	陶器・合子	2.5	2.7	2.8	古瀬戸	2.5Y 黄褐色 6/1 鉄釉	良好	古瀬戸中層。底部に墨書き
175	15号溝跡中層	磁器・丸碗	—	—	(4.2)	肥前	染付	良好	17℃後半「大明年製」	
"	176	15号溝跡	磁器・丸碗	—	—	4.0	肥前	染付	良好	17℃後半
"	177	15号溝跡	磁器・丸碗	—	—	4.0	肥前	染付	良好	17℃後半
"	178	15号溝跡上層	磁器・丸碗	—	—	4.3	肥前	染付	良好	18℃初頭「角持溝招」
"	179	15号溝跡下層	磁器・丸碗	(8.8)	4.9	(3.8)	肥前	染付	良好	17℃後半
"	180	15号溝跡	磁器・丸碗	(9.8)	6.25	(4.2)	肥前	染付	良好	17℃後半
"	181	15号溝跡上層	磁器・丸碗	(16.0)	6.0	(4.4)	肥前	染付	良好	18℃初頭(高尾葉)
"	182	15号溝跡下層	磁器・丸碗	10.7	—	—	肥前	染付	良好	18℃初頭「か」
"	183	15号溝跡上層	磁器・丸碗	10.6	5.9	4.4	肥前	染付	良好	18℃初頭「丸福」
"	184	15号溝跡下層	磁器・白人面頭	(19.8)	—	—	肥前	白磁	良好	
"	185	15号溝跡下層	磁器・口磁小杯	(6.1)	—	—	肥前	山形	良好	
"	186	15号溝跡中層	磁器・青磁瓶	—	—	(7.0)	肥前	青磁	良好	
"	187	15号溝跡下層	磁器・仏壇	—	—	3.0	肥前	染付	良好	
"	188	15号溝跡	磁器・小香炉	2.8	2.9	2.1	肥前	染付	良好	
"	189	15号溝跡	磁器・油壺	—	—	(4.6)	肥前	色絵・緑釉・赤釉	良好	
"	190	15号溝跡	陶器・灰おとし	10.0	9.6	5.8	肥前	輪胎染付	良好	
"	191	15号溝跡上層	磁器・皿	(14.6)	2.7	(9.0)	肥前	染付	良好	
"	192	15号溝跡中層	磁器・刮刀	—	—	6.6	肥前	染付	良好	
"	193	15号溝跡	磁器・刮刀	—	—	(4.8)	肥前	色絵・緑釉・赤釉	良好	17℃後半
"	194	15号溝跡中層	磁器・刮刀	—	—	(6.0)	肥前	染付	良好	17℃前半(初期伊万里)
"	195	15号溝跡中層	磁器・彫文瓶	(13.8)	—	—	肥前	染付	良好	17℃前半(初期伊万里)
"	196	15号溝跡中層	磁器・刮刀	—	—	—	肥前	染付	良好	17℃後半
32	197	15号溝跡	陶器・盤	(34.0)	—	—	瀬戸	2.5Y 灰白 8/2 鉄釉	良好	第4小期
"	198	15号溝跡	陶器・壺	(33.0)	—	—	瀬戸	5Y 灰白 8/2 鉄釉	良好	第4小期
"	199	15号溝跡中層	陶器・壺	(28.4)	—	—	瀬戸	5Y 灰白 8/1 鉄釉	良好	
"	200	15号溝跡中層	陶器・壺	(32.0)	—	—	瀬戸	5Y 灰白 8/1 鉄釉	良好	第5小期
"	201	15号溝跡中層	陶器・壺	(31.0)	(14.0)	(10.0)	瀬戸	10YR 浅黄褐色 8/3 鉄釉	良好	第4小期
"	202	15号溝跡中層	瓦・丸瓦	—	—	—	在地	7.5Y 灰 5/1	良	
"	203	15号溝跡上層	瓦・瓦	—	—	—	在地	N 灰 5/	良	
"	204	15号溝跡石橋	瓦・丸瓦	—	—	—	在地	10YR 灰 4/1	良	石積の部材として転用
233	205	15号溝跡中層	土器・信格縞	(30.2)	6.9	(28.4)	在地	10YR 黄い黄褐色 6/3	良	
"	206	15号溝跡中層	土器・信格縞	(19.2)	2.4	(17.6)	在地	7.5Y 黄い黄褐色 6/4	良	
"	207	15号溝跡	土器・信格縞	29.5	7.0	27.5	在地	10YR 黄い黄褐色 5/3	良	
"	208	15号溝跡中層	土器・信格縞	(33.6)	7.9	(29.6)	在地	10YR 黄い黄褐色 4/3	良	
"	209	15号溝跡中層	土器・信格縞	31.6	8.3	29.0	在地	10YR 黄褐色 5/2	良	
"	210	15号溝跡	土器・信格縞	31.2	7.1	29.6	在地	10YR 黄い黄褐色 4/3	良	

器版番号	出土位置・遺構	器種	法 量		推定生産地	色	調	焼成	備考
			口径	器高					
国33	15号溝跡	土器・培塿鍋	30.0	8.5	29.6	在地	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
"	212 15号溝跡	土器・培塿鍋	29.6	7.43	28.5	在地	10YR 鈍い黄褐 5/4	良	
"	213 15号溝跡	土器・培塿鍋	(28.6)	8.1	(27.0)	在地	10YR 鈍い黄褐 6/3	良	
"	214 15号溝跡	土器・培塿鍋	31.8	7.5	30.1	在地	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
国34	215 15号溝跡	土器・青灰	11.2	—	(8.0)	在地	7.5YR 鈍い海 5/4	良	
"	216 15号溝跡	土器・青灰	(11.6)	6.2	(11.8)	在地	7.5YR 鈍い海 5/3	良好	
"	217 15号溝跡中層	土器・青灰	(12.4)	5.1	(9.0)	在地	7.5YR 鈍い海 5/4	良	
"	218 15号溝跡	土器・青灰	(11.2)	—	(10.4)	在地	5YR 鈍い橙 6/6	良好	
"	219 15号溝跡	土器・焼塗蓋	—	—	7.2	產地不明	10YR 浅黃橙 8/4	良好	「泉州麻洋」の蓋か
"	220 15号溝跡中層	土器・上層	—	—	—	在地	7.5YR 鈍い海 5/7	良好	
"	221 15号溝跡中層	土器・かわらけ	(10.6)	2.8	(6.4)	在地	10YR 鈍い黄褐 7/3	良好	
"	222 15号溝跡	土器・かわらけ	(9.6)	3.0	4.8	在地	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
"	223 15号溝跡	土師器・皿	(12.0)	2.7	(3.0)	在地	7.5YR 鈍い橙 7/4	良好	
"	224 15号溝跡	土師器・環	(12.0)	3.6	5.8	在地	7.5YR 鈍い橙 7/4	良好	
"	225 15号溝跡	土師器・环	(12.0)	3.3	6.0	在地	7.5YR 橙 7/6	良好	
"	226 15号溝跡	土師器・环	(11.0)	4.0	5.6	在地	5YR 叫赤褐 5/6	良好	底部に黒斑
"	227 15号溝跡下層	土師器・皿	—	—	(5.0)	在地	7.5YR 鈍い海 6/4	良好	底部に墨苔
"	228 15号溝跡中層	土師器・环	—	—	(5.4)	在地	5YR 明赤褐 5/6	良好	底部に墨苔
"	229 15号溝跡上層	土師器・碗	—	—	6.1	在地	10YR 鈍い黄褐 7/4	良好	
"	230 15号溝跡旧跡	陶器・尾呂茶碗	—	—	(5.2)	產地	2.5YR 灰白 8/1 錫輪	良好	
"	231 15号溝跡旧跡	陶器・天日茶碗	—	—	4.5	產地	5Y 灰白 8/1 錫輪	良好	
"	232 15号溝跡旧跡	土器・かわらけ	9.4	1.9	5.4	在地	10YR 鈍い黄褐 6/3	良好	
"	233 15号溝跡旧跡	磁器・碗	—	—	4.7	肥前	青磁釉	良好	内面乾・月給付 高台部付
"	234 15号溝跡旧跡	土器・S字型	15.0	—	—	—	2.5Y 浅黄 7/3	良好	
"	235 15号溝跡	漆器・碗蓋	10.4	2.7	5.4	產地不明	外・黒 内・朱	—	
"	236 15号溝跡	漆器・碗蓋	—	—	—	產地不明	—	—	
"	237 15号溝跡	漆器・碗蓋	—	—	—	產地不明	—	—	
"	238 15号溝跡	漆器・碗蓋	10.8	—	—	產地不明	外・黒 内・朱	—	
"	239 15号溝跡	漆器・碗蓋	(9.8)	2.5	(5.4)	產地不明	外・内朱	—	
"	240 15号溝跡	漆器・碗蓋	—	—	—	產地不明	外・内朱	—	中心に穿孔
"	241 15号溝跡	漆器・碗蓋	—	—	—	產地不明	外・黒 内・朱	—	
"	242 15号溝跡	漆器・碗蓋	10.9	—	—	產地不明	外・黒 内・朱	—	
"	243 15号溝跡	漆器・碗蓋	—	—	—	產地不明	外・内朱 赤	—	
"	244 15号溝跡	漆器・碗蓋	10.4	2.8	5.2	產地不明	外・内朱	—	
"	245 15号溝跡	漆器・碗蓋	10.3	3.6	5.7	產地不明	外・黒 内・朱 赤・朱	—	中心空孔
"	246 15号溝跡	漆器・碗蓋	8.9	2.5	4.5	產地不明	外・黒 内・朱 赤・黒	—	
国35	247 15号溝跡	漆器・碗蓋	12.4	2.7	4.4	產地不明	外・黒 内・朱	—	
"	248 15号溝跡	漆器・平碗	—	—	—	產地不明	外・茶 内・朱	—	
"	249 15号溝跡	漆器・浅碗	—	—	—	產地不明	外・黒 内・朱	—	
"	250 15号溝跡	漆器・汁杓	—	—	5.6	產地不明	外・内朱	—	
"	251 15号溝跡	漆器・汁杓	—	—	6.6	產地不明	外・黒 内・朱 赤・朱	—	
"	252 15号溝跡	漆器・汁杓	14.4	6.0	6.6	產地不明	外・黒 内・朱 赤・朱	—	
"	253 15号溝跡	漆器・瓶	(13.6)	7.5	(6.8)	產地不明	外・黒 内・朱 赤・朱	—	
"	254 15号溝跡	漆器・瓶	—	—	6.2	產地不明	外・茶 内・朱	—	
"	255 15号溝跡	漆器・瓶	11.4	—	—	產地不明	外・茶 内・朱 赤・朱	—	
"	256 15号溝跡	漆器・瓶	12.4	8.4	6.8	產地不明	外・内茶	—	
"	257 15号溝跡	漆器・瓶	—	—	6.4	產地不明	外・内朱	—	
"	258 15号溝跡	漆器・瓶	—	—	(6.3)	產地不明	外・黒 内・朱	—	
"	259 15号溝跡	漆器・瓶	—	—	—	產地不明	外・黒 内・朱	—	
"	260 15号溝跡	漆器・瓶	12.1	6.5	6.1	產地不明	外・内朱	—	
"	261 15号溝跡旧跡	漆器・瓶	13.2	7.8	6.9	產地不明	外・黒 内・朱 赤・朱	—	
"	262 15号溝跡	漆器・不明品	6.0	3.1	7.7	產地不明	外・内黒	—	
"	263 15号溝跡	木製品・籠	—	—	—	產地不明	—	—	
"	264 15号溝跡	木製品・籠	—	—	—	產地不明	—	—	
"	265 15号溝跡	木製品・不明品	—	—	—	產地不明	—	—	
"	266 15号溝跡	木製品・不明品	—	—	—	產地不明	—	—	先端部金属
"	267 15号溝跡	木製品・人形埴地	—	—	—	近地不明	—	—	
"	268 15号溝跡	木製品・不明品	—	—	—	產地不明	—	—	
国36	269 15号溝跡	木製品・桶	—	—	—	產地不明	—	—	
"	270 15号溝跡	木製品・不明品	—	—	—	產地不明	—	—	
"	271 15号溝跡	木製品・不明品	—	—	—	產地不明	—	—	
"	272 15号溝跡	木製品・曲物	—	—	—	產地不明	—	—	
"	273 15号溝跡	木製品・曲物	—	—	—	產地不明	—	—	
"	274 15号溝跡	木製品・曲物	—	—	—	產地不明	—	—	
"	275 15号溝跡	木製品・曲物	—	—	—	產地不明	—	—	
"	276 15号溝跡	木製品・曲物	—	—	—	產地不明	—	—	
"	277 15号溝跡	木製品・曲物	—	—	—	產地不明	—	—	
"	278 15号溝跡	木製品・曲物	—	—	—	產地不明	—	—	
国37	279 15号溝跡	木製品・曲物	—	—	—	產地不明	—	—	
"	280 15号溝跡	木製品・不明品	—	—	—	產地不明	—	—	邊えた痕跡がある

単位：cm ( )は反転実測による推定値

図版 番号	出土位置・ 遺構	器 種	法 量			推定生産地	色 調	焼成 度	備 考
			口径	器高	底径				
国37	281 15号溝跡	木製品・桶	—	—	—	产地不明	—	—	—
"	282 15号溝跡	木製品・釜	—	—	—	产地不明	—	—	—
"	283 15号溝跡	木製品・釜	—	—	—	产地不明	—	—	—
"	284 15号溝跡	木製品・釜	—	—	—	产地不明	—	—	—
"	285 15号溝跡	木製品・釜	—	—	—	产地不明	—	—	—
"	286 15号溝跡	木製品・釜	—	—	—	产地不明	—	—	—
"	287 15号溝跡	木製品・釜	—	—	—	产地不明	—	—	—
"	288 15号溝跡	木製品・釜	—	—	—	产地不明	—	—	—
"	289 15号溝跡	木製品・瓶	—	—	—	产地不明	—	—	—
"	290 15号溝跡	木製品・瓶	—	—	—	产地不明	—	—	—
"	291 15号溝跡	木製品・瓶	—	—	—	产地不明	—	—	—
"	292 15号溝跡	木製品・瓶	—	—	—	产地不明	—	—	—
"	293 15号溝跡	竹製品・不明品	—	—	—	产地不明	—	—	—
"	294 15号溝跡	木製品・包丁	—	—	—	产地不明	—	—	—
国38	295 15号溝跡	木製品・下鉢	—	—	—	产地不明	—	—	—
"	296 15号溝跡	木製品・下鉢	—	—	—	产地不明	—	—	—
"	297 15号溝跡	木製品・下鉢	—	—	—	产地不明	—	—	—
"	298 15号溝跡	木製品・不明品	—	—	—	产地不明	—	—	—
"	299 15号溝跡	石製品・圓石	—	—	—	—	—	—	—
"	300 15号溝跡	石製品・圓石	—	—	—	—	—	—	—
"	301 15号溝跡	石製品・圓石	—	—	—	—	—	—	—
"	302 15号溝跡中層	石製品	4.4	1.8	—	—	—	—	—
国39	303 17号溝跡	磁器・小丸碗	(8.6)	—	—	肥前	染付	良好	—
"	304 17号溝跡	陶器・小环	(7.0)	4.4	(3.2)	瀬戸美濃	2.5Y 灰白 8/1 灰釉	良好	—
"	305 17号溝跡	陶器・碗	—	—	(4.0)	瀬戸美濃	2.5Y 灰白 8/1 鉄輪	良好	—
"	306 18号溝跡	土器・かわらけ	(13.4)	2.9	(7.5)	在地	7.5YR 鈍い橙 7/4	良好	—
"	307 18号溝跡	土器・かわらけ	(13.0)	2.6	(6.4)	在地	10YR 鈍い黄橙 7/2	良好	—
"	308 18号溝跡	土器・かわらけ	(12.6)	(2.5)	(8.0)	在地	10YR 灰黄橙 6/2	良好	—
"	309 18号溝跡	土器・かわらけ	(11.6)	2.6	(6.4)	在地	7.5YR 鈍い橙 7/4	良好	—
"	310 18号溝跡	土器・かわらけ	(11.6)	2.2	(6.4)	在地	7.5YR 鈍い橙 6/4	良好	—
"	311 18号溝跡	土器・かわらけ	10.7	2.6	5.6	在地	7.5YR 鈍 7/6	良好	—
"	312 18号溝跡	土器・かわらけ	9.4	2.2	5.7	在地	7.5YR 浅黄橙 7/4	良好	—
"	313 18号溝跡	土器・かわらけ	13.4	2.8	8.0	在地	10YR 鈍い黄橙 6/4	良好	—
"	314 18号溝跡	土器・かわらけ	8.0	1.8	5.8	在地	10YR 鈍い黄橙 7/4	良好	—
"	315 18号溝跡	土器・かわらけ	6.8	1.7	3.8	在地	7.5YR 鈍い橙 7/4	良好	—
"	316 18号溝跡	土器・かわらけ	(7.0)	(1.6)	(4.0)	在地	7.5YR 鈍い橙 7/4	良好	—
"	317 18号溝跡	土器・かわらけ	7.8	1.8	3.7	在地	7.5YR 鈍い橙 6/4	良好	—
"	318 18号溝跡	土器・茶釜	(17.0)	—	—	在地	5YR 橙 6/6	良好	—
"	319 18号溝跡	土器・茶釜	13.6	—	—	在地	7.5YR 鈍い橙 7/4	良好	—
"	320 18号溝跡	土器・擂钵	—	—	(15.0)	在地	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	—
"	321 18号溝跡	土器・火鉢	(23.6)	—	—	在地	5YR 鈍い赤褐色 5/4	良好	外側にミガキ
"	322 18号溝跡	土器・内山鍋	—	—	—	在地	10YR 鈍い黄橙 7/4	良好	—
"	323 18号溝跡	土器・擂鉢	—	—	—	在地	7.5YR 橙 7/6	良好	—
"	324 18号溝跡	土器・鉢	—	—	—	在地	2.5Y 灰白 8/1	良好	—
国40	325 18号溝跡	土器・培塿罐	33.6	8.6	30.0	在地	10YR 鈍い黄橙 6/2	良好	—
"	326 18号溝跡	土器・培塿罐	33.4	10.0	29.6	在地	10YR 鈍い黄橙 5/3	良好	—
"	327 18号溝跡	陶器・日人祭碗	—	—	—	瀬戸美濃	2.5Y 灰白 8/1 鉄輪	良好	大窓 2・3
"	328 18号溝跡	陶器・鉢	—	—	(7.6)	瀬戸美濃	2.7Y 灰白 8/1 長石練鉄輪	良好	第1小窓
"	329 18号溝跡	陶器・小环	(6.8)	(4.4)	(4.4)	初山	N 2/2 鉄輪	良好	大窓 3 後半
"	330 18号溝跡	陶器・我稚瓶	(10.6)	1.9	(6.0)	瀬戸美濃	2.5Y 灰白 8/2 鉄輪	良好	大窓 3
"	331 18号溝跡	陶器・茶入	4.2	—	—	瀬戸美濃	2.5Y 灰白 8/2 鉄輪	良好	大窓別 (不明)
"	332 18号溝跡	陶器・船形利	—	—	(12.6)	瀬戸美濃	2.5Y 灰白 8/3 銀輪	良好	大窓 3
"	333 18号溝跡	陶器・擂鉢	—	—	—	瀬戸美濃	10YR 浅黄 7/3	良好	大窓 3 後半
"	334 18号溝跡	陶器・擂鉢	—	—	—	瀬戸美濃	10YR 浅黄 8/3	良好	大窓 2・3
"	335 18号溝跡	陶器・日人瓶	—	—	(14.1)	瀬戸美濃	2.5Y 灰白 8/2	良好	古瀬戸後IV新
"	336 18号溝跡	陶器・貢瀬戸鉢	(28.2)	—	—	瀬戸美濃	2.5Y 灰白 8/2 黄輪	良好	第1小窓 2次被熱
"	337 18号溝跡	陶器・茶釜	—	—	—	中津川	2.5Y 灰白 8/1 黄輪	良好	—
"	338 18号溝跡	陶器・常滑甕	—	—	—	常滑	5RY 橙 6/6	良好	常滑初期
"	339 18号溝跡	陶器・志・呂呂井	—	—	(11.6)	志戸島	7.5Y 灰 5/1 鉄輪	良好	第1小窓 2次被熱
国41	340 18号溝跡	石製品・圓石	—	—	—	—	—	—	—
"	341 18号溝跡	漆器・杓子	—	—	—	产地不明	外・黒・朱	—	—
"	342 18号溝跡	石製品・圓石	—	—	—	—	—	—	—
"	343 18号溝跡	石製品・圓石	—	—	—	—	—	—	—
"	344 19号溝跡	土器・かわらけ	(14.0)	(3.0)	(7.8)	在地	10YR 鈍い黄橙 6/3	良好	スヌ付着
"	345 19号溝跡	土器・かわらけ	14.5	2.8	7.6	在地	7.5YR 鈍い橙 6/4	良好	スヌ付着
"	346 19号溝跡	土器・かわらけ	(12.6)	(2.7)	(6.3)	在地	10YR 灰黄橙 6/2	良好	スヌ付着
"	347 19号溝跡	土器・かわらけ	12.6	3.0	6.5	在地	10YR 浅黄 8/3	良好	—
"	348 19号溝跡	土器・かわらけ	(10.6)	(2.4)	(5.7)	在地	7.5YR 鈍い橙 7/4	良好	—
"	349 19号溝跡	土器・かわらけ	10.6	2.7	5.5	在地	10YR 鈍い黄橙 6/3	良好	白線部刷込にスヌ付着
"	350 19号溝跡	土器・かわらけ	(9.6)	(2.0)	(5.4)	在地	7.5YR 鈍い橙 7/4	良好	—

単位: cm ( )は反転実測による推定値

因版番号	出土位置・遺構	器種	法 理			推定生産地	色 調	焼成	備考
			口径	高さ	底径				
42-351	19号溝跡	上器・かわらけ	-	(7.4)	-	在地	10YR 純い黄橙 7/2	良好	見込み部にナメ調整
" 352	19号溝跡	土器・かわらけ	12.2	3.3	7.0	在地	7.5YR 純い橙 7/4	良好	
" 353	19号溝跡	上器・かわらけ	(12.2)	(2.8)	(7.3)	在地	10YR 純い黄橙 6/4	良好	
" 354	19号溝跡	土器・かわらけ	9.9	2.6	4.0	在地	7.5YR 純い橙 6/4	良好	
" 355	19号溝跡	上器・かわらけ	9.8	2.6	6.6	在地	7.5YR 純い橙 7/4	良好	
" 356	19号溝跡	灰釉陶器・碗	-	-	7.3	在地	5RY 灰白 8/1	良好	貼りつけ高台
" 357	19号溝跡	上器・内耳鉢	(26.2)	15.3	(21.2)	在地	10YR 純い黄橙 7/3	良好	
" 358	19号溝跡	土器・内耳鉢	-	-	-	在地	10YR 純い黄橙 6/4	良好	
" 359	19号溝跡	上器・茶釜	(12.8)	-	-	在地	10YR 純い黄橙 6/4	良好	ミガキ痕あり
" 360	19号溝跡	瓦質土器・茶釜	-	-	-	在地	2.5Y 灰白 7/1	良好	
" 361	19号溝跡	瓦質土器・火鉢	(31.4)	-	-	在地	K 灰灰 3/	良好	
" 362	19号溝跡	土器・香炉	9.0	4.6	6.9	在地	10YR 純い黄橙 7/3	良好	
" 363	19号溝跡	土器・香炉	(31.4)	7.4	(9.6)	在地	7.5YR 純い橙 7/4	良好	
" 364	19号溝跡	土器・七輪	-	-	-	在地	5RY 灰白 8/1	良好	
" 365	19号溝跡	土器・土製円盤	-	-	-	在地	10YR 純い黄褐色 5/3	良好	内耳鉢を転用
" 366	19号溝跡	瓦質土器・指鉢	-	-	-	在地	10YR 純い黄褐色 6/3	良好	
" 367	19号溝跡	瓦質土器・指鉢	-	-	(17.0)	在地	7.5Y 灰 4/1	良好	
43-368	19号溝跡	土器・猪鉢	-	-	(13.4)	在地	5YR 橙 6/6	良好	
" 369	19号溝跡	土器・指鉢	-	-	(15.0)	在地	10YR 純い黄褐色 7/3	良好	
" 370	19号溝跡	土器・指鉢	35.2	11.4	14.9	在地	10YR 純い黄褐色 6/3	良好	
" 371	19号溝跡	磁器・白磁輪花瓶	-	-	-	中国	N 灰白 8/ 還明釉	良好	
" 372	19号溝跡	磁器・青磁瓶	-	-	5.3	中国	N 灰白 7/ 青磁釉	良好	15C
" 373	19号溝跡	陶器・古酒器・瓶子小	-	-	-	瀬戸	2.5Y 灰褐色 6/2	良好	
" 374	19号溝跡	陶器・古酒器・瓶子大	-	-	12.3	瀬戸	2.5Y 灰褐色 6/1	良好	15C
" 375	19号溝跡	陶器・常滑甕	-	-	-	常滑	2.5Y 黑褐色 3/1 灰釉	良好	
" 376	19号溝跡	陶器・常滑甕	-	-	-	常滑	2.5Y 黄褐色 6/1 灰釉	良好	
" 377	19号溝跡	陶器・常滑甕	-	-	-	常滑	3Y 灰 4/1	良好	
" 378	19号溝跡下層	土師器・环	-	-	5.0	在地	10YR 浅黄橙 8/2	良好	墨書き「小舟」
" 379	19号溝跡下層	土師器・环	-	-	4.0	在地	7.5Y 純い橙 7/4	良好	墨書き「安」
" 380	19号溝跡	漆器・碗	16.8	-	-	在地	外・黒 内・黒 線・朱	-	
" 381	19号溝跡	漆器・碗	-	-	(7.2)	在地	外・黒 内・朱	-	
" 382	19号溝跡	木製品・卜匙	-	-	-	在地	-	-	
44-383	19号溝跡	木製品・下鉢	-	-	-	在地	-	-	
" 384	19号溝跡	石製品・凹石	-	-	-	-	-	-	
" 385	19号溝跡	石製品・凹石	-	-	-	-	-	-	
" 386	19号溝跡	石製品・凹石	-	-	-	-	-	-	
" 387	19号溝跡	石製品・凹石	-	-	-	-	-	-	
" 388	19号溝跡	石製品・凹石	-	-	-	-	-	-	
" 389	22号溝跡	土師器・环	12.0	4.0	5.0	在地	5YR 橙 6/6	良好	
" 390	22号溝跡	土師器・环	-	-	4.6	在地	10YR 純い黄褐色 7/2	良好	
" 391	22号溝跡	土師器・内里环	(18.0)	5.9	(10.0)	在地	10YR 灰褐色 5/2	良好	
" 392	22号溝跡	土師器・皿	(13.0)	3.1	(5.0)	在地	5YR 橙 6/6	良好	墨書き「太」
" 393	22号溝跡	土師器・环	-	-	6.0	在地	7.5YR 橙 6/6	良好	墨書き「安」
" 394	22号溝跡	土師器・环	-	-	5.0	在地	5YR 橙 6/6	良好	墨書き
" 395	22号溝跡	土師器・环	10.8	4.3	5.1	在地	5YR 橙 6/6	良好	墨書き「山」か?
45-396	22号溝跡	土師器・蓋	(17.0)	-	-	在地	5YR 明赤褐 5/6	良好	
" 397	22号溝跡	灰釉陶器・盖	(15.0)	-	-	在地	5Y 灰 6/	良好	
" 398	22号溝跡	黑色土器・耳か鉢	-	-	6.0	在地	5Y 灰 5/1	良好	
" 399	22号溝跡	内黑土器・片口鉢	-	-	-	在地	7.5YR 橙 6/6	良好	
" 400	22号溝跡	土師器・皿	-	-	1.9	在地	5YR 橙 6/6	良好	
" 401	22号溝跡	土師器・皿	(12.6)	2.8	(4.7)	在地	7.5YR 橙 6/6	良好	墨書き記号か?
" 402	22号溝跡	土師器・皿	(13.0)	-	-	在地	5YR 橙 6/6	良好	
" 403	22号溝跡	土師器・大型环	19.0	8.6	7.0	在地	5YR 橙 6/6	良好	
" 404	22号溝跡	土師器・皿	13.3	2.5	5.2	在地	5YR 明赤褐 5/6	良好	墨書き「小介」か?
" 405	22号溝跡	土師器・高环	-	-	-	在地	10YR 灰褐色 5/2	良好	
" 406	22号溝跡	土師器・高环	-	-	-	在地	2.5Y 明赤褐 5/6	良好	
" 407	22号溝跡	土師器・小型环	(14.0)	9.0	(6.0)	在地	7.5Y 純い橙 5/4	良好	
" 408	22号溝跡	土師器・皿	20.0	-	-	在地	5YR 明赤褐 5/6	良好	
" 409	22号溝跡	埴輪器・盖	(13.0)	-	-	在地	7.5Y 灰 5/1	良好	
" 410	22号溝跡	埴輪器・蓋	-	-	(17.0)	在地	7.5Y 灰 5/1	良	
44-411	22号溝跡	埴輪器・盖	-	-	-	在地	5YR 灰褐色 5/2	良	
" 412	22号溝跡	絞釉陶器・皿	-	-	8.0	美濃小倉投	7.5Y 灰白 8/1 緑繪	良好	内面陰刻花弁
" 413	22号溝跡	絞釉陶器・皿	-	-	-	美濃小倉投	7.5Y 灰白 8/1 緑繪	良好	
" 414	22号溝跡	灰釉陶器・碗	14.0	-	-	美濃小倉投	5Y 灰白 7/1 灰褐色	良好	
" 415	22号溝跡	灰釉陶器・碗	-	-	8.4	美濃小倉投	5Y 灰白 7/1	良好	
" 416	22号溝跡	灰釉陶器・碗	-	-	8.0	美濃小倉投	2.5Y 扇口 7/1	良好	
" 417	22号溝跡上層	内黑土器・碗環	(17.0)	-	-	在地	10YR 純い黄褐色 7/4	良好	墨書き「安」か?
" 418	22号溝跡上層	土師器・皿	(12.0)	4.4	(4.0)	在地	5YR 橙 6/6	良好	記号か?
" 419	22号溝跡上層	土師器・皿	12.8	2.7	4.0	在地	10YR 純い黄褐色 5/3	良好	記号か?
" 420	22号溝跡上層	土師器・环	-	-	4.4	在地	7.5Y 橙 6/6	良好	墨書き「安」

回数	番号	出土位置・遺構	器種	法 量			推定生産地	色	調	焼成	備考
				口径	器高	底径					
■	421	22号溝跡上層	土師器・环	(12.2)	(4.3)	(5.0)	在地	2.5YR 嘴赤褐	5/6	良	
■	422	22号溝跡上層	灰陶陶器・壺	—	—	9.0	米濃か	N 赤	6/	良	
■	423	22号溝跡上層	須恵器・环	(16.0)	(5.7)	(11.2)	在地	5YR 灰褐	4/2	良	
■	424	22号溝跡上層	須恵器・壺	—	—	(12.0)	在地	5Y 灰	5/1	不良	
■	425	22号溝跡上層	土師器・壺	36.0	—	—	在地	7.5YR 純い褐	5/4	良好	
■	426	1号上塙	石製品・石刀	—	—	—	—	—	—	—	
■	427	2号土壤	陶器・刷毛目碗	(10.3)	5.9	4.0	唐津	5YR 灰	6/6	良	
■	428	3号上塙	陶器・壺・反鉢	(10.0)	—	—	瀬戸	N 灰白	8/	良好	17C後半
■	429	3号土壤	土師器・环	(11.0)	—	—	在地	5YR 赤褐	4/2	良好	
■	430	3号土壤	陶器・不明	(18.8)	—	—	米濃か	N 灰白	7/	良好	
■	431	3号土壤	土師器・羽釜	—	—	—	在地	5YR 赤褐	4/8	良好	
■	432	3号土壤	磁器・碗盃	8.6	2.3	3.2	瀬戸英造	染付	—	良	
■	433	3号上塙	磁器・広口碗	(11.8)	6.2	(6.4)	肥前	染付	—	良	
■	434	3号土壤	陶器・碗	(8.4)	6.2	4.1	米濃	2.5Y 灰褐	6/1 銀釉・鉛釉	良	第8小期
■	435	3号土壤	土器・かわらけ	—	—	(5.6)	在地	5YR 純い褐	6/4	良	
■	436	3号土壤	石製品・砥石	—	—	—	—	—	—	—	
■	437	6号上塙	陶器・天日茶碗	(10.0)	—	—	瀬戸美濃	N7 灰白	7/	良好	
■	438	6号土壤	陶器・尾・昂頭	(9.8)	—	—	奥酒	N 灰白	7/	良好	
■	439	6号上塙	土器・かわらけ	(11.8)	—	—	在地	5YR 純い粉	6/6	良好	
■	440	6号土壤	土器・羽釜	(26.5)	—	—	在地	10YR 純い黄褐	7/4	良好	
■	441	6号上塙	土器・鏡	—	—	(26.0)	在地	2.5YR 純い粉	6/4	良好	
■	442	6号土壤	磁器・瓶	—	—	(5.4)	中国	染付	—	良	
■	443	6号土壤	石製品・砥石	—	—	—	—	—	—	—	
■	444	7号土壤	土器・かわらけ	—	—	(4.6)	在地	2.5YR 灰	6/6	良好	
■	445	11号土壤	土器・壺	—	—	(15.8)	在地	5YR 淡橙	8/4	良好	
■	446	11号上塙	土器・かわらけ	—	—	(5.8)	在地	7.5YR 純い粉	7/4	良好	
■	447	18号土壤	土器・かわらけ	9.2	2.9	4.9	在地	5YR 灰	6/6	良	
■	448	18号土壤	土器・かわらけ	(8.8)	2.6	(4.6)	在地	5YR 粉	6/6	良	
■	449	18号土壤	土器・かわらけ	(9.0)	(2.9)	(4.8)	在地	5YR 粉	6/6	良	
■	450	18号土壤	土器・かわらけ	(9.0)	(2.5)	(4.4)	在地	5YR 粉	6/6	良	
■	451	18号土壤	土器・かわらけ	8.8	2.6	4.9	在地	5YR 粉	6/6	良	
■	452	18号土壤	土器・かわらけ	8.7	2.7	4.3	在地	5YR 粉	6/6	良	
■	453	18号土壤	土器・かわらけ	8.4	2.5	5.6	在地	5YR 粉	6/6	良	
■	454	18号土壤	土器・かわらけ	8.6	2.5	5.0	在地	5YR 粉	6/6	良	
■	455	22号上塙	土器・壺	(35.0)	—	—	在地	5YR 灰	6/6	良	
■	456	24号土壤	土器・かわらけ	(11.6)	—	—	在地	2.5YR 粉	7/6	良好	
■	457	24号上塙	灰陶陶器・壺	(11.8)	—	—	米濃	2.5YR 明褐色	7/	良好	
■	458	25号土壤	土師器・环	14.5	4.4	7.1	在地	2.5YR 粉	7/6	良好	
■	459	26号上塙	土師器・环	(13.0)	—	—	在地	3YR 粉	6/6	良好	
■	460	26号土壤	土師器・环	(15.8)	—	—	在地	5YR 灰	7/6	良好	
■	461	27号土壤	土器・壺	(13.5)	—	—	在地	5YR 純い粉	7/4	良好	
■	462	29号上塙	土器・灯明皿	8.6	2.2	5.0	在地	2.5YR 灰	6/6	良好	
■	463	29号土壤	土器・かわらけ	(9.0)	(2.0)	(5.0)	在地	2.5YR 純い粉	6/4	良好	
■	464	30号上塙	灰陶陶器・碗?	—	—	8.0	奥酒	10YR 純い黄褐	7/4	良	
■	465	30号土壤	抹釉陶器・皿?	(14.0)	—	—	米濃か	10YR 黄褐	5/2	良	
■	466	30号上塙	土器・かわらけ	—	(7.0)	—	在地	7.5YR 粉	6/6	良	
■	467	30号土壤	土製内盤	4.4	4.8	1.0	在地	2.5YR 粉	6/6	良	擂沫を転用
■	468	30号土壤	土製内盤	4.2	4.8	0.6	在地	10YR 純い黄褐	5/3	良	内耳鍋を転用
■	469	30号上塙	土器・かわらけ	8.5	1.6	5.6	在地	10YR 黑褐	3/1	良	
■	470	30号土壤	土器・かわらけ	—	—	(8.0)	在地	2.5YR 粉	6/6	良	
■	471	30号上塙	陶器・常滑窯	—	—	—	常滑	5Y オリーブ黒	3/2	良	
■	472	30号土壤	陶器・常滑窯	—	—	—	常滑	2.5Y 黑褐	3/1	良	
■	473	30号上塙	瓦器上器・壺	35.6	—	—	在地	7.5Y 灰	4/1	良	
■	474	30号土壤	土器・埴輪	27.1	—	—	在地	10YR 純い黄褐	6/4	良	
■	475	30号土壤	土器・内山鍋	30.0	—	—	在地	7.5YR 純い粉	5/3	良	
■	476	30号上塙	土器・内耳鍋	30.0	16.0	21.0	在地	10YR 明黄褐	7/6	良	外側ス付者
■	477	30号上塙	瓦質上器・壺	—	—	12.0	在地	N 灰	4/	良	
■	478	30号上塙	瓦質土器・壺	—	—	12.8	在地	10YR 灰	4/1	良	
■	479	34号土壤	灰陶陶器・壺?	—	—	—	米濃か	2.5Y 黄褐	6/1	良	
■	480	34号上塙	土師器・小壺?	(14.3)	—	—	在地	2.5YR 純い粉	5/4	良	
■	481	34号土壤	土師器・环	(14.9)	—	—	在地	10YR 純い黄褐	6/4	良	
■	482	34号上塙	土師器・环	(13.7)	—	—	在地	10YR 純い黄褐	6/4	良	
■	483	34号土壤	土師器・环	(14.6)	—	—	在地	2.5YR 灰	6/6	良	
■	484	34号土壤	須恵器・壺	—	—	(6.8)	在地	10BG 黒灰	5/1	良	
■	485	35号土壤	瓦質土器・内耳鍋	(23.8)	—	—	在地	2.5Y 黄褐	6/1	良	
■	486	35号上塙	灰陶陶器・皿?	—	—	7.0	米濃	2.5Y 灰褐	7/2	良好	
■	487	35号土壤	土器・かわらけ	13.0	2.5	8.0	在地	7.5YR 純い粉	6/4	良	
■	488	35号上塙	土器・かわらけ	—	—	4.0	在地	5YR 純い赤褐	5/4	良	
■	489	44号土壤	土器・かわらけ	(9.7)	2.8	(5.7)	在地	2.5YR 純い粉	5/3	良好	
■	490	44号上塙	破壊器・くらわんか碗	9.2	5.0	4.1	肥前	染付	—	良好	18C後半

単位: cm ( )は採取実測による推定値

版番・季号	出土位置・遺構	器種	法		堆生産地	色調	焼成	備考	
			口径	器高					
1450 491	44号上塙	陶器・くらわんか碗(9.4)	5.0	3.6	肥前	染付	良好	18C後半	
n	492 44号土塙	陶器・半球碗	9.2	5.6	京・紀州	5Y 灰白 8/1 透明白音・土・植物	良好	18C後半	
n	493 44号土塙	陶器・碗	—	—	瀬戸	5Y 灰白 8/1 鉄錆	良好		
n	494 44号土塙	陶器・鉢	—	5.3	肥前	染付	良好		
n	495 44号土塙	不製品・陶物	—	—	产地不明	—	—		
n	496 44号土塙	上器・かわらけ	(10.0)	2.4	5.0	在地	5YR 稲 7/6	良好	
n	497 53号土塙	土器・かわらけ	12.3	2.9	7.3	在地	5YR 橙 7/6	良好	
n	498 54号土塙	上器・かわらけ	10.2	—	在地	5YR 棕 6/6	良好		
n	499 57号土塙	土師器・环	12.4	—	在地	5YR 棕 6/6	良好		
n	500 57号土塙	石製品・五輪塔	—	—	—	—	—	地輪・水輪との接点にスズ	
n	501 57号土塙	陶器・常滑器	—	—	常滑	2.5Y 黄灰 5/1	良好		
n	502 57号土塙	陶器・長颈瓶	—	—	在地	5YR 純い赤褐 4/3	良好		
n	503 61号土塙	土師器・环	(12.0)	—	在地	7.5YR 純い棕 7/4	良好		
n	504 61号土塙	土師器・环	—	7.0	在地	7.5YR 浅黄青 8/6	良好		
n	505 61号土塙	土師器・甕	34.0	—	在地	7.5YR 純い棕 6/4	良好	2次被熱	
n	506 62号土塙	陶器・典番手碗(11.8)	—	—	肥前	2.5Y 灰白 8/2 透明釉	良好		
n	507 62号土塙	上器・かわらけ	(5.7)	2.0	(4.6)	在地	7.5YR 純い棕 7/4	良好	
n	508 62号土塙	陶器・灰釉瓶	—	—	(5.6)	瀬戸美濃	10YR 黄灰褐 6/2 灰錆	良好	
n	509 65号土塙	上器・かわらけ	(13.6)	2.9	(7.8)	在地	5YR 棕 7/6	良好	
n	510 73号土塙	土器・焼焼繩	(28.4)	6.4	(26.4)	在地	5YR 純い赤褐 5/4	良好	
n	511 73号土塙	上器・かわらけ	(9.4)	2.4	5.7	在地	7.5YR 純い棕 6/3	良好	
n	512 74号土塙	土器・かわらけ	(8.0)	1.7	(5.0)	在地	7.5YR 純い棕 6/4	良好	
n	513 74号土塙	上器・かわらけ	—	—	(6.9)	在地	5YR 純い棕 6/4	良好	
n	514 1号集石造構	石製品・石臼	—	—	—	—	—	—	
n	515 2号集石造構	土器・かわらけ	—	—	(5.8)	在地	5Y 灰白 8/2	良好	
n	516 2号集石造構	土器・長颈瓶	—	—	在地	N 灰 4/0	良好		
n	517 2号集石造構	土器・福鉢(33.4)	—	—	在地	N 灰 6/0	良好		
n	518 3号集石造構	灰釉陶器・壺	—	—	—	美濃	2.5Y 黄灰 6/1	良好	
n	519 3号集石造構	石製品・磨石	—	—	—	—	—	—	
n	520 5号集石造構	灰釉陶器・壺	—	—	(11.0)	筑波	5Y 灰白 8/1	良好	
n	521 6号集石造構	土器・かわらけ	(11.6)	2.35	(3.0)	在地	10YR 灰白 7/1	良好	
n	522 6号集石造構	土器・かわらけ	(12.6)	—	—	在地	5YR 純い赤褐 5/4	良好	
n	523 6号集石造構	青磁・碗	—	—	(5.2)	中国	N 黄白 8/0 青斑	良好	
n	524 7号集石造構	土器・かわらけ	(11.0)	—	—	在地	7.5YR 褐灰 4/1	良好	
n	525 7号集石造構	土器・かわらけ	—	—	(5.8)	在地	7.5YR 灰白 8/2	良好	
n	526 7号集石造構	土器・土器	—	—	—	在地	2.5YR 純い赤褐 5/4	良好	
n	527 7号集石造構	土器・上鏡	—	—	—	在地	10YR 純い黄橙 7/3	良好	
n	528 8号集石造構	土器・内耳鉢(29.0)	—	—	—	在地	2.5Y 黄灰 6/1	良好	
n	529 10号集石造構	土器・縦鉢	—	—	(7.5)	在地	7.5YR 明褐灰 7/	良好	
n	530 10号集石造構	土器・縦鉢	—	—	—	在地	N 黄白 7/	良好	
n	531 12号集石造構	青磁・碗	—	—	—	中国	N 黄白 8/	良好	
n	532 12号集石造構	瓦付け器・内耳鉢	—	—	—	在地	N 黄白 8/	良好	
n	533 12号集石造構	陶器・蒸煮器	—	—	—	常滑	N 黄白 7/	良好	
n	534 13号集石造構	土器・かわらけ	(13.0)	—	—	在地	7.5YR 浅黄橙 8/4	良好	
n	535 13号集石造構	土器・かわらけ	(12.4)	—	7.4	在地	7.5YR 純い棕 7/3	良好	
n	536 13号集石造構	瓦葺き器・内耳鉢(27.0)	—	—	—	在地	N 黄白 7/	良好	
n	537 14号集石造構	灰釉陶器・壺	—	—	—	美濃	N 黄白 8/	良好	
n	538 15号集石造構	陶器	—	—	6.0	瀬戸美濃	10YR 浅黄橙 8/3 灰錆	良好	2次被熱
n	539 1号井戸跡	土器・縦鉢	—	—	(7.0)	在地	7.5YR 明褐灰 7/2	良好	
n	540 1号井戸跡	石製品・石臼	—	—	—	—	—	—	
n	541 1号井戸跡	四石	—	—	—	—	—	—	
n	542 1号井戸跡	須恵器・甕	—	—	—	在地	N 黄灰 4/	良好	
n	543 2号井戸跡	白磁・皿(15.0)	—	—	—	中国	—	良好	
n	544 2号井戸跡	土器・かわらけ	(7.6)	1.7	(3.8)	在地	5YR 純い棕 7/4	良好	
n	545 2号井戸跡	土器・かわらけ	(8.8)	2.1	(5.5)	在地	2.5YR 稲 6/	良好	
n	546 2号井戸跡	土器・縦鉢	—	—	—	在地	7.5YR 灰灰 5/1	良好	
n	547 1号整穴状造構	陶器・天日茶碗	—	—	—	瀬戸美濃	5Y 灰白 8/2 鉄錆	良好	2次被熱
n	548 1号整穴状造構	灰釉陶器・皿(10.6)	—	—	(6.4)	美濃	5Y 灰白 8/1	良好	
n	549 1号整穴状造構	灰釉陶器・甕	—	—	—	10YR 灰白 7/1	良好		
n	550 1号整穴状造構	土器・かわらけ	5.6	1.2	3.6	在地	5YR 純い赤褐 5/4	良好	
n	551 4号整穴状造構	磁器・青磁盤	(26.6)	—	—	中国	10YR 灰白 8/1 青斑	良好	
n	552 4号整穴状造構	土器・かわらけ	(7.4)	1.4	(4.8)	在地	7.5YR 純い棕 5/4	良好	
n	553 4号整穴状造構	土器・かわらけ	—	—	(6.0)	在地	7.5YR 稲 7/6	良好	
n	554 6号整穴状造構	土師器・环(15.2)	—	—	—	在地	7.5YR 褐灰 4/1	良好	
n	555 6号整穴状造構	土師器・环	12.6	—	—	在地	5YR 純い赤褐 5/4	良好	
n	556 6号整穴状造構	土師器・蓋	—	—	(15.0)	在地	5YR 棕 6/6	良好	
n	557 6号整穴状造構	土師器・环(18.5)	—	—	—	在地	5YR 純い棕 7/4	良好	
n	558 6号整穴状造構	土師器・环(13.6)	—	—	—	在地	2.5YR 棕 6/6	良好	
n	559 ピット1	砾石	—	—	—	—	—	良好	
n	560 ピット13	土器・縦鉢	—	—	12.6	在地	5YR 黄白 8/1	良好	

単位: cm ( )は反転実測による推定値

区段番号	出土位置・透構	器種	法 量			推定生産地	色 調	焼成 備考
			口径	器高	底径			
554 561 ピット33	土器・土鉢	-	-	-	-	在地	5YR 鈍い橙 6/3	良好
562 ピット66	上器・かわらけ	8.8	2.5	4.8	-	在地	5YR 橙 6/6	良好
563 ピット76	土器・かわらけ	7.2	1.6	4.7	-	在地	5YR 橙 7/4	良好
564 ピット103	須恵器・壺	-	-	-	-	在地	2.5YR 黄灰 5/1	良好
565 ピット128	須恵器・壺	-	-	-	-	在地	10YR 楊灰 5/1	良好
566 ピット146	土器・壺鉢	31.4	11.3	10.0	-	在地	5YR 橙 6/6	良好
567 ピット157	灰釉陶器・壺	-	-	-	13.4	美濃か葉模 7YR 灰白 7/1	良好	
568 ピット158	土器・かわらけ	7.5	2.1	5.0	-	在地	5YR 橙 6/6	良好
569 ピット183	土製品・人形	-	-	-	-	在地	10YR 灰白 8/1	良好
570 ピット204	土器・壺	-	-	11.1	-	在地	2.5YR 明赤褐 5/6	良好
571 3号土塚	銅製品・銭貨	2.7	-	-	-	-	-	不明
572 3号土塚	銅製品・銭貨	2.7	-	-	-	-	-	東永通宝
573 3号土塚	銅製品・銭貨	2.4	-	-	-	-	-	寛永通宝
574 22号土塚	銅製品・銭貨	2.4	-	-	-	-	-	寛永通宝
575 22号土塚	銅製品・銭貨	2.3	-	-	-	-	-	元祐通宝
576 22号土塚	銅製品・銭貨	2.4	-	-	-	-	-	元祐通宝
577 22号土塚	銅製品・銭貨	2.6	-	-	-	-	-	承永通宝
578 22号土塚	銅製品・銭貨	2.4	-	-	-	-	-	不明
579 22号土塚	銅製品・銭貨	2.5	-	-	-	-	-	祥符元宝
580 70号土塚	銅製品・銭貨	(1.5)	-	-	-	-	-	治平元宝
581 70号土塚	銅製品・銭貨	2.4	-	-	-	-	-	治平元宝
582 75号土塚	銅製品・銭貨	2.2	-	-	-	-	-	皇宋通宝
583 75号土塚	銅製品・銭貨	2.4	-	-	-	-	-	元豐通宝
584 75号土塚	銅製品・銭貨	2.4	-	-	-	-	-	元祐通宝
585 75号土塚	銅製品・銭貨	2.4	-	-	-	-	-	政和通宝
586 75号土塚	銅製品・銭貨	2.4	-	-	-	-	-	嘉祐通宝
587 75号土塚	銅製品・銭貨	2.3	-	-	-	-	-	祥符元宝
588 79号土塚	銅製品・銭貨	2.4	-	-	-	-	-	開元通宝
589 18号溝跡	銅製品・銭貨	2.4	-	-	-	-	-	皇宋通宝
590 19号溝跡	銅製品・銭貨	2.4	-	-	-	-	-	元豐通宝
591 19号溝跡	銅製品・銭貨	2.4	-	-	-	-	-	半道元宝
592 19号溝跡	銅製品・銭貨	2.4	-	-	-	-	-	正隆元宝
593 15号溝跡	銅製品・和銅	(6.4)	-	-	-	-	-	
594 15号溝跡	銅製品・ゼセル	-	-	-	-	-	-	
595 E-7	銅製品・銭貨	2.4	-	-	-	-	-	元豐通宝
596 E-7	銅製品・銭貨	2.0	-	-	-	-	-	淳化元宝
597 E-7	銅製品・銭貨	2.4	-	-	-	-	-	元祐通宝
598 E-7	銅製品・銭貨	2.3	-	-	-	-	-	元豐通宝
599 E-7	銅製品・銭貨	2.4	-	-	-	-	-	皇宋通宝
600 D-7	土師器・环	-	-	6.0	在地	7YR 橙 6/6	良好	刻記あり
601 D-8	土師器・环	(13.1)	4.5	(4.7)	在地	7.5YR 橙 7/6	良好	甲斐型X I型
602 D-9	土師器・环	(14.0)	4.0	(4.6)	在地	5YR 橙 6/6	良好	
603 G-10	土器・かわらけ	-	-	5.8	在地	7.5YR 鈍い橙 5/4	良好	
604 D-8	土師器・环	-	-	(6.4)	在地	5YR 橙 6/6	良好	甲斐型X I期
605 G-10	綠釉陶器・碗	-	-	5.4	美濃か葉模	2.5Y 灰青 6/1	良好	
606 G-10	綠釉陶器・碗	(14.2)	-	-	美濃か葉模	2.5Y 灰青 6/2	良好	
607 D-7	綠釉陶器・碗	-	-	(8.8)	美濃か葉模	2.5Y 灰白 7/1 緑釉	良	
608 E-5	陶器・日人皿	(32.0)	-	-	古瀬	5Y 灰 1/1 灰釉	良好	後IV古
609 E-7	陶器・常滑型	-	-	-	常滑	5Y 灰白 7/1 灰釉	良好	12世紀後半
610 E-6	青磁・碗	-	-	-	中国	2.5Y 灰青 6/2 青磁	良好	13C
611 F-6	瓦質上器・壺鉢	(29.6)	8.3	(16.0)	在地	N 灰 6/	良好	
612 F-6	陶器・常滑型	-	-	-	常滑	N 灰 6/	良好	
613 F-12	土器・かわらけ	9.3	2.4	4.8	在地	-	良好	
614 D-8	陶器・灰釉丸輪	(10.0)	2.8	(3.5)	瀬戸美濃	2.5Y 灰青 7/2 灰釉	良好	大窯田段落 2次被熱
615 F-7	陶器・折線皿	-	-	-	瀬戸灰	5Y 灰白 8/2 灰釉	良好	大窯田後半
616 D-7	陶器・丼付	(12.8)	-	-	唐津	5Y 灰 5/1 灰釉	良好	17C前半
617 F-10	陶器・折線皿	(13.6)	-	-	瀬戸・美濃	2.5Y 灰白 8/2 灰釉	良好	
618 E-6	陶器・天目茶碗	-	-	5.1	瀬戸美濃	2.5Y 浅黄 7/3	良好	17C前半
619 D-8	陶器・天目茶碗	(10.7)	-	-	瀬戸・美濃	10YR 鈍い黄褐 7/4 鉄釉	良好	大窯田IV段落
620 D-8	陶器・灰釉丸輪	(10.8)	-	-	美濃	2.5Y 灰白 7/1 灰釉	良好	17C後半
621 1-12	陶器・壺利	-	-	(6.8)	瀬戸美濃	2.5Y 浅黄 7/3 灰釉	良好	
622 D-4	陶器・菊皿	(12.4)	-	-	美濃	2.5Y 灰青 7/2 灰釉	良	17C後半
623 D-5	陶器・菊皿	(12.6)	3.0	(7.0)	美濃	2.5Y 灰青 6/1 灰釉	良好	17C後半
624 E-5	陶器・皿	(12.4)	2.9	(6.7)	美濃	2.5Y 灰青 6/1 灰釉	良好	18C初
625 1-12	陶器・広東碗	11.0	6.2	6.0	肥前	染付	良好	焼錆あり
626 F-8	陶器・麻胎染付碗	10.3	7.0	5.0	肥前	5Y 灰 6/1 灰釉	良好	18C
627 I-12	陶器・皿	-	-	(4.7)	肥前	染付	良好	
628 I-12	陶器・碗	-	-	(3.3)	唐津	10YR 楊灰 6/1	良好	

# 第4章 考 察

## 第1節 古 代

### 1. 検出遺構について

古代の遺構として、大規模な水路ではないかと判断した東西方向の22号溝跡について考察を加えたい。検出した22号溝跡の断面中には、常時流水のある河川のような土砂の堆積状況はなく、自然流路とは考えにくい。また検出状況から判断して南北方向に延びる他の溝が接している可能性があり、22号溝跡の性格として、9世紀後半から10世紀にかけて主に機能した、条里などに関連する地割の一画、あるいは現在本遺跡東と西に流れる荒川と沼川を結ぶ運河的な役割を有する水路としての利用が考えられる。ただし、条里などの地割の一画と考えるには検出範囲が余りに部分的であり、可能性を示唆するに留める。

古代の交通路に関しては、甲府から荒川を渡り、高畠、西条を経由して鍬沢へつながる駅路の記述を『甲斐叢記』『甲斐国志』に確認できる。渡河地点は定かではないが、高畠には、社記によれば、創建が奈良時代に遡るとされる水神を祭神とする住吉神社があり、この近くを経由していた可能性もある。22号溝跡の調査は部分的であり、安易ではあるが、関わりもあったのではないかと思われる。

22号溝跡からは甲斐型土器IX・X期の土師器を主体として、須恵器、灰釉陶器、縫釉陶器を含んだ良好な一括資料が得られた。土師器の構成は、壺・皿などの食膳具がほぼ7割を占め、煮炊具は少ない。食膳具の中には、黒色土器（註1）が多く混じり、破片数にして黒色処理しない土師器食膳具のおおよそ3割ほどを占める。黒色処理しない土師器食膳具の作りは丁寧で内面に暗文を施すものが大半である。黒色土器は内面のみ、黒色処理が施され、内外面黒色処理する遺物は検出していない。特記すべき事項として、黒色土器の中に、甲斐型IX期の大型壺（図45）が出上っている。大型壺は、口径19cm、器高8.5cm、底径7cm、体部は内渦しながら立ち上がり、口縁部はやや外に開き、端部は若干玉縁状となる。器壁はやや厚めで、外面撫で調整、体部下半より回転ヘラ削り、底部は糸切り後、ナデ調整を施し、土器内面には放射状の暗文を施している。県内での出土例は少なく、韭崎市宮ノ前遺跡などで1点みられるのみである。また全体に占める割合は非常に少ないが、祭祀行為を目的としたと思われる墨書き土器を検出している。墨書き土器については後述する。この他、特殊な土器として、8面の面取りをした高壺が出土している。高壺は軸部分を検出したが、胎上は甲斐型の土器とは異なり、粒子が非常に細かく、外面を面取りした後、丁寧なナデ調整が施されている。こうした形式の高壺は平城京などで高環Aと分類される土器に類似している。高環Aは、奈良時代から出土例があり、器形の変化が余り見られない器種であることから（古代の土器研究会1993）、時期比定には用いられないが、本遺跡出土土器群の特殊性を物語るものではないかと思われる。部分的な検出による一括資料であるが、22号溝跡出土土器群の構成は平安時代の一般的な集落の出土遺物とは考えにくい点が多い。

9世紀前半には、韭崎市宮の前第2遺跡、甲府市桜井畠遺跡などからの発見例によつて、村落内に小規模な寺院などの公的施設が設けられていることも証明されつつあり、少なくとも9世紀後半には高畠周辺にそうした施設を有した大規模な古代の集落跡が存在していた可能性が高いと考えられる。

註1） 黒色処理を施した土器の中には処理の違いから甲斐型黒色土器と黒色土器に区別す

ることもあるが（蘿崎市教育委員会1992）今回は細かな分析をしておらず、一括して黒色土器と呼ぶことにする。

## 2. 墨書き土器について

墨書き土器は、15号溝跡より3点、19号溝跡下層より2点、22号溝跡より6点、23号溝跡より3点検出している。最も多い文字は「安」で、他に「小介」、「太」の文字を判読している。15号溝跡の資料で「大親」と判読したものは、甲斐型VII期の資料で他と時期が若干異なる。出土総数に比し、資料の絶対数は限られているが、墨書きのある土器は内黒処理や暗文が施された特殊な資料の他に、ごく普通の調整を施した环、皿などの食器であり、いずれの土器も甲斐型土器IX・X期に属する資料である。墨書きが施されているのは体部あるいは底部である。

律令期から平安時代にかけての高畠周辺は、先史的研究により、巨麻郡青沼郷（坂本1984）に属していたと考えられており、荒川両岸には青沼遺跡など該期の遺跡が点在している。

旧郡域内の墨書き土器の集成が平野（平野1992）によってなされているが、出土資料は単漢字のものが多く、北巨摩地域中心に非常にバラエティに富む資料であり、文字資料を遺跡に還元して郷名の比定など集落周辺の様相を読み取ることは難しい。

9～10世紀代の墨書き土器は、官衙・寺院を選ばず、住居内の窓周辺などより検出される事例も多く、一概に墨書き土器＝公的施設を連想することはできないが、9世紀後半には秋山氏館跡周辺に、文字を扱える集団が存在していたことは確かであり、平安時代の甲府盆地内の様子を窺える事例の一つとして重要な資料になると思われる。今後の資料の蓄積を待ちたい。

## 第2節 中世

### 1. 中世造構の変遷（図56）

調査成果で明らかとなったように、中世の秋山氏館跡一帯は墓域となる。墓は、土壙墓、集石墓を検出しているが、木村（木村1997）の分類に基づき、土葬を目的とした墓を上葬墓、石を集積して造った火葬墓の用語として集石墓を使用している。

中世段階と判断した造構群には、3時期の変遷が確認できる。

中世第1期には、19号溝を境として、土壙墓、集石墓を配置した墓域が形成される。

19号溝跡西側には、対応する溝跡として13号溝跡がつくられ区画内南寄りに2・3・6・8・9号集石造構が配置される。19号溝跡東側に対応する溝跡は、検出していないが、74・75号土壙などの土壙墓が配置される。

墓域の構成に、計画性が考えられることから、墓域を管理する宗教施設が調査区北側に存在していたと思われる。

秋山氏館跡に近接する宗教施設については、高源寺、永照寺2寺がある。高源寺は本遺跡北側に所在し、宝町中期の創建と伝える。永照寺はもとは永正寺と言い、永正年間に創建されたとも伝える。2寺のいずれかが検出した墓域群に関連するかは不明であるが、本遺跡一帯が突然墓域となる背景には、造墓主体である村落の居住形態の変化、宗教の変化など、社会の変化が大きく関わってくると思われ、15世紀代には中世の村落としての形態を整えつつあった高畠の様子を窺うことができる。

中世第2期には、13号溝跡は機能しなくなり、18号溝跡を利用した8・11・12号溝跡による区画が最初の墓域を破壊する形でつくられる。区画内には、1号井戸、4号建物跡、5・7・10・13号集石造構が造られる。区画外ではあるが、西側に造られる4・11号集石

遺構もこの段階と判断している。

18号溝跡東側には土壙墓とは判断できなかったが、多数の土壙を確認しており、土壙墓の造墓も続いて行われていたものと考えられる。

中世第3期には、新たに9・18号溝跡の区画がつくられるが、墓域としての土地利用はこの段階に終了したものと判断している。

## 2. 墓壙群について

検出した墓壙は、15世紀から16世紀初頭に造られたとみられる土壙墓7基、集石墓16基、墓に関わる施設として、茶毘状遺構を2基検出している。

土壙墓、集石墓各々の分布をみると、調査区の南北とほぼ中央に位置する19号溝を境とする空間を看取できる。調査区の南北に関しては特に区画は検出していないが、隙などなんらかの施設は設けられていた可能性もある。

土壙墓は、円形を呈するもの、やや方形を呈するもの、梢円形を呈するものがあるが、梢円形を呈するものが全体の7割を占める。

土壙墓は調査区北側に分布しており、配置に特に規則性、切り合はみられない。検出した土壙墓のうち、人骨を検出したのは22号土壙、74号土壙、75号土壙である。骨の埋葬方法は、土葬、北枕であり、22号土壙を除き、西向きの埋葬である。墓標などは確認していない。確認した土壙墓以外に19号溝西側D7グリッドから六道錢とみられる錢貨が出土しており、土壙墓が存在した可能性が高い。副葬品を伴う土壙墓のうち、初鎔年代の古い錢貨を出土する74号土壙、75号土壙は、土壙墓の中でも最も古いと考えられる。19号溝跡を挟んで、西側に造られている22号土壙は永樂錢を含んでおり、六道錢を伴う土壙墓の中では、新しい遺構とみることができる。

集石墓は、調査区南側に分布しており、藏骨器を伴うものは検出していない。構造から、以下の3形態に分類している。

1群、石組みをもち内部に石を充填する集石墓

2群、掘り込みが浅くまばらに石を配置する集石墓

3群、掘り込みが深く集石は墓壙の上面のみに認められる集石墓

遺存状態が悪いことから残りの集石墓は分類していないが、集石の縁帯を設け、内部に土を充填する形式の集石墓も存在していた可能性がある。

1群の集石墓は2・3・6・8・9号集石遺構を分類している。平面形には方形と円形の2種類が認められる。規模はまちまちである。埋葬方法は、ほぼ均等な大きさの石を用いて、2段程度の石組みをつくり、内部に火葬した人骨を埋納し、埋めていく過程で拳大の礫を集積する。

2群の集石墓には5・7・10・13・15号集石遺構を分類している。平面形は特に区画が設けられることからきちんととした形を呈さず、不整形となる。埋葬方法は、浅い掘り込みを設け、火葬した骨を埋納し、拳大の礫を平積みして埋葬する。礫は均等に集石されず、まばらに配置される。遺物は1群の集石墓と同じく小片であるが、15号集石墓からは火窯期の灰釉陶器の底部を検出している。

3群の集石墓には4・11号集石遺構を分類している。平面形は、円形である。埋葬方法は、2群の集石墓とほぼ同じであるが、2群の集石墓より、掘り込みを深く設け、火葬した骨を土で埋葬した後に、上面に拳大の礫を集石する。2群の集石墓に比較して、骨の遺存状態がよい。

1群に属する集石墓はE6・7、F6-F8グリッド周辺にまとまって検出している。

2群に属する集石墓はIの西隣、D5・6グリッド周辺に分布し、19号溝跡を挟んでI-13

グリッドにも検出している。3群に属する集石墓は、集石墓の分布範囲の最も西側C3グリッド周辺に位置している。分類ごとに切り合ひはみられないことから、若干の時期差はあるものの、ほぼ同時期に造られた墓である可能性が高い。出土遺物が少ないとから時期差の比較ができないが、区画を伴う1群の集石墓が若干古いと考えられ、大窯期の灰釉皿の底部を出土する集石墓を含む2群の集石墓、3群の集石墓がほぼ同時期に墓域を形成していったのではないかと思われる。

今回検出した集石墓には、興味深い現象として、3・5・11・14号集石墓から、くぼみ石の出土が確認できた。くぼみ石の用途は不明な点が多く、副葬とみてよいものか、判断に迷う。中世の墓制の中では、地下式壙から白を伴う事例を考察した論文がある（今井1994）。今井氏は、地下式壙の性格を墓壙と位置づけた上で葬式の際、白を使用する事例として枕团子をつくる、死体を運び出した後に白、あるいは籠やザルを転がして、靈魂を付着させて追い出すという民俗事例を引き、使用した石臼を破壊して、魂の依り代としての器物の破壊を行い、一部を副葬したのではないかとしている。地下式壙の事例との共通性は不明だが、検出した集石墓に伴う事例の一つとして報告しておく。

茶毘状遺構は、楕円形、方形を呈しており、煙道などは確認していない。出土遺物も少なく時期比定はできないが火葬を目的としたであろう遺構の性格から、集石墓に関連した施設の遺構である可能性は高い。

19号溝跡を挟んで分割された墓域空間は、19号溝跡東側の空間に土壙墓の構築が始まるのとほぼ同時期に、13・19号溝跡に区画された西側の空間に分布する1群の集石墓の造墓が始まり、13号溝跡埋設後、1群の集石墓と若干の時期差を持ちながら、2群、3群の集石墓が造られたと考えられる。また今回は土壙墓と判断できなかったため、土壙としているが、2群、3群の集石墓が造られた時期にも、東側の空間には、最初に造られた土壙墓を切る形で、副葬品を持たない土壙墓が造られ続けていたと思われる。土壙墓、集石墓の時期、造墓期間の比較はできなかった。

墓域全体の時期としては、15世紀前半代に遡る墓もあるのではないかと思われるが、区画となる19号溝跡の年代観から、15世紀中頃に造墓が盛んとなり、16世紀初頭まで営まれていた墓域と判断している。

墓域にみられる意識された空間は、造墓主体である集団内の階層差などが反映されたものと思われるが、造墓期間が長いことから、空間を管理する守などの施設が近接していた可能性が高い。

山梨県内の中世墓の集成は、野代幸和氏によって行われている（野代2000）。県内の中世墓の事例は、13世紀代から報告されており、野代氏によれば14世紀以前では、平安時代の方形プランを引き継いだ形式を呈するものが多く、主軸方位に関する意識はみられない。15～17世紀にかけては、長方形・方形・隅丸方形を呈し、覆土に碟を伴う形式のものはか、集石墓や五輪塔を伴う墓が報告されている。

秋山氏館跡で検出した墓域は、村落に伴う墓址と思われるが、山梨県内で火葬墓、土壙墓がある程度まとまった状態で検出された事例は亀崎市石之坪遺跡のほか、明野村深山田遺跡、高根町横森赤台（東下）遺跡の報告例があり、いずれも14～15世紀代に機能した墓域であるが、甲府盆地内でのまとまった中世墓地の検出はほとんどなく、本遺跡の事例は重要な資料となる。

墓域のみの検討に終始したが、山梨県内の中世墓の調査事例は近年、急激に増加しつつあり、墓単独で取り上げるのではなく、墓域成立の経過を中世村落との関連のなかで位置付けていく研究の進展が望まれる。

（山崎雅忠）

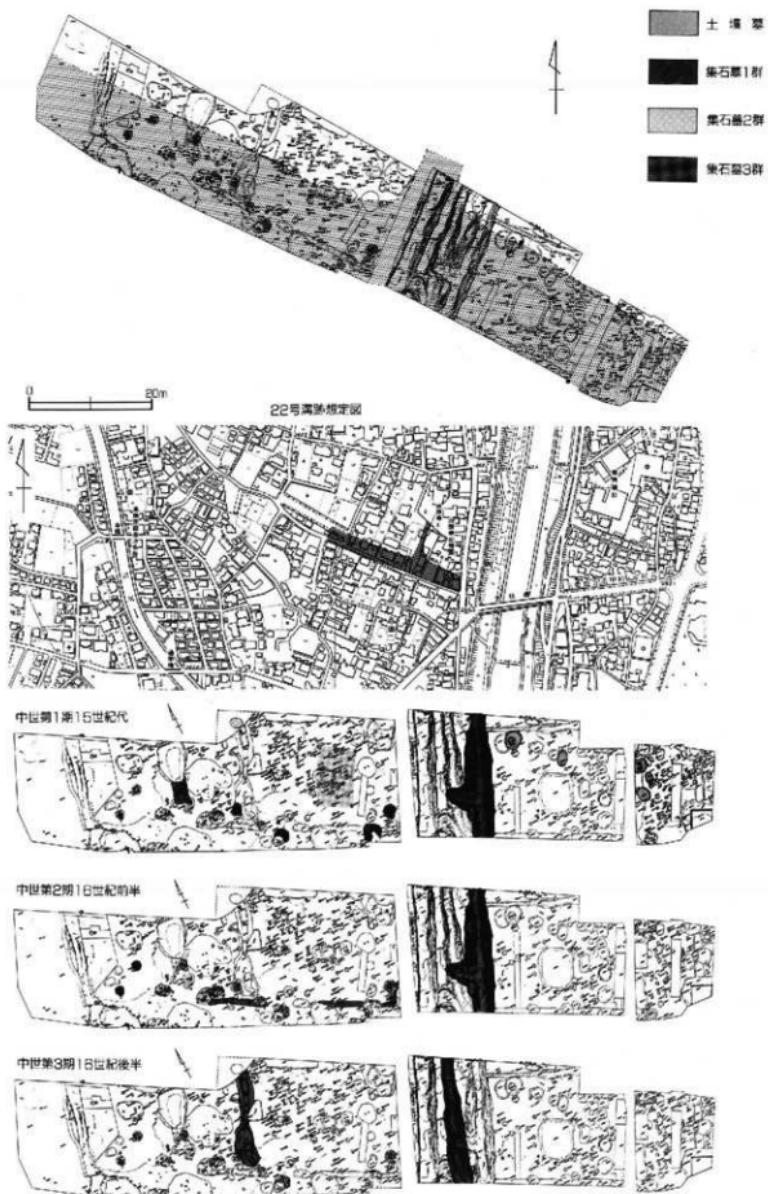


図56 22号溝跡想定図・秋山氏館跡中世遺構変遷図

### 第3節 近世・近代

#### 1. 検出遺構の変遷

本遺跡の名称にもなっている秋山氏の館跡に関連する遺構群であり、17世紀初頭から近現代まで継続した土地利用が認められた。調査当初は地割と伝承に基づき中世の方形居館として周知されていた遺跡であったが、調査成果で明らかにしたように、中世段階には居館ではなく墓域が存在し、寺院との関連性が考えられるため、正しくは近世の秋山氏屋敷跡と言った方が正しいだろう。残されている文書等から秋山氏は当初郷士であったが、江戸後期には高畠村名主や長百姓として位置づけられていることから、ある段階から村役人として在地支配の一翼を担っていたようである。秋山家に伝わる由緒によると慶長10年（1605）に当地に居を構えたとされ、万延元年（1860）に秋山長四郎から弟の仕官について、大和郡山藩主であった柳沢保中に宛て出された奉公願書の中にもその詳細が記されている。幕末の史料であるため中世段階に關してはどこまで溯るか不明であり、歴史背景として調査に關係すると思われる部分のみ簡単に整理しておくと次のとおりである。

- 秋山氏は武田家に仕えて各地を転戦し、武田滅亡後は西都中野村（現柳町）に蟄居していたが、慶長10年に兵部介が当地に移転し居を構える。
- 甲府城主となった松平甲斐守（柳沢吉里）の在城時に召し抱えられたが、吉里が甲斐から大和郡山に転封された際には、当主幼少の理由により甲斐に残留した。

以上のように高畠と秋山氏のつながりは定かではないものの、慶長10年に当地に移転したほか秋山氏は柳沢吉里在城時に召し抱えられていることが記載されている。したがって、少なくとも宝永7年（1710）以降には、柳沢家の家臣となっていることがわかる。おそらく実質的な甲斐国内の整備に乗り出した柳沢氏にとっては、領国經營をより確かなものにしていくため地理に明るい在地の人材が必要となったのであろう。その後は柳沢吉里の大和郡山国替には同行せず在地に残ったため、名主を始め村方三役に組み込まれていくのは享保9年（1724）以降と考えられる。

同時に秋山家には天保7年（1836）に描かれた屋敷絵図が残されている。絵図には南北1町、東西半町規模の長方形の敷地の中に幾つかの屋敷と付随する施設等が描かれ、調査区となった場所には長屋門と刷が描かれていることから、ちょうど屋敷の前庭的な空間であったことがわかる。このことを踏まえて、調査成果と照らし合わせると実に興味深いことがわかる。

近世面は遺構の切り合いや展開状況から幾つかの変遷が確認された。ただし、掘立柱建物跡や柱穴列については共伴遺物等の制限もあり、どの段階に位置づけられるか判断となかった。

#### 近世第1期（17世紀～18世紀初頭）

秋山氏による初期の屋敷跡に関わる遺構群である。屋敷地西側は検出された1号堀跡と1号土塁跡によって屋敷地を囲い込んでいたと考えられるが、東側では同規模の施設は確認できなかった。C区北側の調査区隣接地に小規模土塁らしき土山が存在するものの、延長上にあるC区では堀跡ないしは溝跡を確認できなかったため、秋山氏屋敷の東側については、15号溝跡が屋敷跡と想定される（図57）。15号溝跡については、18・19号溝跡とはほぼ並行する形で掘られていることから、中世段階からの土地区割りをある程度踏襲しつつ、屋敷地の造成が行われたようである。

また、1号堀跡と15号溝跡で区画される屋敷地内には、掘立柱建物跡及び柱穴列が重複して検出されており、数次にわたり建て替えが行われたものと考えられるが、区画外であ

る東側の状況については時期を断定できる遺構が検出されなかった。

時期的には土塁跡内部から16世紀末～17世紀初頭の瀬戸美濃・唐津・漳州窯系の陶磁器群が出土したことと、15号溝跡に隣接する18号溝跡の廃絶期を考慮すると、近世初頭には屋敷が形成されつつあったと考えられる。このことから、高畠への移転時期を慶長10年とする由緒とも大きなズレは生じていない。

### 近世第2期（18世紀前葉～19世紀前半）

1号土塁跡を利用しつつ、南側に6号建物跡が設けられ、東側は15号溝跡が廃絶し、代わって1号石垣が築かれる。6号建物跡は位置や建物構造からみて、絵図に描かれている長屋門と考えられる。1号石垣は調査区A・B区のちょうど境界から検出されており、現在の地境とほぼ重複する。石垣を隔ててA区側が一段高く、B区側が低い構造となっていたようである。不透明であった調査区東側には生垣跡と考えられる17・21号溝跡による小区画が形成され、1号石垣と17号溝跡の間には43～45号土壙を伴う5号建物跡が出現する。17・21号溝跡内側には柱穴列は確認できなかったものの、多数の柱穴が検出されているため、何らかの施設が存在した可能性が高い。A区北側で検出された3号土壙及び1号竪穴状遺構は、別々の遺構として記録したが、検出位置や検出状況から判断して、絵図にある層である可能性が想定される。

### 幕末～近代

A地区では建物群が機能を停止し、1・2・4号溝跡に見られるような畑の畝が確認されることから、耕作地となったようである。畑内には水溜や埋桶も検出されており、貯水施設等も存在したようである。明治40・43年に県下を襲った大洪水の砂層が調査区に堆積していたことから、畑の機能もこの段階で一時終了している。調査対象がこの段階までであったため、現代までの間は搅乱として扱われたため以降については言及を避けたい。

以上のように調査成果から大きく3つの二期が存在したと考えられ、秋山氏屋敷の変遷を概略的にまとめた。秋山氏屋敷の母屋は調査区北側に存在したと考えられ、地元での聞き取りでも昭和まで屋敷に存在した池跡が窪地として残されていたことが記憶されており、調査区は前庭空間であったと考えられることから、今回報告された遺構・遺物はほんの一部に過ぎないと考えられる。近世の村落遺跡については、県埋蔵文化財センターで調査された宮沢中村遺跡を始め、近年調査例が増加傾向にある。宮沢中村遺跡の場合は寺院関連の遺跡であり、本遺跡は名主クラスの人物の屋敷であったため、今後は社会の底辺を支えた作人層の屋敷に関わる調査例が増加することを期待したい。

### 2. 15号溝跡出土の陶磁器について

15号溝跡出土資料については、時期的に17世紀後半から18世紀初頭に位置づけられる土器・陶磁器群とともに木製品、金属製品といった当時の生活用品がまとまって出土している。特に南側ではかわらけや焙烙鍋等の土器類の集中箇所があり、何らかの理由により一括廃棄されたものと考えられる。

陶磁器の組成は、全体的に磁器に比べて陶器の割合が高いと言える。陶器の中でも美濃製品が55%を占めており、次いで肥前唐津製品が24%、瀬戸製品が21%となっている。美濃の中でも多くは下半田川村（現瀬戸市）の尾呂窯で生産された製品で全体の約8割を占めており、特に碗類の多くはいわゆる尾呂茶碗である。器種組成は碗を主体とし、皿、香炉、水注、片口鉢、徳利、仏飯器、土瓶など多岐に渡るが、碗類に比して皿が極めて少ない。

尾呂茶碗の出土状況は、過去にも甲府市内を始め県内各地で確認されているが、15号溝跡のように量的にまとまって出土したのは今回が初めてである。尾呂茶碗については『瀬戸市史 陶磁史篇六』で検討が行われ、「名古屋城三の丸遺跡では当該期の他の瀬戸・美濃焼に比べると量的に少なく、江戸や南関東でも、尾張藩邸を除くとほとんどみることができない。」とした上で、「東海地方では遠江・三河・尾張・美濃の村落部、さらに北関東や東北北部太平洋側沿岸の村落部では一定量出土しており、尾呂茶碗は、明らかに都市ではなく村落を対象に生産されている。」と述べられている。甲斐では甲府城下町内でも少ないながら出土するが、やはり他県の事例同様、郊外の村落内の方がよりまとめて出土する傾向が認められる。

流通経路については、『瀬戸市史 陶磁史篇六』では、享和2年(1802)尾張藩による陶磁器専売制度の導入に大きな画期を求めているものの、それ以前の流通状況については未だ不明な部分が多いようである。東海地方や関東、東北沿岸部へは海上輸送されたものが流通していると考えられ、内陸部にある甲斐、上野などは江戸後期の史料から分析すると、上野には江戸経由で陶磁器が搬入されていることが想定されている。おそらく利根川水系を利用したものもあるだろうと思われる。甲斐についても、やはり海運によりもたらされたものが富士川舟運により鰐沢河岸等を通じて荷揚げされ、各地に流通していたものと思われる。しかし、15号溝跡の主体年代である17世紀後半から18世紀初頭段階の流通経路は果たして江戸後期と同じといえるだろうか。

分布に特徴のある尾呂茶碗についてみてみると、甲斐や上野では出土量が多いのに対して、村落という共通の性格の遺跡群であるはずの江戸郊外や多摩地区、相模、駿河等での出土例は極めて少ない。また15号溝跡出土陶磁器に占める美濃製品の割合に比べ、擂鉢を除く瀬戸製品の割合が少ないところにも疑問点が残る。美濃製品が何らかの形で尾張藩及び名古屋商人を経由しているのであれば、同時に流通するであろう瀬戸製品の占める割合がもう少し高くて良いと思われるが、15号溝跡では肥前産の呉器手碗及び京焼風陶器碗が比較的高い割合を占めている。このような状況から江戸前期では美濃製品は瀬戸製品とは違う独自の販売ルートで甲斐に搬入されていた可能性も考えられる。

甲斐は美濃からみれば距離的に水陸どちらからでも輸送可能な位置にあり、船を利用した場合は美濃から桑名まで出て、駿河から富士川を上ってくる経路が最も妥当と考えられる。陸路を想定するのであれば、信濃経由で馬の背に荷を積んで輸送することとなる。江戸後期には信濃(高遠・諏訪方面)から甲斐へ米の輸送が盛んであったが、信濃への帰荷の中に瀬戸物の記載もあり、この頃には名古屋経由の船便の荷が富士川を上がって信濃まで流通していたことが窺える。史料内容だけみれば、海運を通じての流通とも捉えられなくはないが、逆に信濃までの移動距離を考えれば、美濃から甲斐への陸送も決して不可能ではなかったと思われる。仮に時代が下って美濃から甲斐への直接的な陸送があったとすれば、信濃でも北信濃や松本城下町近辺では尾呂茶碗はほとんど出土しないことから、中山道を利用しつつ、諏訪を分岐点として上野と甲斐へ枝分かれしていたと想定したい。残念ながら、中繼となる南信濃の状況が不明であるため現段階で断定は難しく、今後美濃製品の流通状況の把握につながる調査成果の蓄積を待ちたい。

肥前陶磁器の中ではいわゆる初期伊万里図31-194・195が確認され、図化できなかつた中には初期伊万里ではないかと思われる染付吹墨鷺文皿の破片も出土している。他の磁器類は17世紀後半~18世紀初頭のもので占められ、染付を主体として青磁、白磁、色絵のものも少ないながら出土している。磁器碗皿類は染付主体で、瀬戸美濃同様皿の占める割合が極めて低い。また、良質な磁器が少ない割に漆黒の痕跡を残すものが多く、破損したものも丁寧に修復して使用している様子が窺われる。そこまでして使用してきた肥前陶磁器

の廃棄と尾呂茶碗など安価であったと考えられる英濃製品の廃棄状況の背景には新たな製品の補充が考えられ、ちょうどこの時期前後から流通が活発化していた肥前磁器への切り替えがあったのではないかと考えられる。遺物の廃棄状況と年代幅、遺構の変遷を考慮すると、背景として柳沢氏による秋山氏召し抱え、ないしは柳沢氏の転封による村方支配への移行が契機となっていると考えられることから、15号溝跡出土陶磁器の年代は、柳沢氏在城の宝永7年（1710）から享保9年（1724）に設定できる。更に限定すれば、15号溝跡上層には洪水によると考えられる粗粒砂層が部分的に堆積していた。享保13年（1728）に大洪水の記録があり、15号溝跡は最終的にこの段階には埋没したと考えられる。

### 3. 秋山氏出土の鍋島焼について

一般に鍋島と言った場合、鍋島藩によって将軍家への献上品や大名への贈答品として厳しい管理体制のもと生産されていた高級磁器を思い浮かべる。したがって、当遺跡のような村落遺跡から出土することは鍋島本来の性格からすれば極めて特異な例と言えるが、大名屋敷以外の場所から出土した鍋島については、水本氏により興味深い検討がなされている（水本1998）。氏は消費地における鍋島を集成する中で、下級武士や町人地等からの出土例を取り上げて「鍋島」の様相や性格について言及している。更に18世紀後半以降町家で検出される鍋島が木盃形の染付皿であることに着目し、文様の構成も柳文・岩牡丹文・菊文に裏文様は七宝結文、高台は櫛目文に限定されてくることから、町人向けに商品として販売されたものが存在する可能性を示唆すると同時に、江戸後期以降鍋島というブランドの価値が低下したことを指摘している。

その上で本遺跡から出土した図27・71をみると、文様は染付菊文皿で裏文様は七宝結文に高台が櫛目文で、器形も木盃形であるため、氏の指摘する町家等で出土している鍋島とまったく同じ文様構成であると言える。類例に新宿内藤町遺跡出土資料があり、時期的にも18世紀後半以降のものと考えられる。甲府ではこの他に同様の鍋島が平成7年度に調査された甲府城関係遺跡でも1点出土している（図59）。甲府城関係遺跡は18世紀前半には柳沢氏の國家老であった柳沢権太夫保格の屋敷の一部であり、柳沢氏転封後は山之手勤番支配役宅として機能していた甲斐の政治中枢に近い場所であるが、鍋島の時期からすると山手勤番支配役宅に存在したものと考えられる。価値の低い菊文皿であるのは江戸から派遣される勤番士の階級によるものと考えられる。それでは本遺跡の場合はどうだろうか。

18世紀後半段階の秋山氏は、大和郡山に移動することを選択せず、在地にあって村方三役として名主ないしは長百姓の地位にあり、幕府機構の末端に位置していた。出土した鍋島は、水本氏の指摘する価値の低いものであるため、商品としての購入も充分考えられる。しかし、出土地点や数量からみて、大量生産され誰でも簡単に入手できるものではなかったと推測され、鍋島の中では価値の低い製品であったとしても、鍋島という商品価値自体は他の製品に比べ高かったものと考えられる。したがって、甲府における商品流通の流れが不明な状況下で、江戸を離れた甲斐の一村落での入手法を考慮すれば、商品として購入したものとは断定しがたい。むしろ村役人としての側面を捉えれば、商品としてではなくあくまで下賜されたものとして位置づける方が考え易い。秋山氏は奉公願書に柳沢吉里により絞付土器の御盃等を拝領し、今でも所有していることを記しているため、柳沢氏段階では実際に秋山氏への下賜行為が行われていたようである。絞付土器の御盃が如何なるものであったか不明であり、現段階での年代観からも今回検出された鍋島とは残念ながら断定はできない。鍋島藩から直接贈与される可能性はないため、二次的、または三次的な下賜品としての性格が高いことを示唆しておく。

（佐々木満）

近世第1期



近世第2期



図57 秋山氏館跡近世遺構変遷図

秋山氏館跡15号溝跡陶器

产地	器種	破片点数
美濃	碗	48
美濃	小碗	5
美濃	皿	2
美濃	片口鉢	5
美濃	香炉	5
美濃	仏壇器	5
美濃	小茶	1
美濃	徳利	1
美濃	水注	1
美濃	土瓶	1
瀬戸	碗	15
瀬戸	擂鉢	11
瀬戸	片口鉢	3
肥前	碗	28
肥前	皿	2
肥前	鉢	1
肥津	碗	1
肥津	鉢	1
合計		136

秋山氏館跡15号溝跡磁器  
(肥前のみ)

種別	器種	破片点数
染付	碗	31
染付	小碗	2
染付	皿	3
染付	大皿	1
染付	端反皿	1
染付	仏壇器	4
染付	小香炉	1
染付	猪口	1
染付	徳利	10
染付	灰茶壺	1
染付	油壺	1
染付	不明	4
青磁	瓶	1
青磁	丸碗	1
青磁	折縁皿	1
白磁	大碗	1
白磁	小杯	1
色絵	徳利	3
色絵	油壺	1
合計		69

碗皿产地別割合

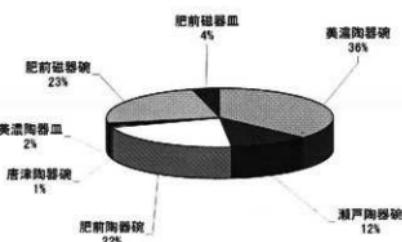


図58 15号溝跡陶磁器一覧・碗皿产地別割合



図59 甲府城関係遺跡出土鍋島



## 第5章 結語

調査の結果、出土遺物からみると古墳時代から近現代まで連続と続く土地利用が裏付けられたものの、検出された遺構群は時期的に大きく3つの二期が設定され、前章において古代・中世・近世として時代別に本遺跡の状況を整理し、若干の考察を加えた。

古代では甲斐型IX・X期を主体とする集落に関連すると思われる溝跡を確認したが、我々の力量不足から充分な調査を行うことができないまま発掘を終了している。そのため全体像の解明までは至らなかったものの、少なくとも本地区北側には9~10世紀段階に古代寺院を有する大規模な集落が展開している可能性が高くなった。また、東西方向に延びる大溝跡も条里地割の一部とみられ、規模と溝跡覆土の堆積状況から水の流れは緩やかであったと考えられる。荒川を始めとする付近の河川が当時どの流路であったのかは定かではないため推測の域を脱しないが、おそらく本遺跡の西を流れる沼川と荒川本流を結ぶ水路として利用されていたものであることも考えられ、人や小規模な物資を運搬する程度の小船が航行可能な規模であったと想定される。

中世では時期的に15世紀から16世紀にかけて営まれた墓跡や火葬場が検出されている。土壙墓と集石墓が同時に検出されているが、調査区を中央から南北に分けると北側に土壙墓、南側には集石墓が展開する領域が存在し、住み分けがなされていることがわかった。集石墓は、B区18・19号溝跡付近を挟んでA区側とC区側に分かれしており、異なる造墓集團が存在していた可能性がある。時期的には土壙墓・集石墓とも年代決定資料となる遺物が少ないので、土壙墓については六道銭と考えられる錢貨の副葬がみられたが、22号土壙には永樂錢が一枚含まれていた。集石墓には大窯段階の灰釉皿の底部が出土していることから16世紀中葉までに造営されたものがあることが明らかになり、銭と数点の遺物だけで判断しかたいが、土壙墓と集石墓が概ね同時期に登場することが想定できた。しかし、集石墓自体も、掘り込みを石組で囲むものと、石組を持たず石を集めて投げ込んだだけのものと3類型に分類できるため、時期差が存在する可能性もある。石組を伴うものには確認段階で掘り方周囲に薄い白色の細粒砂層が確認されたが、砂質の土壤であり、造墓当日に雨が降ったために形成されたものと考えられ、墓穴を掘り、石組をして納骨するまでに時間差があったことも想定できた。墓域自体が何らかの理由で機能を停止したのか、意図的に墓域を破壊する目的であったか定かではないが、墓地群を破壊する形で8・11・12号溝跡に区画される4号建物跡が登場する。共伴する遺物が少なく、正確な時期設定はできないが、集石墓の廃絶時期と調査区全体での大窯3段階の遺物群のまとまった出現状況を考慮すると、16世紀後半以降の土地利用に大きな変化が起ったものと考えられる。

出土遺物からみると、市内の武出氏館跡や城下町等では大窯1・2段階の瀬戸美濃が多く、3段階以降については極めて少ない。しかし、本遺跡では大窯1・2段階の製品が少なく、3段階以降のものが比較的まとまっている。中でも静岡で生産された初山窯の製品は県下でも類例がほとんどなく、当時の物流を考える上で貴重な発見となった。

近世については、中世から続く郷上で、江戸後期には高畠村の村方三役を歴任した秋山氏の畠敷前庭部が調査され、江戸期における甲府城下町郊外の村役人の生活を知る貴重な資料が検出された。特に15号溝跡出土資料は土器・陶磁器に加え、漆製品もまとまって出土した括資料であり、時期的にも17世紀後半から18世紀初頭と限定される。今後の調査研究において甲斐における一つの指標となろう。陶器は尾凸窯の製品がまとまって出土している。県下でも農村部を中心に出土が確認されていたが、今回のようにまとまった量が出土したのは初めてで、当時の流通を考える上で様々な問題を提起してくれた。

近世遺跡の取り扱いについては各自治体の判断するところとなつたが、ともすればこうした近世村落は調査対象としては最初に除外される可能性が高い遺跡である。近世に限らず、当時の社会構造を明らかにする上で、社会基盤の根底となる村落遺跡を無視する訳にはいかない。その意味ではより実証的な歴史を語るための材料として、今回のような調査事例が増加することが望ましいが、同時に村落遺跡そのものの価値や評価について今後問い合わせなければならないだろう。

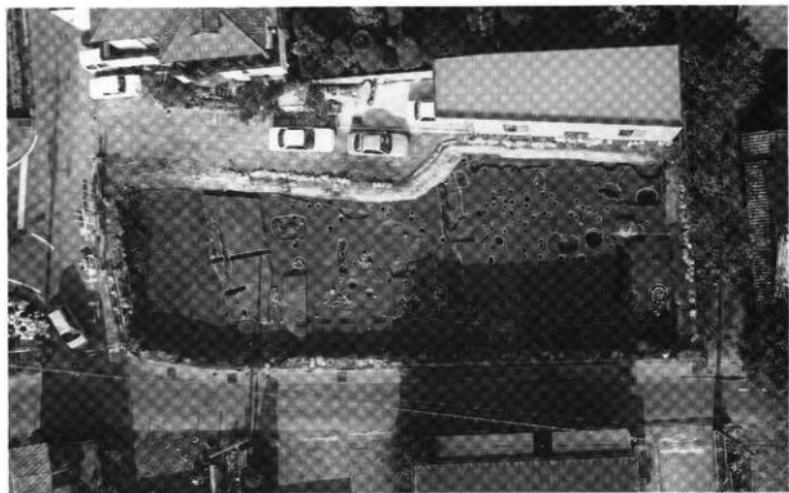
(佐々木満)

## 引用・参考文献

- 雄山閣 1982『甲斐国志』第2巻  
佐賀県立九州陶磁文化館 1984『国内出土の肥前陶磁』  
坂本美夫 1984『甲斐の都(評)郷制』『研究紀要1』山梨県埋蔵文化財センター  
木木 健 1986『甲斐國巨麻郡の成立と展開』『研究紀要3』山梨県埋蔵文化財センター  
八巻與志夫 1986『古代甲斐国の郷配置の基礎的操作』『山梨考古学論集1』  
山梨県考古学協会  
甲府市役所 1989『甲府市史史料編第5巻 近世IV』  
甲府市役所 1991『甲府市史通史編第1巻 原始・古代・中世』  
韮崎市教育委員会・岐北土地改良事務所 1991『宮ノ前第2遺跡・北堂地遺跡』  
山梨県教育委員会・山梨県商工労部 1990『桜井畠遺跡A・C地区』  
甲府市役所 1992『甲府市史通史編第2巻 近世』  
韮崎市遺跡調査会・韮崎市教育委員会 1992『宮ノ前遺跡』  
山梨県考古学協会甲斐型土器研究グループ 1992『甲斐型土器—その編年と年代—』  
第1回研究集会資料 山梨県考古学協会  
平野 修 1992『山梨県内出土の墨書き土器と線刻土器』『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第4集 帝京大学山梨文化財研究所  
瀬戸市役所 1993『瀬戸市史 陶磁史篇四』  
古代の土器研究会編 1993『古代の土器2・都城の土器集成II』  
豊島区教育委員会 1994『染鶴I』  
今井恵昭 1994『地下式壇出土の石臼について』『研究論集VIII』東京都埋蔵文化財センター  
東京都埋蔵文化財センター 1994『丸の内三丁目遺跡』  
山梨県教育委員会・山梨県林務部『孤原遺跡』 1996  
木村弘之 1997『中世墓の種類と変遷』『静岡県における中世墓』静岡県考古学会  
東京都埋蔵文化財センター 1997『汐留遺跡I』  
東京都埋蔵文化財センター 1998『島屋敷遺跡』  
豊島区教育委員会 1998『伝中・上富上前II』  
水本和美 1998『消費地遺跡出土の鍋島』『東京考古』16 東京考古談話会  
瀬戸市役所 1998『瀬戸市史 陶磁史篇六』  
群馬町教育委員会 1999『井出地区遺跡群』  
金沢市教育委員会 2000『打木町東遺跡』  
山梨県教育委員会・日本道路公団東京建設局 2000『石橋北尾敷』  
山梨県教育委員会・日本道路公団東京第二建設局 2000『宮沢中村遺跡』  
九州近世陶磁学会 2000『九州陶磁の編年』  
韮崎市教育委員会・岐北土地改良事務所 2000『石之坪遺跡』  
山梨県教育委員会・山梨県土木部 2000『横森赤台(東下)遺跡』



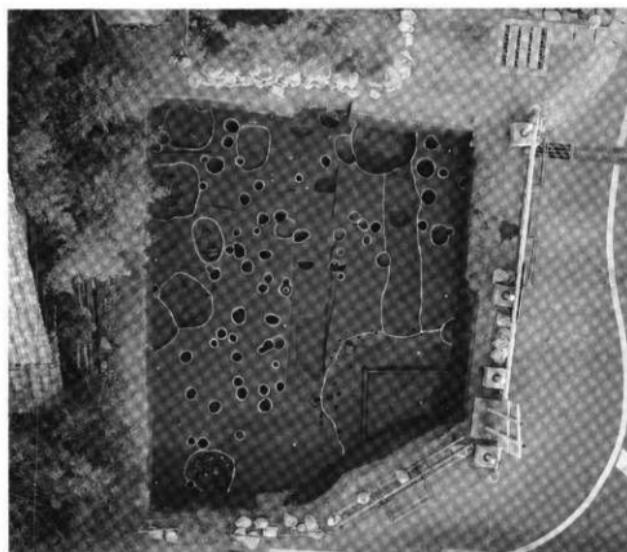
調査区全景



A地区全体写真



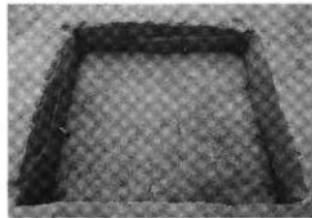
B 地区  
全 体 写 真



C 地区  
全 体 写 真



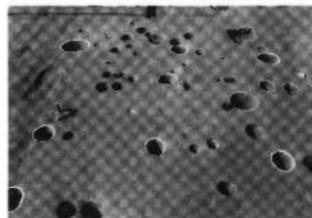
A 地区  
全 景



1 号水溜状  
遗構



1 号堀跡  
1 号土壠跡



3 号建物跡



1 号堤跡護岸



6 号建物跡



1 号・2号溝跡



8 号溝跡



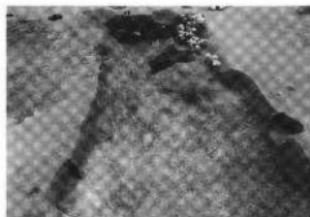
9 号溝跡



22 号土壤



30号土壤



13号沟跡



35号土壤



35号土壤



2号集石  
遺構



4号集石  
遺構



3号集石  
遺構



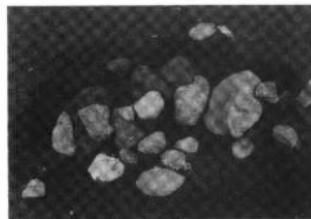
3号集石  
遺構



6号集石  
遺構



3号·6号集石  
遺構集合



5号集石  
遗構



7号集石  
遗構



8号集石  
遗構



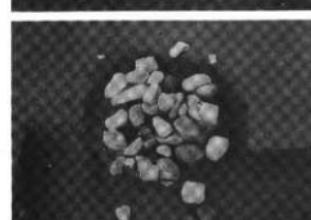
9号集石  
遗構



10号集石  
遗構



13号集石  
遗構



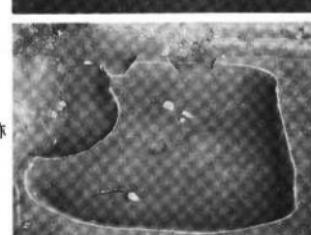
11号集石  
遗構



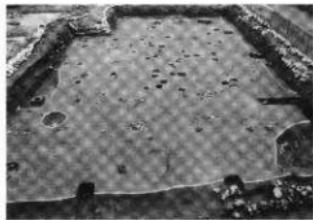
11号集石  
遗構断面



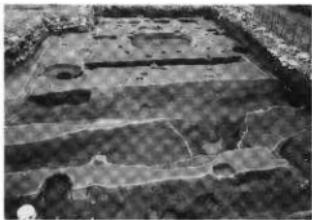
2号井戸跡



3号土壤  
1号竖穴状  
遗構



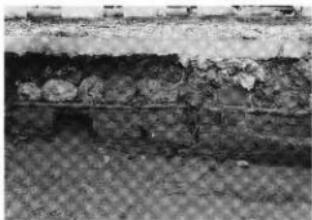
B区全景  
(1回目)



B区全景  
(2回目)



1号石垣  
14号溝跡



1号石垣



15号溝跡



18号溝跡



19号溝跡確認状況



19号溝跡



17号溝跡



20号溝跡



15号・18号  
・19号溝跡



18号・19号  
溝跡断面



15号溝跡  
石積



15号溝跡  
出土遺物



15号溝跡  
断面



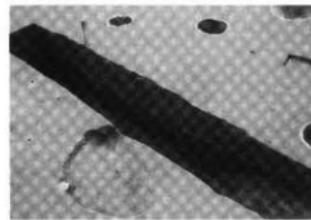
19号溝跡  
断面



22号溝跡  
サブレンチ



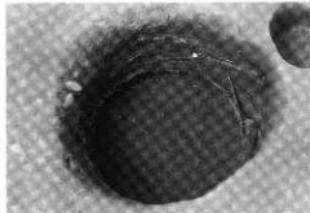
22号溝跡  
サブレンチ



22号溝跡  
サブレンチ



22号溝跡  
サブレンチ



44号土壤



57号土壤



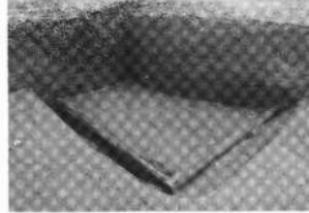
61号土壤



4号竖穴状  
遗構



C地区  
全 景



2号水溜状  
遗構



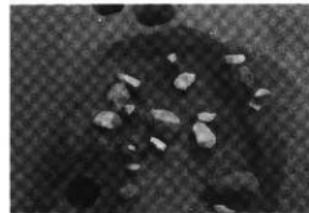
75号土壤



75号土壤



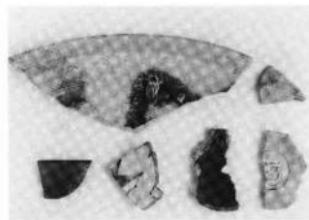
74号土壤



15号集石  
遗構



1号堀跡



1号土星跡



14号溝跡  
鍋島



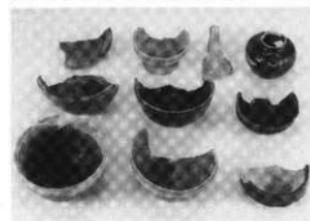
15号溝跡  
肥前磁器碗



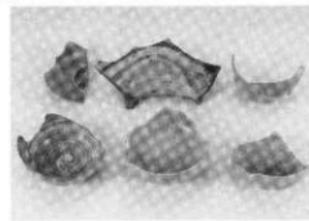
15号溝跡  
肥前磁器



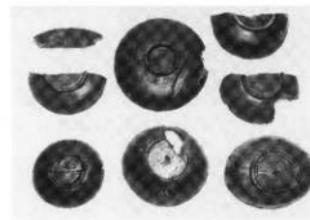
15号溝跡  
初期伊万里



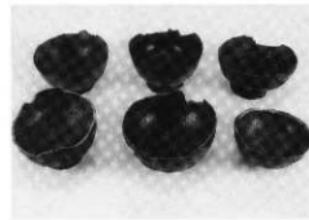
15号溝跡  
美濃陶器



15号溝跡  
肥前・唐津  
陶器



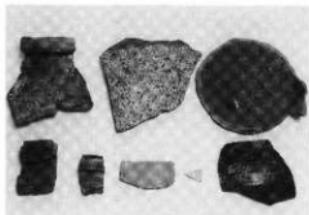
15号溝跡  
漆椀蓋



15号溝跡  
漆椀



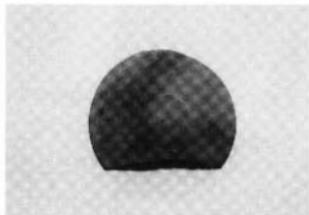
18号溝跡  
陶器



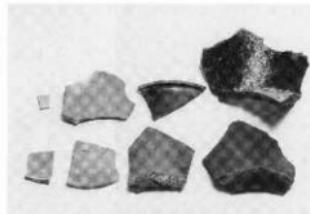
19号溝跡  
陶磁器



19号溝跡  
在地土器



22号溝跡  
墨書き土器



22号溝跡  
灰釉・綠釉  
陶器、須恵器



22号溝跡  
甲斐型土器



平成11年度  
参加者



平成11年度  
参加者



平成11年度  
現地説明会



平成12年度  
参加者

## 報告書抄録

ふりがな	あきやましやかたあと					
書名	秋山氏館跡					
副書名	甲府都市計画街路高畠町界仙峠線建設工事に伴う発掘調査報告書					
卷次	-					
シリーズ名	甲府市文化財調査報告書					
シリーズ番号	16					
編集機関	甲府市教育委員会					
所在地	〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番1号 電話 055(223)7324					
発行年月日	平成13年3月30日					
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間
		市町村	遺跡番号			調査原因
あきやましやかたあと 秋山氏館跡	山梨県甲府市 高畠一丁目	19201	181	35° 38' 50"	138° 34' 0"	19990621 ~ 20001221
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	特記事項		
秋山氏館跡	城館跡	中世	壇跡・土塁跡・迷物跡・ 清跡・集石造構・ 井戸跡・堅穴状造構・ ピット土壤	平安 寺院関連遺物 中世 集石塁と土墳墓群 近世 村方三役を勤めた秋山氏 屋敷関連の遺構遺物		

### 甲府市文化財調査報告書16

## 秋山氏館跡

—甲府都市計画街路高畠町界仙峠線建設工事に伴う発掘調査報告書—

平成13年3月30日

発行 甲府市・甲府市教育委員会

〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番1号

TEL 055 (223) 7324

FAX 055 (226) 4889

印刷 株内山印刷所

〒400-0032 山梨県甲府市中央二丁目10-18

